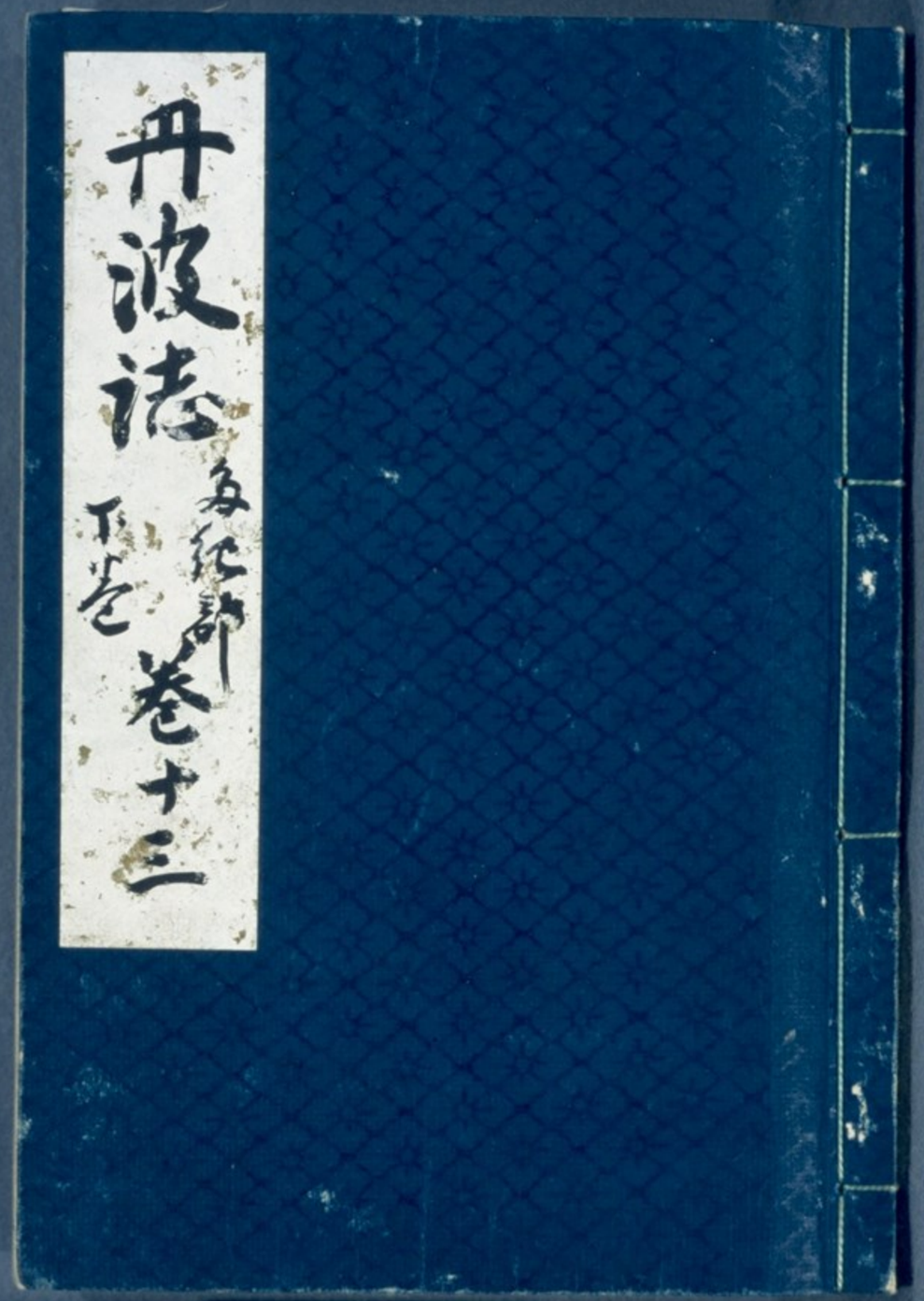


京都府立総合資料館所蔵

特
992
31
13

○北村先生編　丹波誌　一部拾五卷

先生に請ひて二部を淨寫し
京都帝國大學圖書館と京都
府立圖書館に各一部を寄託
す

大正拾四年七月一日

北村龍象先生喜壽會

（北村先生喜壽會結末報告書を添附す）

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

多紀郡（五之巻）

福住村

福住村　大字　福住村　小野　新田　奥谷村　小野
奥村　箱谷村　二ノ坪村　藤ノ木村　惣路村　奥
原村　安田村　本明谷村　川原村　安口村
西野々村　下原山村　中原山村
村ハ郡ノ最東ニアリテ北ニ大芋村アリ西ニ村雲
村日置村アリ西南僅ニ後川村ニ接スル而シテ東方
ハ船井郡ニシテ南ニ攝津ノ豊能郡アリ　本郡東
部ノ中心トシテ篠山ニ亟グノ要地タリ往時山陰
道ノ本路ニ當ルヲ以テ有名ノ驛トス
縣道　西方飛雪山峠ヨリ此所ニ來リ西野々ニテ
二途トナリ右ハ天引峠ヲ經テ船井郡ニ往キ左ハ
原山峠ヲ經テ同郡ニ往ク

京都府立総合資料館所蔵

大字　福住村　高四百五十五石　篠山藩領　明治初年マデ　屆出家數二百七十餘　戸數六百三十一
人數三千二百〇五人　明治三十八年
戸數　大百〇三　人數　三千二百〇〇　同四十年
同　五百九十八　同　三千百七十四　大正四年
貨物ノ集散地ナルヲ以テ半農半商ノ者過半トス
此ノ内ニ運輸ヲ兼ヌルモノ又コレアリ米商三戸
秋穫後ヨリ春季ニ渉リ日々三十石乃至四十石ノ
新穀ヲ輸出セリ明治初年搬運ノ車道ハ篠山ニ通
ズルモノ而已ナリシガ車道ノ開鑿アリテヨリ車
載シテ原山峠ヲ越エ船井郡黒田ニ至リ舟載シテ
保津川ニ入リ流レニ乗ジテ山城ニ下ルノ便ヲ得

タリ
岩坂山　口碑ニ由レバ此ノ名所ハ往時コノアタ
リノ山ト云フ主基方ノ歌トテ夫木集
[illegible]
承元々年大嘗會主基方丹波桂山此ノ山モ此ノ
邊ト云フ
[illegible]
永寶元年大嘗會
久方の月の桂の山人もとよのありあけの影
警察署　銀行　運送會社　旅亭　諸商　尋常高
等小學
道程　神戸元標　十八里十二町十六間

京都府立総合資料館所蔵

古市標柱　五里二十八町十五間
篠山標柱　三里六町四十二間
西野々管轄界標　一里二十八間
大坂　十三里　馬車篠山ヘ往復

生計ノ度近村ニ比較スレバ頗高シ小民ハ衣食ノ資ヲ山林ニ取リ無盡ノ藏寶ヲ得ツヽ在リ深山幽谷ノ薪木ハ之ヲ此ノ地方ノ酒造家ニ售リ遠キニ輸スノ勞ナクシテ平均一日四十錢ヨリ六十錢ヲ手ニス明治八年ニ十之ヲ中男ノ働トス力量逞キモノハヨリ多クノ資ヲ獲　近傍ノ山丘ニ青草ノ富アリ小民ハ春期ヨリ初冬ニ到ル間コレヲ刈リコレヲ賣リ優生計ヲ立ツ生計ニ優ナルヲ以テ來リ住スルモノ加ハリ遂ニ田舍ニ稀ナル町形ヲ成セリ移住者ニシテ金一圓ヲ村ニ納ムレバ村有無盡藏ノ寶貨ハ鎌ノ先ニテ苅ルベシ

産物　五穀　薪炭　小栗　蘿蔔　高野豆腐　掣

杉　黄連

黄連ノフハ船井郡川合村ノ部ニ示ス小竹ニシテ學杉ト共ニ漢方醫ノ藥材タリキ今ハ深料トシ學杉ハ下駄ノ材トス蘿蔔ノ大ナルモノ一貫匁ヨリ三貫匁ニ至ル尾張大根ト同質ニシテ味甘軟ナリ其ノ栽培スルヤ日蔭四五尺ヲ試ウル間ニ蘿蔔一本ノ割合ニス此ノ産地數町歩ニ過ギズ其ノ密植スヿヲザルヲ以テ産額寡少ナリ

京都府立総合資料館所蔵

仁木兵部大輔成長文安年中ニ丹波守護職トナリ桑田郡ノ外五郡田八千七百四十町所役米一万五百八十七石五斗三升六合二勺余ヲ領ス此ノ米四斗入二万六千四百六十八俵余

○桑田郡山国庄二千百十四町政所領ニテ守護領外ナリ

仁木定紋

居城此ノ地ニアリ京都居館東洞院遠屋所仁王門ノ邊ニアリ

冬季年首ノ贈物トシテ篠山ニ出ダス外ハ締ニ大阪ニ於テ之ヲ見ル輪切ニシテ直徑五六寸ノモノ風呂吹ニシテ尤嘉シ

城迹　村北ニアリ粟井川東方ヨリ回流シ其ノ下ヲ進ム城山ト呼ビ北山トモ呼ブ天正年中粟井越中守敖業據リテ武ヲ一方ニ揮ヒタルガ波多野氏ノ勃興シテ室町氏ノ右職タルヨリ之レガ旗下ニ入リ常ニ其ノ東方先鋒ト爲リハ上城ニ移リ亀山ヲノ亀岡城ニ在ル波多野秀尚ヲ輔ケテ攻メ籠ム織田勢ヲ悩マスコト累次ナリ由リテ東軍ハ越中守ヲ丹波ノ青鬼トス所ハ黒田ノ城主赤井悪右衛門尉直政ノ綽號赤鬼ニ對照シ此ノ二人ニ對戰スル時ハ地獄ニ落チタルト心持ニナルトノ意トカヤ色モテ形容シタルハ頗色ニヤ將ク鎧兜ノ色ニヤ

粟井兵庫頭光秀モ亦波多野ノ被官ナリシガ波多野ノ亡後此ノ國ヲ去リ參河國西尾ニ移リ仍リテ西尾氏ト改メ子光信孫某ニ至ル某ハ外祖西尾光教ノ子トナリ美濃ニ移住シ揖斐城ニ居リ出雲守ト稱ス

慶應四年一月三日官軍ノ伏見鳥羽ニ捷ツヤ早馬早駕ノ此ノ地ヲ經過スルモノ又ハ此ノ驛ニテ次ギ立ラスルモノ數十ナリ是レ京阪ノ篠山ニ注進スルト柏原ノ他諸藩ヘ傳達スルノ使者等ニテ正月三ケ日ニモ似ザル騒々敷キ樣子アリ頗テ矣

京都府立総合資料館所蔵

士數名卒數十人ヲ率ヒタル一隊長某園部ヨリ来リ村役人ヲ呼ビ官軍ナルヿヲ告ゲ且此ノ地ヲ以テ宿陣トスル旨ヲモ告ゲ鎮撫総督トシテ正三位西園寺公望卿ノ旅館以下隊長ヨリ矢率ニ至ルマデノ止宿所焚出等ノヿヲ幹旋セシム後前須主篠山藩ノ命令ノミ是レ仰ゲル村役人ナレバ大ニ驚キ周章狼狽シツヽ奔走スル内ニ又一報アリ摂津方面ヨリ来ル曰ハク幕府方若州藩ノ軍勢推シ寄セ来ルト流言百出人心洶々タリ少時ニシテ陣太鼓ノ響原山峠ヲ越エ下リ人馬ノ音亦聞ヿヲ盛風堂々一隊又一隊大将ヲ馬上ニ擁シ来リテ設ケノ旅館ニ入ル正月九日

篠山藩ハ去ル三日京都ニ慶事アルト聞キ幕軍ニ赴援セントテ亀山マデ進軍シタルニ後前ノ京都騒動トハ事替ハリ幕軍敗走東帰セリト聞キ帰城シタル折柄ナルヲ以テ嚮背判然タラス且若州侯ニ千ノ兵ヲ引キ大阪ヨリ帰國スル途次天王村ヨリ至ルヿ確知セラレタレバ官軍隊長小笠原美濃介弾令シ天王路ヘ出矢シ敵ヲ險ニ迎ヘ打タントノ形勢ヲ示シ炬火ハ天ヲ焼カンバカリニ焚カシメ晝夜軍威ヲ輝カシ村民ニ炬材ヲ徴発シ悪ゼザル者ノ家ヲ焼カシメントス是ニ於テ炬火ノ料一タニ山路ヲ埋ム若州君臣ノ情大ニ沮ミ重臣謁ヲ軍門ニ請ヒ事断ノ解ヶ賀ヲ納レテ北帰シ官軍コレヲ

京都府立総合資料館所蔵

見テ旗鼓ヲ建テヽ篠山ニ向フコレヲ十一日ノ丁トス村情稍静マリ乱ヲ避ケ近村ヘ赴キタルモノ又山中ニ逃隠シタルモノ次第ニ帰住シ十五日ニハ各自々家ニ於テ残リ正月祝ヲナシタリ之ヲ御一新ノ村驗トハ言ヘリ

大字　奥原山村　高百三十五石六斗七升三合

亀山藩領

牡丹餅茶屋　天引峠ヲ西下シ下リ盡クル所ノ西側ニ一茶店アリ山中寂寞ノ境ヲ出デヽ茲ニ初メテ休憩スベキ旅客ノ毒ヤ知ルベキナリ況ンヤ赤團々否赤平々ノ美アルオヤ上戸客スラ往々一箸ヲ取ル　往時二個十文即チ今ノ一厘ニテ銭ヲモ交ゼ

用ヒタル慣ニテ一尺ノ木盃ニ二個ヲ載セテ更ニ餘地ナシ其ノ二個ヲ食ヒ盡クセバ以テ一食ヲ減ズベシ其ノ沙糖ヲ上ニ置クハ往新後ノ事トス

原山峠ノ車道開鑿セラレテヨリ本街道西街道ノ天引植生宮川等ヨリスルノ驚道古驛ハ人行減ジ行路草長ズルマデニ寂レ果テ名物ノ牡丹餅モ店ト共ニ伜ヲ矢ヘリ

大字　二ノ坪ハ村ノ西方ニアリ高三百十八石

篠山藩領

熊野神社　式内　文武天皇大寶二年三月八日紀州熊野ヨリ神靈ヲ勧請ス祭神　素盞雄尊　合祀伊弉冊尊　早玉男命　事解男命　氏子二ノ坪外

京都府立総合資料館所蔵

河原村

大村

貞観五年近國ニ疫病流行スルヲ以テ祈願シタル
ニ神託アリ由リテ八月朔日ニ神酒ヲ供シ相撲ヲ
興行ス爾後毎年八朔ヲ以テ祭日トス天正ノ兵燹
ニ罹リ延寶五年再造ス

農業出精者　百姓　惣助　天明八年々五十八歳
主ヨリ褒美アリ

大字　河原村　高二百七十三石

硫鉄鑛ノ産物アリ

住吉明神社　福住本明谷ニ之ヲ祭神トス　祭禮
舊暦六月晦日ト九月十三日ト　兩部神道ノ時ニ
ハ清住山先森寺ト稱セリ　社用ノ梵鐘ハ境外ニ

西野々村

孤立シ今ハ頽火用トナル祠前ニ青黄色ノ石アリ
百姓惣助ノ妻ツネ　孝行ヲ以テ褒賞セラル　天明三年
四十九歳

農業出精者　百姓　彌矢衛三十五　六右衛門五
十三　天明八年褒美

大字　西野々村　高四百五十二石四斗九升九合

亀山藩領

天滿天神社　松森山神宮寺ト稱シ謂ハ所ル宮寺
ニテ境内竪六間幅五間ノ無祝地ニシテ無證文地
ト呼ベリ昔時京都北野ヨリ菅公ノ分靈ヲ得テ齋
キ祀リ末社ニ紅梅社老松社ナド北野ニ似寄セテ
作リタルモノトカヤ

京都府立総合資料館所蔵

中原山村

八幡社　竪二十間横七間ノ社地許多ノ森林アリテ無祝ナリ

此ノ地ハ篠山ヨリ一直線ニ東行シ来レル宦道アリテ村外ニ於テ分岐シ右スルモノハ亀岡ヘ左スルモノハ園部ニ至ルベシ

大字　中原山村　高百六十八石八斗九升六合

亀山藩領

山王権現社　舊稱梅香山神宮寺ト稱シ天台宗本尊阿彌陀佛ハ惠心ノ作ト云フ　末社ニ天照皇太神宮アリ八幡大菩薩春日大明神アリ韓財天女惠美須等モ祭シリ　境内三畝五歩　山林四千坪無祝地ナリキ

助郷ノ事ニ付安政二年卯十二月十七日幕府評定所ニ於テ藩ノ留守居ヲ呼出シタルニ留守居代人ノ荒木一藤太出頭ス幕府ノ勘定奉行ヨリ左ノ書面ヲ達ス

丹州多紀郡奥原山村外一ケ村

右村々之儀去ル丑年中東海道草津宿助郷江州栗太郎上笠村外十二ケ村囲窮ニ付勤高之内五分通休役右代リ同年閏五月中當分助郷嘱當ハ屢請印ヲ差拒又者請印を以あしハ得共不勤等ハ〻しハ趣同宿役人共申左領主本多主膳正より美濃守殿へ進達相成此程右書面御下ケ有之ニ付今般村々呼出し急度も可申付之處遠路出府

京都府立総合資料館所蔵

も可為難儀ハ間格別之譯を以此度ハ領主役場
おゐて村々へ申諭請印ハ勿論人馬無滞差出是
迄不勤分ハ急度可勤埋若其上にも不勤ゐ如し
ハ越相聞ハハヽ早々呼出嚴重ニ可及沙汰ハ間
其段可相心得旨村々役人共へ可申渡ハ、

御勘定奉行兼道中奉行
　　都築駿河守
　　澁口伊勢守

御勘定組頭
　　石原順之助

御勘定
　　羽鳥八郎

下原山村
安口村

卯十二月七日　　浅島留之丞

助郷トハ夫役ニテ村高ニ應シ相應ノ人數ヲ出タ
シ道中運搬ノ事業ニ服セシメラルヽ稱称ナリ文
中ノ領主本多主膳正ハ草津ノ領主膳所侯ニテ美
濃守ハ老中ナリ

大字　下原山村　高三百五十二石八斗一升一合
　　亀山藩領
大字　安口村　高三百四石三斗八升七合　亀山
　　藩領

安口ヲ渡多賀須ト讀ムハタカスハ小魚ノ名ニテ
此ノ邊ノ水ニ住ム具ノ形鰒鰯ニ似タリ鰒鰯ガ安

京都府立総合資料館所蔵

安田村

康トナリ遂ニ又安口トナリタルニモヤ

大字安田村　高三百廿石　産物氷豆腐文久ヨリ同領

百姓　兵助　農業出精ヲ以テ天明八年褒賞ヲ下

賜セラル年四十六

藤ノ木村

大字ノ藤ノ木村　高二百二十一石　篠山藩領

百姓　利八　孝行ヲ以テ天明八年褒美ノ下賜ア

リ年四十九

本明谷村

大字　本明谷村　高二百五十三石　産物蕨粉　同領

小野奥村

大字　小野奥村　高百八十七石　同領

奥谷村

大字　奥谷村　波多野秀範ノ居城セシ所ノ篠山町都考畧

川流一系村ノ東北大芋村界ナル三国ヶ嶽ニ発源

シテ南流シ奥原ニテ西ニ折レ村中ヲ横断シテ村

雲村ニ入リ篠山川トナリ氷上郡ニ下ル　此ノ一

川此ノ村ノ農業ノ命脈トナリ田畑ニ灌漑ス

田三百三十九町四段　畑二十町六段

宅地八萬一千九百八十坪　山林原野一千五百七

十八町一段　其他十三町二段

納税額　直接國税八千七百五十七圓　県税四千

一百九十五圓

京都府立総合資料館所蔵

日置村　大字　上宿村　井上村　八上々村　八上新村　西庄村　野々垣村　曾地口村　曾地中村　曾地奥村　宮前村　畑市村　畑井村　北鳴村　辻村　小中村

村ノ地位ハ東ニ福住村アリ北ニ村雲村雲部村畑村城北村アリ西ニハ上村アリ南ニ後川村アリ

北方ヨリ来ル一條ノ道路ニ沿ヒ長ク細キ耕地アリ四面山嶽ニ包マル故ニ古キ高帳ニ於テモ石數屢々ナルヿ後示ノ如シ

戸數　七百三十八　明治三十八年　七百二十三　四十三年

七百〇七　大正四年

人口　三千七百四十七　右同年　三千七百二十四

京都府立総合資料館所蔵

明治四十三年　三千八百七十七　大正四年

田四千〇一町六段　畑三十二町一段　宅地九萬五千二百二十八坪　山林原野一千二百二十八町一段

直接國税二千三百八十九圓　縣税四千一百九十五圓

往昔ノ日置莊ハ此ノ一帶地方ナルベシ　日置部ハ國郡制ル處ニアリ歳時歴日干支等ヲ管治シ之ヲ人民ニ教エ且ツ授ケタル所ト云ヒ委日置ハ幣岐トモ書キ字義アルニ非ズト

國老日置公檢校日置公擬大領日置公ナド氷上郡ニアリ日置村ハ南桑田郡ニアリキ古来郡内ニ於ケル繁華ニ誇リタル所ナルガ八上高城ノ築成後其ノ趣ヲ失ヘリト云フ

高帳寫　二百十四石上宿村　百七十三石井上村　七百三十二石八上々村　三百九十九石野々垣村　二百三十八石宮ノ前村　四百二十石辻村　百九十九石ふ田中村　百九石畑井村

波々伯部神社　宮ノ前村ニアリ村名ハ社名ニヨリ起ヌル此ノ村ノ起ヌルヨリ前ニ此ノ神社アリタリトモ云フ老松古杉蓊鬱タリ境域廣弘ニシテ社殿壯重ナリ　傳説ニ由レバ天平五年播磨國飾東郡廣峰ヨリ素盞雄尊ノ靈ヲ京阪ノ今ノ八坂ニ移スノ途中其ノ白幣ヲ分ケテ此所ニ齋キ祀レルヲ

京都府立総合資料館所蔵

起因トス爾後八坂社ト呼ビ神佛混淆以來祇園ニ
社トナル今ノ鳥居ニ掲ゲタル扁額ハ純神道ニ還
ヘリタル際賀陽宮邸ヲ明治天皇ノ皇伯ナル朝彦親
王ノ御筆　例年舊曆六月十四日維新後改八月五
日大ニ賑フ

波々伯部ハ中古保殿トモナリ波々伯部保トナリ
井上上宿八上新村アタリヲ総稱シタリトカヤ或
ハ母上部トシ畧シテ波部トモス　波々伯部氏世
々納祖ヲ掌リ社ノ下司タリ兩部神道ノ時ニハ能
王山萬樂寺ト稱シ奥享三年祇園寺ト云ヘリ本地
藥師如來ニシテ大聖天像アリ般若面ナドノ古寶
物モアリタリシガ今ヤ亡シ辻小中宮前畑市畑井

北嶋波々伯部井上及ビ曾地ノ上宿等ノ産神トス
本地藥師ハ真鍮圓徑ノ所ニテ一尺二寸アリ應永
三十四年六月二日願主宗光トアリ　日光月光モ
又真鍮圓徑一尺二寸ノモノニ個永正十四丙丑年
二月吉日願主妙光比丘尼トアリ　神輿一基承平
五年多田滿仲ニ由リ例祭ノ基式ハ建テラレ舞鶴
根引松ノ社章モ定メラレ神田モ寄附アリテ天正
ニ至ル明智ノ亂ニ没收セラレタンヌ
京都祇園感神院舊記ニ曰ハク丹波波々伯部氏世
爲足利將軍家被官而納祖稅於感神院
天正十七年淺野和泉守再建シ祭式亦再興ス當時
定ムル所祭式行列本社ヨリ旅所ヘ至ル　山伏

京都府立総合資料館所蔵

陰陽師　獅子頭　踊子　練物　神供　金色幣
同同　鋒同同　神輿同同　社僧　乘輿宮年
寄（柳色ノ唐衣布ノ袴）　逢上法螺ヲ吹ク　藤山河原町ノ山伏
箱谷ノ織多十人麻上下ヲ着シ竹杖ヲ持シ先導
スルハ中古何頃ヨリカ始マル兒踊リ山伏キ清
メ謡本人形使ヒ等ノ戲事アリ　或ル人云フ多
田瑞仲ノ母モ社中ニ齋キ祀ラレタリト
西光寺ニ藏セル藥師四天王等ノ像ハ古來靈物ト
云ヒシガ國寶トナレリトカヤ寺ハ畑市村字寺ノ
谷ニアリ曹洞宗洞光寺末
七堂十二坊ノ大伽藍天正ノ兵火ニ罹ル後一堂ヲ
建テ、佛像ヲ安置ス　明治十四年國寶トナル藥

師ハ坐像四天王ハ立像
血寄地藏　上宿村ニアリ
西藏坊豪譽及ビ豪剛ハ共ニ野々垣黨ナリ此ノ黨
ハ人數モアリ勢力モアリテ一方ノ雄鎮ナルガ豪
譽ノ雄豪ナルハ近隣ニ其ノ比ヲ見ズ京ヘ出デ山
伏ノ管令ヲ司ル聖護院宮ニ臣隷シ進メラレテ山
伏ノ先達トナリ本州ニ歸リ同類同志ヲ募リ本梅
神尾山ノ砦ニ據リ三千餘石ノ地ヲ横領シ室町家
ノ武役ヲモ勤メ遂ニハ七千石ヲ領ス波多野氏ノ
勢威此ノ地ニ及ブヲ以テ心ナラズ屬從シタルガ
東軍ノ來ルニ會シテ款ヲ明智方ニ送リ波多野秀
治ヲ勸メ己ガ砦中ニ誘出シ遂ニ之ヲ捕ヘ東軍ニ

京都府立総合資料館所蔵

押送ス以後光秀ニ事ヘ愛寵ヲ病ミ死ス式部坊後ノ西藏坊豪閑ハ其ノ子ニシテ父職ヲ襲キ亦光秀ニ事ヘ又秀吉ニ臣タリ丹波中納言ニ附ケラレ文祿中長東大藏大輔ト中國ノ賦稅ヲ定メ聚樂大阪伏見ノ城池郎等築建設ノ任ニ當ル後年罪死セラル字北ケ市ニ宅址アリ

京都府立総合資料館所蔵

今田村

今田村　大字　上小野原村　下小野原村　四斗谷村　辰巳村　休場村　上立杭村　下立杭村　東荘村　釜屋村　荻野村　今田村　今田新田　本荘村　佐曽良新田村　黒石村　市原村　蘆田新田村　間新田村　木津村

人口　六百〇三人　明治三十八年　六百二十八人　四十二年　六百三十五人　大正四年

辻ト云フ所アリ丹攝両國ノ疆界線タリ　攝津有馬郡ト播磨ノ多可郡ニ斗入ス

只越ハ元暦ノ後ニ義經ノ越エタルヨリ此名アリト云フ只トハ心易キ義ニテ大軍ガ容易ニ越エ過ギタルニヨリ名ヅケタリトカヤ此ノ麓ハ郎ち田代

京都府立総合資料館所蔵

官者が大松明ヨカンノレト云ヒシ所ニテ此處ノ人家ハ皆其ノ一言ニテ燒拂ハレシ所ナリ夜半ニモ經過昴々タリシハ大松明ニヨレルナリ

集トモ會嶺トモ云フ所ハ同所ヨリ東北ニ當ル山溪間ナリ平ノ有盛等カ三千餘騎ニテ三草山ニアリシヲ攻メントテ義經カ軍矢ヲ募集セシ所其ノ山ヲ妙見山ト云フ四斗谷村ニアリテ全山樹木蓊鬱シ東ハ味間村ノ白髮嶽ニ連亘ス

水梨峠ハ和田寺山ノ北麓ニアル山路ナリ不毛ノ地路ノ兩側ニ多シ

水無梨シつなしト讀ム一梨樹水梨峠ノ山野ニ生フ土人云フ昔時弘法大師此地ヲ通過セシ時立テ置カレタル杖ヨリ蕃生シ芽生シ花生シ實生シタレドモ其ノ水氣無キヲ以テ南云フト

凍豆腐高野豆腐ヲ製造スル家アリ

蛙宮ハ路西ノ田疇間小丘上ニアリ石階七十級ヲ拾フテ登ル祠宮頗ル古雅ナリ丘樹密茂スレドモ一小松ダニ無シ松ハ之ヲ栽ウレドモ生育セシメ難シトテ今ハ之ヲ栽エズト云フ毎年盂蘭盆季ニハ蛙踊リヲ爲スノ習慣アリ其ノ踏歌スルヤ跳蛙ノ狀ヲ爲シ鳴蛙ノ聲ヲ出ス初見ノ者ヲシテ抱腹絶倒セシム住吉明神ヲ齋ク村社ナリ

義經腰懸石ハ下野原ノ路傍ニアリ只越ニ向フ右手ニ當ル 壓二尺餘幅二尺五寸強著者試ニ佗リ

京都府立総合資料館所蔵

休ス頗適ス　義經休憩所トモ云フ

小野山ハ今田村ノ西部ニアリ義經ノ陣セシ所ト

ス

平家物語　搦手ノ大將軍ニハ九郎御曹子義經……

……都合其勢一萬餘騎二月三日ニ都ヲ立チテ丹

波路ニカヽリ二日路ヲ一日ニウチテ丹波ト播磨

ノ界ナル三草山ノ東ノ山口小野原ニ陣ヲゾ取リ

ニケル平家ハコヽヨリ三里隔テヽ三草ノ山ノ西

ノ山口ニ大勢ニテ扣ヘタリ

京都府立総合資料館所蔵

夜討ニスベキ又明日ノ軍ニカト宣ヘバ田代ノ冠者進ミ出デ平家ノ勢ハ三千餘騎御方ノ御勢ハ一萬餘騎遠ノ利ニ候明日ノ軍ニ延ベラレ候ヒナバ平家ニ勢ツキ候ヒナンス夜討ヨカランヌト覺ヘ候ト申シケレバ土肥次郎イシウモ申サヒ給フ田代殿カナ誰モコウコソ申シタウ候ヒツレ夜討ヨカンヌト覺ヘ候ト申シケレバ兵トモ暗サハクラシ如何ハセントロ々ニ申シケレバ御曹子例ノ大澤松ハ如何ニトノタマヘバ土肥次郎サルコト候トテ小野原ノ在家ニ火ヲカケタリケル是ヲ始メテ野ニモ山ニモ草ニモ木ニモ火ヲカケタレバ晝ニハ些トモ労ラズシテ三里ノ山ヲゾ越エエキケ

京都府立総合資料館所蔵

ル

同じき六日ノ日ノ曙ニ大將軍九郎御曹子一萬餘騎ヲ二手ニ分ケテ土肥次郎實平ニ七千餘騎ヲ差添ヘテ一ノ谷ノ西ノ木戸ヘ指シ遣ス我身ハ三千餘騎ニテ一ノ谷ノ後ノ鵯越ヲ落サントテ丹波ヨリ搦手ヘコソ向ハレケル矣共コレハ聞エル處所ニテアルナリ同ジウ死スルトモ敵ニ逢ヒテ社死ニタケレ愚所ニ落チテハ死ニタカラズアハレ此ノ山ノ業内者ヤアル、トロ々ニ申シケレバ笑ニ武藏ノ國ノ住人平山ノ武者所進ミ出デ季重コソ此ノ山ノ業内能ク存知仕リテ候ヘト申シケレバ御曹子和殿ハ東國ソダテノ者ノ今日初メテ見ル西國ノ山ノ業内者大ニ誡シカラズト宣ヘバ季重カサネテ申シケルハ是ハ御諚トモ覺ヘ候ハヌモノカナ吉野泊瀬ノ花ヲバ見ネドモ歌人ガ知リ敵ノ籠リタル城ノ後ノ業内ヲバ剛ノ武者ガ知リ候トゾ申シケル是赤傍若無人トゾ聞ヘシ又武藏ノ國ノ住人別府ノ小太郎清童トテ生年十八歳ニナリケルガ進ミ出デヽ申シケルハ父ニテ候能童法師ガ教ヘ候ヒシ鑒ヘバ山越ノ獵ヲセヨ又ハ敵ニモ襲ハレヨ深山ニ迷ヒタランズル時ハ老馬ニ手綱ムスビテ打懸ケ先ニ追ヒ立テ行ケバ必ズ路ヘ出デンズルゾトコソ教ヘ候ヒシカト申シケレバ御曹子ヤサシウモ申シタルモノカナ雪ハ野山ヲ埋

京都府立総合資料館所蔵

メドモ老ヒタル馬ハ道ヲ知ルトノ例アリトテ折
懸ケ先ニ進ニ立テ未知ラヌ深山ヘコソ入リ給フ
頃ハ二月初メノ事ナレバ峰ノ雪ムラ消エテ花カ
ト見ユル所モアリ谷ノ鶯音ヅレテ霞ニ迷フ所モ
アリ登レバ白雪皓々トシテ嶺ヘ下レバ青山峨々
トシテ岸高シ松ノ雪ダニ消エヤラデ苔ノ細道幽
カナリ嵐ニタグフ折々ハ梅花トモ赤疑ハレ東西
ニ鞭ヲ揚ゲ駒ヲハヤメテ行ク程ニ山路ニ日暮レ
ヌレバ皆下リ居テ陣ヲトル笑ニ武蔵坊辨慶アル
老翁一人ヲ具シテ参リタリ御曹子アレハ如何ニ
ト宣ヘバ是ハコノ山ノ獵師ニテ候ト申シケレハ
扨ハ案内ヨク知リタルナラン爭デカ存知仕ラズ
ハ候フベキ御曹子サゾアラン是ヨリ平家ノ城郭
一ノ谷ヘ落ソウト思フハ如何ニユメ〳〵叶ヒ候
フマジルソミナ丈ノ谷ナ五丈ノ岩サキナドヲバ
容易ウ人ノ通フベキヤウモ候ハズ其上城ノ内ニ
ハ落シ穴ヲモ掘リ菱ヲモ植ヱテ待チ進ラセ候ラ
ン況シテ御馬ナド思トモヨリ候ハズト申シケレ
バ御曹子サテ左様ノ所ハ鹿ハ通フカ鹿ハ通ヒ候
ヘ間ダニ焼フナリ候ヘバ草ノ深キニ臥サントテ
播磨ノ鹿ハ丹波ニ越ヒヱ世間ダニ寒クナリ候ヘバ
雪アマリトテ丹波ノ鹿播磨ノ印南美野ヘ越シ候
御曹子サテハ馬場ゴサンナレ鹿ノ通ハンズル所
ヲ馬ノ通ハザルベキヤウヤハアルサテハ癒テ汝

京都府立総合資料館所蔵

業内ラセヨト宣ヘバ此身ハ年老ヒテ如何ニモ叶ヒ候マジト申ス、サラ汝ニ子ハ無キヤサン候トテ熊王トテ生年十八歳ニナリケル小冠者ヲ奉ツル御曹子ヤガケ髻トリアゲサセ給ヒテ父ヲハ鷲尾ノ庄司武久トスフ間コレヲハ鷲尾三郎義久ト名乗ラセ一ノ谷ノ先討クセ業内者ニコソハ具セラレケル後年衣川ノ役ニ奮闘数人ヲ殺シ死ス年二十二或ハ云フ義経ト共ニ蝦夷ニ逃ルトヅ

丹波ノ住人赤井藤太郎景俊ナルモノ従軍シ一ノ谷ニ向ヒ奮闘シ敵二十餘人ヲ斬リ進ンデ能登守教経ヲ刺サントシテ殺サル

西光寺山ハ本荘村ニアル、高峯ニシテ峰巒遠ク播磨ニ連ル西ヲ多可郡トス

和田寺山ハ高サ西光寺山ニ亜ク今田ノ諸星山ニ従フテ一周ス　和田寺ノ古刹在リ

今田村ノ百姓治右衛門ハ農業出精ノ廉ヲ以テ天明八年ニ褒美ヲ受ケタリ時ニ年三十二

辰巳村ハ大山宮村ノ豪農園田庄十左衛門（二字ノ氏二字ノ名）ガ藩命ヲ帯ビテ開墾シ一村ヲ新造セル所ナリ篠山藩領上小野原村所属ノ荒蕪ニシテ田園ハ得タレドモ数十町ニ過ギザリキ

奇特者清右衛門嘉右衛門褒美ヲ受ケタリ時ニ天明四年両人共年四十五

五杭村　上中下三村ニ別レタリ合シテ百五十戸

京都府立総合資料館所蔵

中ニ就キ陶器ニ從事スルモノ百三十戸ノ多キニ達セリ餘業ニ從事シテ窯業ニ與ラザルモノ僅ニ二十戸ノミ故ヲ以テ家々庭中簷下ニ粘土或ハ未完陶器ノ累々タルアリ德利ハ普通品トシテ毎戸各人皆之ヲ製スト雖シテ摺鉢ハ主トシテ上村ニテ造リ土樋ハ主トシテ中村ニテ製シ壺ハ主トシテ下村ニテ作ルノ慣習アリ村名ニ冠スル上中下ノ稱ハ製作品ノ良好普通粗雜ヲ評隲スルモノトナルモ亦奇ナラズヤ

土瓶急須茶碗皿ノ類モアレド德利ノ製出ノ半數ヲ占ム酒屋必要ノ品ナルヲ以テ需要年一年增加スルノ傾キアリ近來外國ヘ輸出ノ計畫運動ヲ

屬シタレドモ外國人ノ嗜好ニ適スルモノ無キニヤ僅ニ植木鉢ノ注文アリタルノミ製出高平均半額五千五百駄此ノ數大凡十六萬箇價金大凡一萬六千圓陶器會社設立計畫今正ニ成ラントス準備中ニアリ　二十九年六月十三日遊歷

陶祖　風呂藝大兵衛　時代不詳　毎年九月八日

土産神ノ祭祀ニ合祀ス

陶器ノ外ニハ凍豆腐ノ産アリ

下五杭村植左衛門農業步精ノ廉ヲ以テ褒美ヲ受ケタリ天明八年々六十五

四斗谷村　孝子忠七ハ百姓忠右衛門ノ子天明八年孝行者トシテ褒美セラレタリ

京都府立総合資料館所蔵

一村ノ風儀宜シトテ褒美セラレタルハ寶ニ他ニ
比稀ナル所ナリ是モ天明八年ノ丁ナリ
高帳之久年度　小野原村　四百五十八石　本庄村
三百五石　立杭村百九十六石　本津村二百五十
三石

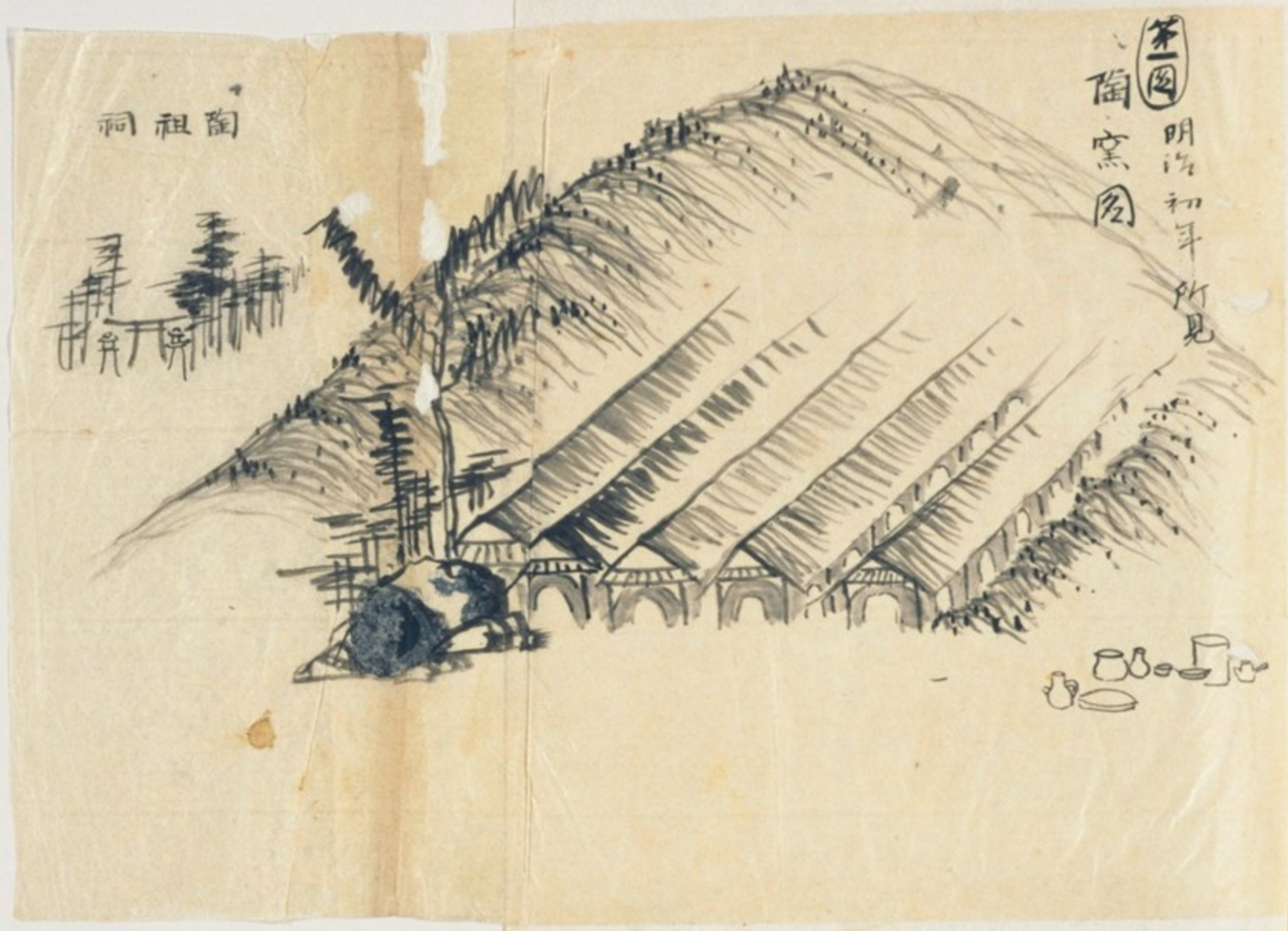
第三図

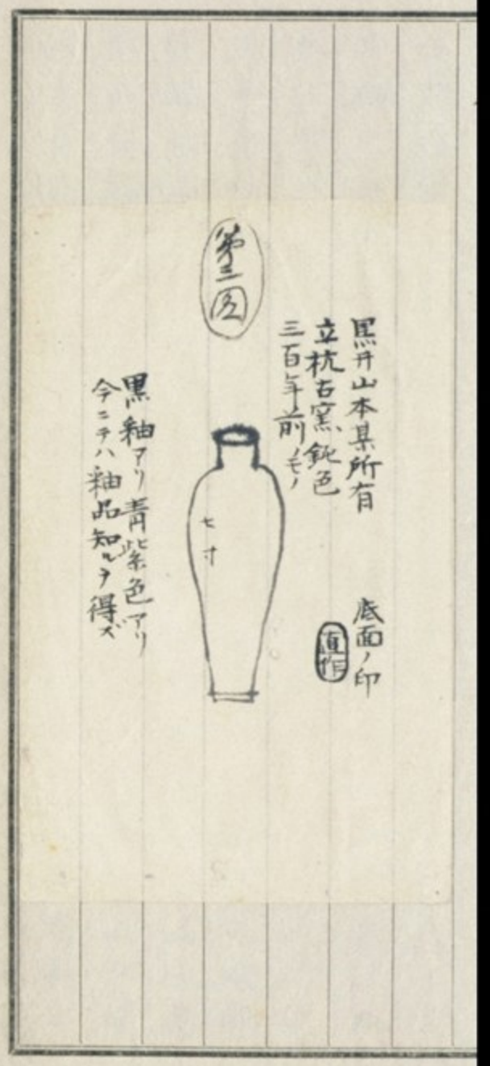
黒井山本某所有
立杭古窯鉢色
三百年前ノモノ

底面ノ印

黒釉アリ青紫色アリ
今ニテハ釉品知ル可ラズ

京都府立総合資料館所蔵





京都府立総合資料館所蔵

古市村	大字	古市村	不來坂村
井村	草野村	古森村	當野村
新田附	見内村	南矢代村	新田附
初田村	牛ケ瀬村		

住山村	油	波賀野村	太飼村		
戸	六三一	三十八年	六二六	四十三年	六六一 大正四年

京都府立総合資料館所蔵

古市村　大字　古市村　不來坂村　住山村　油井村　草野村　古森村　當野村　波賀野村　新田附見内村　南矢代村　新田附大飼村　初田村　牛ケ瀬村

戸　六三一　三十八年　六二六　四十三年　六六一　大正四年

人　三六二三　三十八年　三七八六　四十三年　三七六

三　大正四年

大字　古市村　古來稲住迫入トヲ并稱シテ多紀ノ三驛トシ物貨ノ集散商賈ノ輻湊スル地ナリシモ一郡ノ人氣篠山ニ吸引セラレテ以テ盛衰更革シ古市ノ名詮自稱トナリ寂寞タル秋景ヲ呈シタリ左ハ言ヘ米穀市場トシテハ丹波ニ於ケル巨擘

京都府立総合資料館所蔵

タリ地方ノ米多クハ一度此所ニ湊マリテ播磨ヘ輸出シ播州米トシテ四方ニ散ス中ニ就キ大阪ニ向フモノヲ多額トス播州米ノ價格ハ肥後米筑前米美濃米ト同一視セラレタルノ榮譽ヲ博セリ

二村神社　式内　伊弉諾伊弉冊ニ尊ヲ祭ル天平勝寶二年敕シテ正一位トス小野道風ノ額アリ大字見内ニアリ味間村ニモ亦同名ノ祠アリ

東北ニ松尾山アリ武庫川ノ上流東方ニアリ淺茅山其ノ東ニアリ大蛛川松尾山ノ北方ヲ流ル北方ニ方リ篠山アリ

赤穂義士不破數右衛門復讐ノ陰ニ着用シタリシ下着ハ酒井小一右衛門ノ家ニ秘藏ス古來鍵屋ト稱シ世々大庄屋ノ職ヲ勤メタルヲ以テ士家ト相交ハル數右衛門ノ伯母來リ嫁ゲヲ以テ數右衛門時々來訪セリ義擧ニ先ダテ十數日來リ訣ル曰ハク主家亡滅シテヨリ浪々ノ身トナリ種々ノ困苦ヲモ嘗メシモ今ハ幸ニ良主ヲ得タレバ江戸ニ出デ、祿ニ有リ附クナリト伯母其ノ言ヲ信ジ後會ヲ期シテ別カル復讐ノ擧アリテ數右衛門其ノ連判ニ加ハリ居タリト聞キ大ニ驚キ且悲ミ前日來リ別ルヽノ口氣ニ何トナク其ノ節アリタルニ心附キ日夜其ノ音信ヲ待ツ所ヘ飛脚便ヲ以テ細々ト讐復ノ情況ヲモ書キ遺物トシテ下着一枚ヲ送リ寄セタリ下着ノ背面ニ

京都府立総合資料館所蔵

松壽千年終是朽槿花一日自成榮　大高源吾

トアリ墨痕淋漓看ル人ヲシテ其ノ勇壯氣概ト其ノ風流思藻トヲ想望セシム惜ムベシ手紙ハ早ク失セタリ

油ノ井村

大字　油ノ井村ハ往古石油ヲ産出サセタルヨリ其ノ名アリ

尾上城塁　村東ノ山中ニアリ天正年間ニ酒井重貞ナルモノヽ籠モレリシ所重貞ハ佐渡守ト稱シ波多野家ノ重鎮タリ組頭ノ一トシテ波多野秀香ト其ノ勇ヲ競ヘリ

農夫太郎兵衛農事ニ勉勵スルノ賞トシテ天明八年々五十九ノ時褒美セラレタリ

不來坂村

大字　不來坂村　不來坂ハ西方ニアリ古市ヨリ今田ニ至ルノ路ニアリ元暦ノ役ニ源判官カ三草山ノ平軍ヲ襲ハントシ以爲ヘラク平氏大軍ヲ三草山ニ陣スルナレバ其ノ先手ハ必來リテ此ノ所ニ防ヲスベシト乃徐々隊ヲ整ヘテ進ムニ敵影ヲ見ズ義經嗤フテ曰ハク平家來ヌ坂カト以テ平軍ノ爲ス無キヲ知レリ一説ニ云ヘリ義經此所マデ押シタルモ後軍至ラズ辛立チヲ曰ハク未來ヌカト困リテ坂ノ名トナル二説孰レカ信ナル　當時平家ハ山陽道ニアリ進ンデ京畿ニ入ラントシ摂津一ノ谷ニ據リ生田ヲ東門トシ一ノ谷ヲ西門トシ十萬餘人ヲ以テ之ヲ守ル其ノ丹波ト腹背ヲ相爲

京都府立総合資料館所蔵

太飼村

スヲ以テヤ平資盛數千騎ヲ以テ攝丹ノ間ヲ警備スヲ而ルニ地勢ノ險ニシテ僻スルヲ見以爲ヘラク敵軍寄セ來ルベキ所ナラズトテ油断シ遂ニ一敗魯皇逃ケ走ル

大字　太飼村　孝子善六　年老イタル親ヲ養フ七十歲ニシテ褒美セラレタルハ珍ラシ　天明八年初田村ノ八太夫農業出精ニ付キ天明八年褒美ヲ賜ハル

波賀野村ノ安右衛門亦同ジ

當野村　温泉アリ阿彌陀湯ト呼ブ往古ハ温泉ナリシモ中古冷泉トナレリ

此ノ邊一帶舊稱ヲ酒井莊トス丹波ノ酒井黨トテ本州名族ノ一ニ連ナル系統ハ平筑後守貞能ニ出ヅ承久三年貞能ノ孫裔ニ當ル千竈新太郎貞光ナルモノ、勲功ニヨリ其ノ領酒井政親ニ此ノ邑ヲ賜ヒシ兄ノ名迹ヲ襲ガシム其ノ子孫蔓延シテ當野波賀野初田矢代栗栖野油井宮林ノ諸族トナル皆其ノ住所ノ名ヲ取リテ氏トス足利高氏ノ旗ヲ南朱田郡ニ建テ同志ヲ募ルヤ之ニ應ジテ馳セ參スルモノ酒井波賀野トス自後一族其ノ味方トナレリ

やまみしこうの大原の代ることさうるの村のかもすミ名　末木集

産物　滿俺　住山村ニ銀脈アリ　龍造寺山ニ鐵脈アリ

京都府立総合資料館所蔵

村雲村　大字　向井村　栃梨村　夏田村　井串村
細工所村　塩岡村　草上村　小田中村　小
立村　垂水村　山田村　上篠見村　下篠見
村
村

村位ハ郡ノ東北部ニ在リ古稱草ノ上郷ト云フ大芋村東北ヲ擁シ草山畑雲部ノ三村北西ヲ境リ日置村南方ニ當ル北方高山峻嶺アリ他三面亦山脈ニ圍マレ中央ニ南北一婁ノ野田アリ大芋福住二村ヨリ落ケ來ル二川向井村ニテ合流シ西南シテ篠山川ノ源ヲ為ス　里程篠山ヨリ三里

八ケ尾嶽大芋村ニアリテ其ノ腰脚ヲ上下篠見ニ展ベ延キ山田小立垂水ニ及ブ

京都府立総合資料館所蔵

戸　四百九　明治三十八年　三百九十　四十三年　四百
二　大正四年

人　二千〇五六　右同　二千四十九　右同　二千七
十六　右同

田　二百五十七町三段　畑十五町一段　宅地五
萬二千八百三十四坪　山林原野九百八十九
町九段　其他四町六段

直接國税　六千四百二十三圓　縣税　二千七百
八十九圓

村雲ニ叢雲ニ作ル京都市一條堀川ニ叢雲御所
アリ亦村雲ノ字ヲ用ユ今ハ尼寺トナリ皇族ニテ
住職トナラセラル古時コヽニ政所ヲ置キ諸國ノ

貢獻ヲ分掌セシメタルニ際シ此ノ村ト深キ管繋
アリテ直轄セシメラレタリトノ古傳説アリ本莊
ハ村雲莊ノ頭人居住ノ地ナルガ今ハ雲部村ノ一
部トナリ縣守モ亦同ジトヅ古時神田庄ニ屬セリ
トテ左ノ歌モテ證スル者アルガ此ノ歌ハ大山村
ノ神田神社ノモノトモ云フ

ちはや振神田乃宮の御ねなるくゝつ比ゝ久しうゑべし　右匡房

むらくもの宮とゝ為ゝ為ゝさらゝ和る　夫木集

神世いの山かくしさいつれなくゆしれなくる村雲の宮　しるべく

久方の空むらくもの山めぐりしるべ乃ゆ堀もる月　しるべく

右讀人不知ノ二首ハ秋の寄賀ニ出デ名所トシテ顯ハサレヌ

源頼朝ノ起コルヤ文覺上人與リカアリ（南京田郡保津村文覺寺ノ部ニ出ス）

京都府立総合資料館所蔵

褒賞上人ノ意ニ任スト云ハレケレバ便チ箇所ノ
荘園ヲ請ヒ之レヲ高雄ノ神護寺ニ寄附セントセ
シニ叢雲ノ荘モ其ノ中ニ籠モリアリタリ頼朝遠
慮深ケレテ叶ハズ上人モ粗忽ノ願ナリトテ他ノ
荘園ヲ乞ハレケレバ数ヲ倍シテ遣ハサレタリト
ノ説アリ之レニ由レバ政所ヲ置カレタルノ地ナ
ルガ故ニ私領寺領ニハ爲シ兼ネタルモノ歟尚本
荘ヲ賜ハルトアレバ今ノ雲部村ノ一部ヲ與ヘタ
ルニヤ

道路　篠山ヨリ来ル郡道一線雲部村ヨリ入リ塩
岡村ニテ岐分シ北スルモノハ大芋村ニ赴キ南ス
ルモノハ福住村ニ趨リ共ニ船井郡ニ入ル

大字　細工所村　高百三十七石　地位本村ノ南
部ニアリ一線ノ縣道福住村ニ達シテ南行シ大芋
村ヘ赴クモノ一線アリ船井郡ニ出ヅベシ　大芋
ヨリ下ル一川西部ノ田畑ヲ潤シテ雲部村ニ下ル

城址　村東ニアリ往時栃梨向井ノ両地方ニ跨レ
ル大城砦ニテ天文年中荒木山城守氏綱經營ノモ
ノトス本丸東西四十間南北十八間南廓ノ其ノ一
ハ東西四間南北五間堀切東西十一間南北二間
其ノ二ハ南方七間ノ下ニアリテ東西五間南北三
間　堀切東西七間南北一間　第三ノ廓東西二間
南北十一間　北ニ廓東西九間南北十一間本丸ノ
北方三間許ノ下ニアリ　第四廓東西六間南北八

京都府立総合資料館所蔵

間　第五廊東西八間南北二間　第三廊ノ北方八間許ノ下ニアリ　第六廊東西一間半南北亦同ジ五廊ノ北方二間許ノ下ニアリ塀切東西八間南北一間　東門　本丸ヨリ九十三間ノ下ニアリ

氏綱ハ波多野ノ一族ニシテ豪勇ノ士ナリ永禄二年間秀治ニ隨フテ京ニ入リ大内ヲ衛リ天正六年此ノ城砦ヲ築造シテ東軍ニ抗セントシ荒木鬼ノ名早ク歆中ニ鳴ル同年東軍來リ攻ム氏綱折衝方ヲ得テ歆ヲ惱マスヿ月ヲ經タリ敵將其ノカ取ス可ラザルヲ知リ重圍シテ糧道ヲ斷ツ城兵始メテ困ム氏綱群下ノ說ク所ニ從ヒ已ムヲ得ズ東將明智ノ誘フ所トナリ出デヽ降ル東軍此所ヲ撤去シテ八上高城ニ向フ高城ハ最要害ノ地ナルヲ以テ容易ニ下ラズ光秀一策ヲ案ジ氏綱ヲ父トシテ降ヲ勸メシメ之ニ托シテ其ノ義母ヲ質トシ和義成リ秀治因ハレ安土ニ送ラル（曰置村ノ參看スベシ）氏綱留守ノ任ニアリテ之ヲ聞キ自分ノ愚直ナル老猾ニ誑惑セラレタルヲ以テ無念遣ル方無ク罪ヲ引キ本左ノ如ニ屠居シテ出デズ子氏晴ヲシテ光秀ニ臣事セシメ以テ信長ノ猜疑ヲ罷メタリ人以テ鬼ノ名ニ背ケリトス

上篠見村

大字　上篠見村　元錄高百三十二石　原山村ノ内川坂遠方来原ノ四村ヲ合ハス

四十八瀧地名ニ賴リ篠見ノ瀑布トモ云フ深山幽

京都府立総合資料館所蔵

谷中奇岩怪石ノ間ニ七條ノ懸泉アリ瀑ヨリノ第一番ハ紅葉ノ瀧高二丈第二番椿瀧高サ一間半岩洞ニ辯財天女祠アリ岩洞高サ一間半深サ三間餘祠前ニ生木ノ梯子ヲ架スヱレニ由リテ登ル第三番肩ノ瀧高サ四丈三面皆巨岩碧潭深サ六七尺ナルベシ亀ノ浮動スルアリ迂廻シテ又登ル第四番長瀧高サ十丈更ニ上ル丁二町ニシテ第五番滑秘旨瀧高サ五丈又登ル二町餘ニシテ第六番二ノ瀧高サ三丈其ノ上ヲ第七番目トシテ一ノ瀧高サ五丈コヽヨリ水源市野ヘ二町又登ル丁二町餘ニシテ黒モヒ山ノ絶巓ニ至ル海面ヲ按ク丁二千尺南ニ六甲山北ニハ大江山東ニハ愛宕山西ハ篠山福知山ノ市街ヲ俯瞰スベシ此ノ邊シノブ岩茸ヲ産ス郡名ノ由リテ起コル亦宜ナル哉（論考参看）右瀑布ノ内下ヨリ第二番目ノモノニ鐵漿壺ト呼ブ湫アリ水色恰モ鐵漿ノ如ク上水ノ岩ヲ下リ流レ落ツル勢ハ鐵漿ノ沸騰スルガ如シ而ルニ其ノ水ヲ掬スル時ハ無色無臭ナリ蓋枯枝枯葉ノ壺底ニ腐蝕スル幾百千年ソノ色ヲ水ニ移シテ留ルニ非ザルヲ得シヤ瀑上ノ長石突出スルアリ之ニ縁リテ湫ニ臨メバ鐵漿丈餘ノ下ニ煮エ水聲眼底ニ吼エ身心聳然覺エズ後退ス　四十八瀧ノ名ハ羽後國野代川山寺伊賀ノ赤目阿蘇山等ニモアリ多瀑ノ謂ヒナリ

京都府立総合資料館所蔵

下篠見村
向井村
栃梨村
見田村
井事村
塩岡村
草ノ上村
小田中村
小立村

青龍山清瀧寺　寺號ノ水偏ヲ省キ以テ山號トス
伽藍七堂ノ故址ニシテ觀音大士ノ古像ヲ祭ル婦
人ノ子ヲ求ムルモノ來リ賽ス

大字	下篠見村	高三百四石	元祿定
大字	向井村	高百四十九石	
大字	栃梨村	高二百二十石	
大字	見田村	高百九十九石	
大字	井事村	高四百六十九石	
大字	塩岡村	高百六石	
大字	草ノ上村	高二百二十八石	
大字	小田中村	高五百五十五石	
大字	小立村		

垂水村
山田村

大字	垂水村	小立ヲ合セ高三百二十七石	
大字	山田村	高百三十五石	

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

大芋村

大芋村　大字　中村　福井村　小原村　藤坂村
三熊村　小倉村　市野々村　奥山村　大藤
村　立金村　宮代村　篠山ヨリ東北相距ル大凡三里
村勢本郡ノ東北隅ニアルヲ以テ過半船井郡ニ接
壤シ南方福住村ニ隣リ西方村雲村ト僅ニ草山村
ニ交ハル　方二里ノ面積アレドモ比較上人戸鮮
少　山嶽夏ノ七分ヲ占ム　今コソ道アレ進新前
ニハ五頂谷底ヲ蜿蜒迂行シタルナリ　古來神聖
ノ地トシテ有名ナリ川上ニテ汚物ヲ洗ヘバ罰ガ
當タルトテ流水ヲ清淨ニシ　墳墓ハ往昔一個半
箇ダニ見セシメズ村内ニ死者アレバ之ヲ遠ク持
テ去リテ山外ニ埋ミ死體ヲ村内ニ置クヲ忌ミ葬

京都府立総合資料館所蔵

式ノヿヲ持越シト曰フ　开ハ山ヘ持テ行クノ意
トヅ　他方ノ人ハ大ナル芋ヲ産スヘノ故カナヅ
ト問フヿモアレド左ニアラデ芋ハ雲ノ訛リ唱ヘ
トハ知ラレタリ往古穴居ノ時代大蜘蛛人種アリ
タルヨリシテ勇云ヘルナラントノ説モアリタレ
ド矢張リ文字ノ轉訛ニテ言葉ニハ誤リナカリシナ
リ

戸數　四百零二　明治三十八年　四百零十　四十三年　三百
九十七　大正三年

人數　二千一百六十三　右同年　二千一百七十八
右同　二千一百四十五　右同

三國ヶ嶽西南ニ屹立シテ村界ヲ扼シ高率一千六
百七十尺ヲ有シ櫃ヶ嶽北方郡界ニ聳チ一千二百
二十一尺ヲ有シ八ヶ尾嶽西北ニ秀デ、二千二百
九十尺ヲ有シ小山小丘數フルニ遑無シ而シテ福
井村ハ首里トシテ僅ニ商店アリ舊高四百十四石
文久年度改

櫛岩窓神社　主神櫛岩窓神豊岩窓神　創建神代
ニアリ神祇官正院ヒ祀レル所ノモノモ此ノ社ヨ
リ分靈シタルナリト云フ　名神大社　世呼ンデ
大宮トス　大社トハ伊勢皇太神宮八幡宮ノ類ニ
シテ又其ノ一ハ祈年祭月次祭ニ官幣ヲ案上ニ奉
奠スル神社ヲ云フトカヤ福井村ノ道傍東手ノ山
下ニ鎮座ス　今ノ社殿ハ篠山藩ノ建立スル所明

京都府立総合資料館所蔵

治二十九年　祭禮　舊暦九月九日　社僧コレヲ掌ル京都六角ノ住心院ノ末寺ニテ大宮寺ト呼ビタリ　末社蛭子　驍賊天女　天滿宮　稲荷明神　火打岩　火打石溪谷ニ滿ツ

本社ニ柱ハ太玉命ノ子ニシテ天孫降臨ノ時天照皇太神ノ敕ヲ受ケ思兼神手力雄命ト豐葦原ニ降ル一説ニハ忍穂耳尊ニ從フテ降ルトモ云フ　一名天石戸別神　又云フ神石窓神　豐石窓神　太神ガ天窟戸ヲ出デマシヽ時ニ殿門ヲ守衛ス　加茂春日ノ二神ト云フハ非ナリト　猛魔槌神經津主神以下數柱ノ神ヲ合祀シタリトモ云フ　元慶元年ニ陽成天皇行幸ノ日アリテ大芋叔井ノ莊ヲ賜ヒ播磨國大部庄ヲ以氏子トセシメラレ皇太后高子モ亦行幸アラセラレタリ云々　南北朝ノ時ニ賜屋義助修理シ同義治モ此所ニ在リシト云フ此ノ地ニ新田氏ノ由緣アルハ次文細時能ノ條文ヲ參看スベシ下文日藤坂址ニモ出ダス

古事紀傳ニ曰ハク諸國ニ此ノ神ヲ祭ル社多カル中ニ正シク神代ニ天降シ給ヘル御躰ハ丹波ノ社ニヤ齋キ祭リケン云々　延喜式内百八十八座中ノ二座　大祭ニハ敕使幣帛ノ嚴式アリ　中古衰微シテ村社トナリシヲ明治三十七年縣社ニ昇格ス　本郡中唯一ノ縣社トス　社地七千七百二十九坪　靈岩ト呼ブ大石アリ　穴居ノ迹ニモヤ貴布禰社一里ヲ距テヽ此ノ末社タリ　楊龍窓考

京都府立総合資料館所蔵

岩ものの神をしもまつらいかるがいかりまつ

秋田苅穂

豊林寺　真言宗　齊明天皇ノ二年法道仙人ノ開墓　京都蓮花王院ノ末寺　郡内ニ於ケル牡丹ノ名所トス　毎年花期遊覧ノ客常ニ満ツ　寺庭處トシテ花冨貴ナラザル無シ

業務勤勞賞　百姓五郎左衛門年五十六　天明八年褒賞セラル

大芋式部丞大芋手次郎大芋又次郎大芋甚兵衛ナドノ謂ハ所ル丹波衆ハ室町ニ匿籍ヲ置キ或ハ細川方トナリ明智方トナリ波多野方トナリ感状許多ヲ遺セリ

山田五郎左衛門ハ波多野ニ属シ武勇ノ士ニテ輝秀ヨリ諱ノ一字ヲ與ヘ輝吉ト名乗ル程ノ者ニテ子孫コノ處ニ散在ス其ノ先ハ新羅三郎義光ニ出ヅト云フ感状アリ

今度輝秀於上意忠勤抽ル伝ミ

丹波国多紀郡内藤下々吉口向信

知水流浪山林共為馬飼ミ安堵

不可有相違者仍件

輝秀

山田五郎左衛門殿

永禄二年五月

大字　藤坂村　高三百零四石　村ハ郡ノ東北極ニアリテ船井郡ニ隣ル僻陬ノ地トス

京都府立総合資料館所蔵

八ケ嶽　村南ニ屹立シ二千二百三十九尺ノ高度ヲ有シ畑村ノ小金ケ嶽ト相頡頏ス山形ノ八字ヲ爲スヲ以テ名ヅクト云ヒ山ノ尾ノ八方ニ流ルヽ故ノ名トモ云フ山頂ハ只萱ノ生茂スルノミ而シテ其ノ蕀ニハ林木菊蕣シ川流ノ源トナリ一大洞ニ湛ヘテ又流レ向井谷ニ至リ斷續三層コレヲ三ノ瀧ト呼ブ其ノ最長瀑布一丈四尺

往昔此ノ邊ノ山々ニハ櫻樹多ク名所ニテアリシトカヤ古歌アリ

ふるゝ人ゝ為てみむ古里のふもとの山乃花のさかりを

君が代を遠ふ甲斐あるゝ物なれば見る度毎の山

白藤城址ハ八ケ尾ノ北麓ニアリ明德三年新田義

貞ノ第脇屋義助ノ子脇屋義治信濃ヨリ來リ一城數砦ヲ此ノ所ニ築造シ以テ居ル名ヅケテ白藤城ト曰フ是ノ歳延元々年十月父及ビ伯父ニ從ヒ後醍醐天皇ノ皇太子ヲ奉ジテ義兵ヲ越前ニ起コシ杣山城ニ於テ賊軍ヲ擊退シ保ヲ能ハズシテ逃ル後村上天皇即位アリテ詔ヲ發シ賊軍ヲ伐タシムルニ會レ遂ニ又矢ヲ東國ニ起コシ尊氏ヲ鎌倉ニ攻メテ勝チ磐クシテ信濃ニ匿レ又越後ニ起コリ上杉氏ト戰ヒ克タズ出羽ニ奔リ返リテ信濃ニ匿レ東國ニテ事ノ成ス可ラザルヲ視ルヤ山路ヲ迂廻シテ四國ニ渡リ河野氏ニ倚リテ伊豫ニ潛ミ京師ヲ恢復セントシテ丹波ニ入リ此ノ地ニ止マル

京都府立総合資料館所蔵

ヿ數閱月ニシテ卒ス齡八十三　義治ノ玄孫ハ六
義吉ニ至リ足利氏ノ勢力此ノ地ヒ及ブヲ以テ脇
屋ヲ改メ中嶋トシ村民ニ伍シテ賦役ヲ免レタリ
其ノ裔孫中嶋義里明智方トナリ山崎ニ戰死ス
中嶋或ハ中馬ニ作ル
享保ノヿトカヨ此ノ家系ニ雲雜ト曰フ者アリ二
男子ヲ生ム兄ハ五兵衛ニシテ爭ハ六藏ナリ十九
年甲寅五死ス其ノ妻アリ雲雜ハノ妻ナキヲ以テ
之ヲ娶ラシム六其ノ亂倫ナルヲ以テ固辭スレド
モ父聽カズ然ラバ他人ヲ以テ嫂ノ養子ニシ己ハ
別ニ一家ヲ成サント欲スレドモ又聽カズ六強ヒ
テ父命ニ應ジ婚式ヲ擧グレドモ閨ヲ異ニシ兄ノ

遺女ヲ撫育シ其ノ長ズルヲ待ツ明和辛卯ニ至ル
三十八年ツノ志ヲ憂ゼズ遺女ニ聟養子ヲ爲シ其
ノ家ヲ嗣カシム六ノ家計裕ナラザレドモ年貢村役
一度モ其ノ督促ヲ受ケズ田畑ハ薄瘠ナレドモ勞力
ヲ惜マズ勉メテ業ヲ執リ以テ生計ヲ立テ人文未
開ケザルニ書算ノ道ニ志シ人ニ就キ之ヲ習熟シ
且品行方正衆人ノ模範タルニ足タルヲ以テ衆勸
メテ里正ノ職タラシムルニ應ゼズ強ヒテ己マザ
ルヲ以テ枉ゲテ里正ニ代ハリ事ヲ執ルモ其ノ給
料ヲ受ケズ溫厚ニシテ篤實生涯愁憂怒怨ノ色ヲ
顯ハサズ而シテ村事滯ラズ當時瓦力ノ疫羸ソノ
極ニ達シ人民ノ逃避相襲ギ田地六町餘ノ廢耕ト

京都府立総合資料館所蔵

ナルニ至ル領主ノ代官來檢シ已ムヲ得ズ之ヲ篠山ニ階町ノ住民亀屋德右衛門ニ與ヘ以テ貢租村役ノ事欽ケズ此ノ處分ニ關シ六ノ韓旋當ヲ得テ上下共ニ欣喜シタリシニ由リ寶暦九己卯年米三俵ヲ下賜シ賞狀ニ其ノ事ヲ詳記セラレタリ美談トシテ明治初年ニモ人口ニ膾々クリキ

妙見堂　但馬國山名氏ノ創建ト云フ

小原村

大字　小原村　高四百六十八石

村東昆沙門山ハ往古昆沙門天ヲ祭ツタ所ト云フ危岩怪石古松溪流相掩映シテ一大畫圖ヲ描キ成ス向井谷ノ三瀑布ハ或ハ三ノ瀧ト云ヒ昆沙門ノ瀧トモ云フ直下一丈五尺三瀧略〻同ジ昆沙門洞窟ハ間口三間餘奥行十間餘アリ　此ノ瀑泉ハ篠山川ノ一源トナル

市野々村

大字　市野々村　高三百五十石

百姓　周平　天明八年農業出精ノ褒美ヲ受ク年齡四十七

大藤村

大字　大藤村　高二百十七石

村南三國ケ嶽ハ福住村ノ間ニアリテ一源泉アリ東ニ注グモノハ船井郡ニ出デ、園部川トナリ保津川トナリ山城ニ落チ北ニ流ルヽモノハ福知山ニ向ヒ福知川ニ入リ舟後ノ海ニ落チ西ニ向フモノハ篠山川トナリ播磨ニ落チ是レ便チ三國ケ嶽ノ名アル故トカヤ

京都府立総合資料館所蔵

中村　高百七十八石
三熊村　高九十一石
宮代村　高二百二十九石
大芋村大字合セテ十一村　篠山藩領ナリキ
人家　四百二戸　明治三十八年　四百十戸　同四十三年
　　三百九十七戸　大正四年
人口　三千二百〇五　右同　三千二百　右同　三千
　　一百七十四　右同
田　二百五十六町一段　畑　三十三町七段　宅
地五萬一千三百四十坪　山林原野　一千七百
廿一町　其他　十町五段
直接國税　五千五百九十八圓　縣税　二千五百

二圓
習慣ノ一　男子年十三ニナレバ若衆仲間ニ入ル
婦ヲ娶ルヲ則トシテ其ノ仲間ヲ去ル其ノ間赤褌
ト呼ブ紅木綿ノ犢鼻褌ヲ着クルヲ以テナリ年長
者ソノ統御権ヲ以テ使役スモシ一言タリトモ反
ロスル者アレバ難詰百端謝罪シテ始メテ止ム謝
セザレバ除外シテ交ハラズ他ノ若者ニシテ除外
者ト一言タリトモ相語ルアラン平亦同罪トシ絶
交ス謝罪ハ中老ノ者ニ倚リ之ヲ爲ス中老トハ赤
褌年限ヲ終リタルモノナリ一盃ヲ酌ンデ和約成
ル　婚姻ソノ途ニ由ラザルアレバ腕力ニ訴ヘタ
リ之ヲ若衆ノ顔ニ泥ヲ汚リタリトスフ猶強ヒテ

京都府立総合資料館所蔵

其ノ婚姻ヲ遂ゲントスルアラバ婚式ノ席ヘ餞搗
飯ナド席ニ包ミ其ノ席ニ置クヿヲ取除ク時ハ
更ニ難題ヲ掛ケヿヲ苦ム酒一二升乃至一斗貧富
相應ニヿレヲ出シ謝罪スレバ席包ハ持歸ルモシ
其ノ家ガ平素衆人ニ敵視サラルヽ者ナランニハ
墓所ヨリ無縁ノ石塔ヲ持チ來リ其ノ庭ニ並立ス
ルヿモアリシ

北河内村　大字　上坂井村　下坂井村　小坂村
桑竹村　宮田村　垣屋村　高坂村　倉本村
坂本村　栗栖村

北方氷上郡ニ接シ西ニ大山村アリ東ニ草山村ア
リ南ニ南河内村岡野村城北村アリ又小部分畑村
アリ　和名抄ノ河内郷ニシテ中世宮田莊トスル
モノハ此ノ地ナリ

道路ハ宮田村ヲ村ノ中ヽトシテ東北スレバ草山
村ヨリ福知山ニ至ルベク岐路アリ氷上郡ノ國領
ニ至ルベシ下坂井上坂井小坂ヲ經ル西北行路モ
亦國領ニ出ヅルヲ得其ノ南行スルモノハ直線南
河内村ニ出デ曲線西行スルモノハ大山村ニ入リ

京都府立総合資料館所蔵

東行スルモノハ岡野村ニ入ル之ヲ篠山街道トス
北方永上郡界一帯ノ山嶽起伏連續シ御嶽東南隅
畑村ノ間ニ聳チ二千六百六十七尺ノ高度ヲ保チ
西ヶ嶽城北村ト相界スル地ニ立チ二千二百九十
九尺ノ高峯ヲ示シ山脈西南ニ流レテ南河内ノ村
界ニ至リ西方大山村界ニ夏栗山アリ一千九百六
十七度ヲ仰ク其ノ脈南下シテ大山村ヲ界シ南河
内村界ニ至ル故ヲ以テ平地ハ宮田村附近ノ小數
アルノミナリ

戸數　四百七十二　明治三十八年　四百六十三　四十三年
　　四百七十　大正四年

人數　二千四百八十五　右同年　二千五百〇二　右同年
　　二千五百〇七　右同年

村高　二百五十六石　古時ノ驛亭ニシテ七十
戸ノ商賈工職アリ宮田町ト呼ビ市ヲ立テヽ免課
ノ地ナリシガ篠山町起ヲルヤ其ノ地ニ移リ其ノ
迹ハ屋敷ノ坪ト云フ名字ノミ遺レリ　莊園郎ナ私
領トシテ宮田莊興法寺ノ名殘レリ
五葉松　村社ニアリ有名ナリ
内場山古城
室町氏ノ時山名滿氏守リ天文ニハ山名和泉守豊
恒守リ東軍ニ抗シテヒブ豊恒ハ波多野秀香能瀬
久基ト高家三人衆ト稱シ八上城ノ大議ニ參與セ
シ宿將ナリ擧族コヽニ死ス

京都府立総合資料館所蔵

久下時重ノ子孫ト鍛冶
久下氏ハ大職冠鎌足ヨリ出デ次郎重光武藏國久
下莊ニアリ之レヲ氏トス重光ハ源頼朝ヲ佐ケ六
世ノ裔重光ハ足利尊氏ヲ助ケテ功アリ此ノ地ヲ
恩賜セラレ興法寺村ニ一宇ヲ建テ、祖先ヲ祭リ
珍寶山長光寺トス墓側ノ樫二株大樹トナル尊氏
ノ御教書ニ
可令早欲丹波國野原荘一條村迄木村迄同國宮田荘興法
寺村井原荘内下司文戸和泉守大内荘他所職田
等事被為宛行之旨忠戦功子孫等重貞別而訪
光明也早守先例可被沙汰之状如件
建武四年三月十日

右貞重ヨリ其ノ子孫三郎某ニ傳ヘ又其ノ子長光
ニ至リ應仁ノ亂アリ領國ノ守細川方トナリテ山
名方ト戰ヒ京都ニテ疵ヲ受ケ歸國セシニ讒ニ遇
ヒ本領没收ノ厄ニ遭フテ備前國ニ赴キ鍛鐵ノ法
ヲ習ヒ歸國ノ後之レヲ大成セント欲シ其ノ志ヲ
廣タラシツヽ彼ノ地ニ死ス云孫左近助ニ至リ此
ノ地ニ祖業ヲ襲ギ孫四郎兵衛光長ニ二ノ伯父筑
後守吉弘子次郎太郎長時ニ傳ヘ鍛冶太夫ト名乘
ル子助兵衛光政及ビ佐治兵衛重行等一家五系一
ハ宮田ノ本宗一ハ矢代ニ一ハ京都ニ一ハ大野村
ニ一ハ坂井村ニアリ傳ヘ云フ左近助吉弘天文中

京都府立総合資料館所蔵

波多野ノ一族晴通ト與ミシタルニ由リ室町ヨリ
攻メラレ深泊流浪シタルニ再住シテ本知ヲ復シ
後波多野秀治ノ時ニ没收セラレ遂ニ民間ノ一鍛
工トナリテニヨト真ノ累世鍛工ヲ以テ軍事ニ貢
獻シタルノ效績ハ左ノ如ク數葉ノ免許狀ニ見エ
明智光秀ノ免狀ニ
汝五人許役令免許畢於用不ル者也
伝馬件
天正七年二月十八日
宮田飯治
矢田飯治
豊臣氏免狀
宮田ト飯治五人ヘ
秀吉様伝被申上ル者ニテ候ハ、其役許成免
許ハ可不可有違乱者也
十月八日
津田小八郎殿 吉○
戸田三郎四郎殿 隆○
宮田飯治中
當村山役ニ成ル不動ノ内方文山役銭ニテ
令免許ハ可ル上
天正十六年十月十六日
後藤勘兵衛○
坂井村惣中
明智氏概書
定 宮田市場
一喧嘩口論押買狼藉停止ニ事

京都府立総合資料館所蔵

一国質討質請取沙汰許免能分ニ山族停止ニ
事
毎月市日　四日八日十二日十七日廿一日廿五日
右條々於違背ニ者遠所ニ遠所ニ変罪科ニ仍如件
天正八年七月　日　　秀吉
羽柴小枩九免許状
一急度申入候家ハ家ハ家ハ西京田町ニ武沙汰
者ニ申付候ハ何れも手ニ入候ハ入次ハハ為其
如此ハ如ハ書ニ
六月廿九日　石見守　吉重　花
石田三成奉行状

一宮田所沙汰ニ武自然不仕ハ付自然ハ口ハ不
可有慶儀者也為如此ハ以上
天正十六年六月廿一日　三利清左衛門尉　重勝
宮田所　殿中

丹波少将秀勝ノ奉行ヨリ下シタルモノ及ビ前田
徳善院時代ノ地頭免許状ハ大同小異ニツキ略ス
其ノ地頭ハ尾張清左衛門ト署名ス
慶長年中京都所司代板倉勝重ヘ差出シタル訴状
乍恐申上ハ
二条立売ト中書丹波ノ長弾正ノ山林ハ用所
相見ル時ハ代ハ此二条立売ト中書
系等ハ代下人ハ人数七人ハ一丁目

京都府立総合資料館所蔵

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二月二日　[illegible]
[illegible]

裏面
差紙

右者あしく[illegible]

亥三月
伊賀（印）
[illegible]

上杉藏人佐重範ハ藤原宇合ノ裔ナリ宇合十三世

正四位下左衛門督植椙（ウヱスギ）重房山陰道知事トナリ丹後國公門城屋形ニ居レリ之ヲ丹波丹後御所ト呼ビ嫡流ニシテ宮田ニ止マリシモノヲ重範トス英雄ノ資アリ八上管領ニ従ヒ天正年間八幡山ノ戦ニ仆ル

大字　下坂井村ハ宮田村ノ北ニアリテ比較上共ニ平地アリ高四百二十石

式内　川内多々奴比神社　村社　祭神　天照大神
須佐之男尊　祭日十月九日　元ハ九月九日

古説アリ曰ハク彦狭知神ヲ祭ルト　此ノ神ハ上古天祖カ石窟ニ籠モリ玉ヒシ時ニ楯ヲ造ラシメラレタリ又大己貴ヲ祭ル時ハ楯進者ト定メラル

京都府立総合資料館所蔵

後世大嘗會ノ時ニ楯縫氏神楯ヲ作リ奉ルハ其ノ神裔ナルニ由ル多々奴比ハ即チ楯縫ナリト創始ハ丹波道主命ガ賊徒平定ノ賽祭ナリ　本郡七社ノ一ニシテ古稱杉尾山神宮寺又ハ南光山蓮華寺トモ云ヘリトカヤ　一ノ宮ニノ宮アリ一ノ宮ヲ糖塚トモ呼ブハ本社創建ノ際ニ古糖ヲ棄テタル遺迹ト云フ祭神辯財天　脇立ニ天神隨身宮アリ　上坂井ニアリ　二ノ宮　祭神　天神　脇立ニ觀音勢至アリ　下坂井ニアリ

本社ヲ庄内十八村ノ氏神ト呼ビ祭禮ニ流鏑馬式ヲ行フ騎馬ノ家ハ古來定マリ猥ニ許知ヲ許サズ其ノ故族ハ高屋村ニ住ス衣冠シテ騎乘シ古器ヲ

携帯ス中古以來村人ヲシテ代乘セシム用馬ハ篠山ノ驛用ヲ借ル其ノ賃米一石二斗小坂村ヨリ獅子ヲ出ダス此ノ賃米三斗乘竹村ヨリ鋒ヲ出ダス他村夫レ〳〵旗及ビ花ヲ出ダス鉾旗花等ハ近世ニ始マル

村ノ極東ノ南ニ方リ西ケ嶽アリ其ノ北ニ鼓峠アリ郡ノ北方ヨリ船井郡ヘ通ズル村路ニシテ草山村ノ本郷ニ下ルベシ頂上ニ鼓形ノ孤田アルヲ以テ古ヨリ名アリ分水嶺ニシテ南下スルモノハ篠山川ノ源トナリ北下スルモノハ天田郡ニ入リ福知川トナル一小渠水ニシテ北海南海ニ分注スルヲ以テ土人コレヲ泣別田ト呼ブ

戸洲論

古戰場トシテノ鼓峠ノ歴史ヲ演ゼンカ　天正戰國ノ時ニ方リ尾張ノ傑將織田信長既ニ

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

近畿ヲ略有シ將軍家ヲ擁シ以テ山陽山陰ニ臨ム以爲ヘラク丹波ノ波多野ハ室町家ノ重臣爭デカ吾カ軍ニ抗セント使者三反丹波衆早ニ信長ノ姦雄ナルヲ知リ容易ニ應ゼズ信長怒リ明智光秀ヲシテ之ヲ討ゲシム（多紀郡波多野傳紀及ビ桑田郡其他ニ散見ス）管領波多野秀治之ヲ聞キ佯リ和シ最後ノ使者ニ告ゲテ曰ハク吾ハ和スベシ吾カ將赤井悪右衛門一類黒井ノ諸城ニ據リ吾カ命ニ抗シ和議ヲ妨ク吾カ力

京都府立総合資料館所蔵

光秀軍
雨中敗退

近畿ヲ略有シ將軍家ヲ擁シ以テ山陽山陰ニ臨ム
以爲ヘラク丹波ノ波多野ハ室町家ノ重臣爭デカ
吾カ軍ニ抗セント使者三反丹波衆早ニ信長ノ姦
雄ナルヲ知リ容易ニ應ゼズ信長怒リ明智光秀ヲ
シテ之ヲ攻ゲシム（波多野傳紀及ビ南桑田郡其他ニ散見ス）管領波
多野秀治之ヲ聞キ佯リ和シ最後ノ使者ニ告ゲテ
曰ハク吾ハ和スベシ吾カ將赤井惡右衛門一類黒
井ノ諸城ニ據リ吾カ爭ニ抗シ和議ヲ妨ク吾カ力
以テ赤井ヲ征服シ難シ請フ大衆ヲ以テ來リ討タ
バ幸甚ナリ吾其ノ先驅トナリ織田公ノ志ヲ爲サ
シメン信長コレヲ信ジ光秀ヲシテ先ヅ發セシメ丹
羽長秀瀧川一益等ノ兵一萬六千ヲ合ハセ惡右衛

京都府立総合資料館所蔵

門ヲ黒井城ニ圍ム秀治謀ノ圖ニ中タルヲ喜ビ夜中令ヲ發シ天明軍ヲ出ダシ同族宗貞ト吶喊シテ東軍ノ營門ヲ打ツ赤井勢亦打ツテ出デ狀擊シテ大ニ之ヲ敗ル光秀狼狽シ左右ノ數人ト東ニ向フテ山路ヲ逃走ス秀治其ノ將細見將監畑牛之丞等ヲシテ之ヲ數峰ニ要シ又コレヲ擊タシメ殆ト光秀ヲ生禽セントシテ堀部兵太夫及ビ戰ヒ之ニ死ス光秀僅ニ免レ兵ノ大半ヲ失フ土人コレヲ評シテ丹波ノ鬼ガ纖田ノ兵ヲ喰ヒ殺シタリト京都ニ喧傳ス光秀京ニ入リテ復命スルニ辭無ク且羞ゲ且怒リ必コレニ報サントス

長光寺址　下坂井ノ中央ニアリ觀音堂一宇ヲ存

上坂井村

坂本村

高坂村

又建武年間久下城主久下時重ノ創建ニシテ時重重光ノ墳墓アリ

大字　上坂井村　高四百二十石　下坂井村ノ西北ニアリ亦比較上平地ナリ

一ノ宮ノ丁前文多々奴比神社ノ下ニ出ダス　弘誓寺　明應三年僧祐賢創建郡中天名宗ノ首

大字　坂本村　高三百十石　住四ヶ本寺ノ一　龍藏寺　高仙寺天保寺ヲ含ム　氷上郡ノ神池寺ナリ

福德寺　北方山麓ニアリ用明天皇ノ御宇厩戸皇子ノ創建ニシテ三十五坊ノ大刹ナリシトゾ今ハ明治初年三院ヲ存スルノミ本名福德光寺

大字　高坂村　高七十七石　本村ノ北方ニアル

京都府立総合資料館所蔵

山中ノ僻地ナリ

庄屋勘右衛門　明和五年奇特者トシテ褒賞セラル時ニ三十五

村民一同ニ褒詞下ル風俗善良ナルヲ以テナリ　右同年

細見平太夫　明治初年ニ生マレ長シテ父ニ継ギ庄屋戸長等トナリ数十年公廉勵精村民ノ服従スル所トナリテ村治大ニ挙ガル給料一年玄米五斗村民ヨリ毎年五斗ツヽヲ増シ其ノ勞ニ報ユ領主篠山コレヲ聞キ領内希有ノ美事トシ其ノ屋敷地貢租高三斗ヲ永免セリ亦是レ希有ノ事ナリ

山崎ト明治十八年六月大霖數晝夜村北ノ山嶽俄

然鳴動シテ溪泉湧キ沙石流レ人家倒レ人畜溺ル田園ノ被害過甚ニシテ人々生途ニ泣ク

谷口仁蔵谷口亀蔵両人ハ細見勘右衛門ノ家族危急ノ厄ニ罹ルト聞キ自家ノ危殆ヲ省ミズシテ赴援シ勘右衛門トソノ両兒ヲ水中ヨリ拯ヒタリ官ヨリ二人ニ木盃ヲ賞與ス

大字　埴屋村　高二百五十七石

石窟　古代ノ墳墓カ形容ノ奇異ナルヲ以テ人怕シ近ヅカズ

百姓與市ハ浅平ノ次男六歳ニシテ褒美ノ下賜ヲ受ク兄弟ニ親睦ナルヲ以テナリ斯ノ如キハ實ニ此稀ナリ時ハ天明四年トス

京都府立総合資料館所蔵

小坂村

大字　小坂村　高四百四十二石

夏栗山一千九百六十七尺高々西北ニ聳ツ南面ハ禿シ北面ハ鬱々東ニ佐伸峠鏡峠アリ西ニ瓶割峠アリ共ニ水上郡ニ趨クノ途トス瓶割ノ名ハ水上郡國領村ニ出ダス

栗栖村

大字　栗栖村　高三百五十六石　極東北端ニアル離レ部落ナリ

農業出精者　安之丞　天明八年々齒三十三ノ時褒稱セラル

倉本村

大字　倉本村　高二百四十九石

農業出精者　百姓新太夫　天明八年々齒六十六ノ時褒稱セラル

雲部村

雲部村　大字泉村　倉谷村　春日江村　佐賀谷村　東本庄村　西本庄村　縣寺村　奥縣守村

村勢　郡ノ中央ノ稍東　雲部日置ノ二村東南ニ當リ畑村西ニ當ル

山嶽　東北西ヲ擁シ延キテ中部ニ及ブ　畑村ト共ニ古ノ宗部鄉ニシテ宗我部庄トナリシモノカ

家數　三百六十戸　明治三十八年　三百二十八戸　同四十三年　三百十一戸　大正四年

人數　一千九百四十口　右同　一千八百十九口　右同　一千七百七十六口　右同

田　二百三十六町二畝　畑十八町七畝　宅地五

泉村

倉谷村

春日江村

萬〇三百六十八坪　山林原野五百九十七町六反
其他十四町五段　直接國税五千七百九十四圓
縣税二千五百六十九圓
大字　泉村　高三百八十一石　元ハ畑村ノ内ナリシガ春日江ト共ニ中古以來此地域ニ入ル南部ニアリ

白栗カ竹ミの翠ますむ人ぐらろみるくろ年をこそふれ　夫木抄主基所ノ歌

孝婦　いし年三十八歳　安永六年褒美セラル
大字　倉谷村　泉村ノ北ニアリ西ニ山ヲ負ヘド
モ平田ニ裕ナリ
大字　春日江村　村ノ中央ニアリテ北ニ山ヲ負
ヒ南ニ田野ヲ拓ヘタリ舊名田半瀧村高二百二十
八石

熊按神社　大森神トモ稱シ伊弉冊尊ヲ祭ル　式
内神社ニシテ貞觀年月詳ナラズ　正慶二年三月
奈良ヨリ春日明神ヲ勸請シテ合ハセ祭リ是レヨ
リ春日江ノ名始マル　大森ニアリタルヲ不淨ノ
耕地アリトテ此ノ中山ヘ移シ相殿ニ鎮座シ奉レ
リ　大森ノ元ノ宮本ナリシ圓滿寺ニ社務アリ其
ノ庭ノ大樞一株太サ三丈ノモノハ蓋昔ヨリツノ
マヽノモノトカヤ
一説祭神ハ天照大神トスフ　熊按一ニ熊鞍ニ作
ル俗間コレヲ熊安大明神ト呼ブ　北河内村ノ多
々奴比神社ト共ニ埋没シ世コレヲ知ラザリシヲ

京都府立総合資料館所蔵

明治維新調査ノ際ニ顧ハレタリ當時社坊内ノ小社天滿宮ニ合祀セラレアリシナリ　俗間ノ傳說ニ云フ昔年此ノ地ニ田井加行ナルモノ住メリ春日大明神ノ信仰厚ク年々欠カサズ奈良ニ參籠シタリシニ老耄ヒラ身體不自由トナリ思フニ任セヌヨリ遂ニ奈良ノ御分身ヲ得テ此所ニ勸請シ大森春日神社トシ三嶽山圓滿寺般若院ト云フ兩部神道トシテ高野山ノ末寺トス　文武天皇大寶二年壬寅三月十八日ノ勸請ニヲ小野庄六箇村コレヲ氏神トス而シテ熊按神社衰ヘタルナリト　大般若經寫經百二十冊新古版四百五十八冊アリ寫經中保安年中ノモノ四卷安元三年ノモノ三卷文治五年ノモノ二卷建久二年ノ九卷應安元年ノモノ一卷アリ

新宮正一位神社　祭ル所ハ熊野三所權現ニシテ新宮早玉權現ノ垂迹ト云フ　本地藥師如來脇士阿彌陀佛（左）觀世音菩薩（右）一說左ハ飛龍權現（右ハ）精誠權現

妙靈教　祭神　天御中主神　高皇產靈神　神皇產靈神　天照皇大神

妙々々ト稱ヘテ信仰ヲ表ス开ハ造化妙靈天一神王ノ句中ノ妙ノ字ヲ取リタルモノ　教會所ハ西部ノ丘上ニアリ一時ソノ流行セルヤ他郡ニモ及ベリ創始者山内利兵衛　維新前ノ人

京都府立総合資料館所蔵

大字　東本庄村　高東西合八百十石

小字城山ノ坪古墳ハ國ニ示セルガ如ク東西八十間南北廣キ所ニテ四十三間アリ西部ノ方高クシテ其ノ最高ノ所十四間ノ圓形ヲ爲シ十六間幅ノ堀ヲ以テ繞ラセタリ之ヲ主塚トシ更ニ南北十二間ヲ間テヽ陪塚アリ　恰大車ノ如ク本塚ヲ車身トスレバ陪塚ハ其ノ兩輪タリ　總面積二町三段八畝一歩　口碑ニ田レバ國司大納言資方ノ住居ノ所トモ牛塚ノ名アルヨリ死牛ヲ埋メタル所トモ云ヒ東本庄村ノ共有墓地トナリ荒廢ニ附セラレタルヲ日置村ノ波部本次郎ソノ調査ニ心ヲ盡クシタルヨリ世人ノ注意スル所トナリ官吏ニ學者ニ有志人ニ來リ臨ムモノ年一年多クナリ種々勸告スル所アリ　明治二十九年五月村役場ヨリ試掘セシメタルニ三尺ニシテ一大板石ニ當ル之ヲ取リ除ケバ暗窟ニシテ異臭ヲ發フ　是レゾ石槨ニシテ東西一丈七尺三寸南北五尺一寸高サ四尺九寸アリ其ノ中ニ一石棺アリ東西七尺二寸南北三尺四寸高サ二尺六寸アリ朱ヲ以テ埋メタル迹アリ棺傍ニ刀劍槍鏡鎧ト見ルベキモノヽ片々及ビ鍍金環尾磁器等百餘品アリ

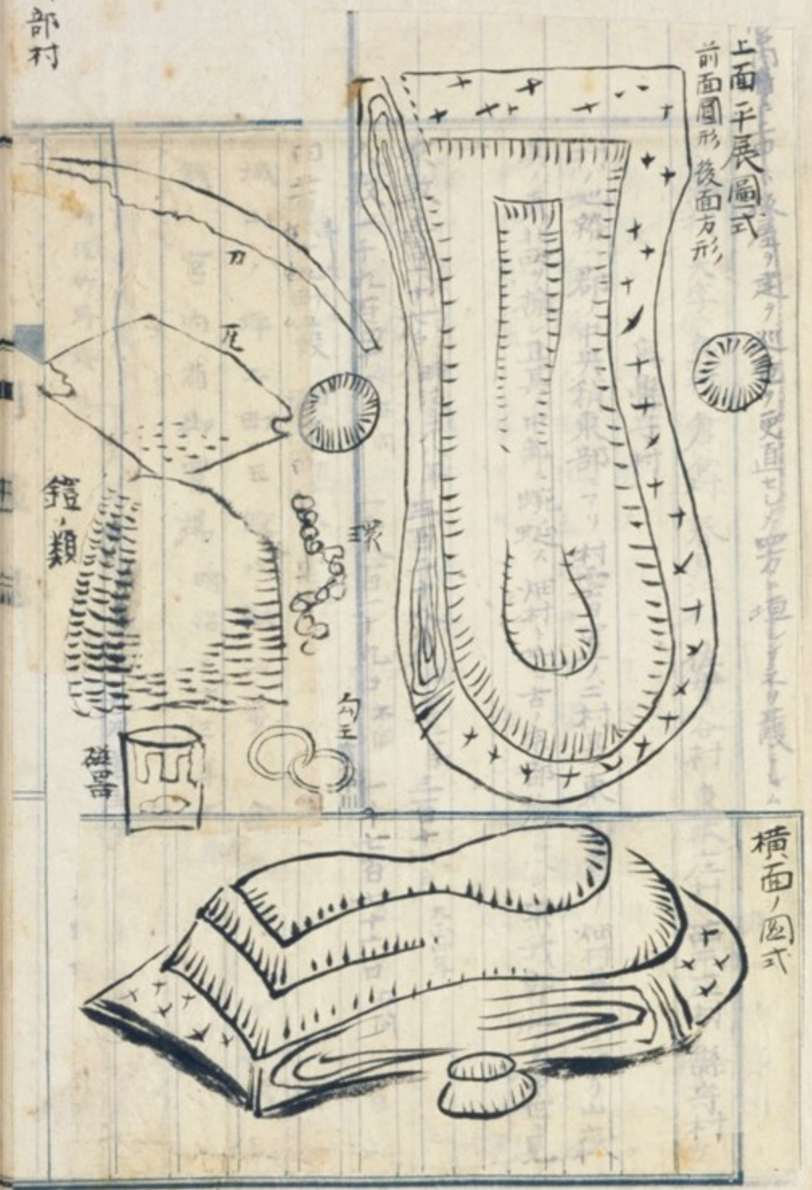
明治三十六年六月九日諸陵助藤田健ノ臨檢アリテ丹波道主命ノ墳墓ナルベシトノ說定マル宮内大臣ヨリ諸陵寮ヲ經テ便宜ノ方法ヲ立テ鄭重ニ

京都府立総合資料館所蔵

保存スベシトノ令アリ此ニ於テ東本庄村ノ協議費ヲ以テ監守人ヲ置キ掃除警戒ヲ爲サシメタリ著者ガ來着シタルハ此ノ時ナリ鐙鞍ハ碎ケ刀劍ハ折レ勾玉皿ノ類ニ僅少全形ノモノアリ皆発掘者ノ有トナレリ他ノ古穴ヨリモ同品類出テタリ刀劍鎧槍刀ノ類ハ京都帝國大學ニ預ケルヿトナレリ

道主命ノ墓ヲ牛塚トスルハ餘リ相違ガ甚シイデハ無イカトノ疑問アリ或ル人之レニ答ヘテ曰ハク道主ヲ畧シテ主ト云ヒ主ノ墓ガ一轉訛シテ牛ノ墓トナリシナリト

雲部村



京都府立総合資料館所蔵

此ノ塚ノ東ノ一川ニ高野川ト呼ブ所ハ竹野川ノ誤ニテ金ノ祖母ナル丹波竹野媛ト命ノ女子ノ竹野媛トノ二同名ノ何レカヨリ名ヲ附ケタルモノカ　車塚ノ西北三町四十間ノ姫塚一名楓塚ハ王女竹野媛ノ墓ナルベシ　城山楓塚隔塚鳥居山観座山等ヨリ種々ノ祭掘物アリ

発掘日私祭　年々其ノ記念トシテ五月十九日此ノ塚ニ於テ祭典ヲ行フ

城山ノ坪二町三段八畝一歩　金六百三十四圓六錢　宮内省御買揚　明治三十三年七月六日

開化天皇
彦湯産隅命彦坐之
丹波竹野媛
丹波道主命
日葉酢媛
竹野媛

一說
孝元天皇
丹波竹野媛
彦湯産隅
道主命
焼津媛
彦坐
一作姪津媛 開化天皇ノ妃トモ云フ
前ノ竹野媛 父由基理丹波大縣主
北陸大彦命古墳 秋田縣羽後國南秋田郡寺内村ニアリテ國幣小社タリ
右ノ外ニ於テハ 三重縣伊賀國阿山郡府中村一ノ宮ニテハ國幣中社タリ
東海武淳河別命 福嶋縣岩代國大沼郡高田村伊佐須美神社トシテノ
祭ラレ國幣中社タリ 尚ホ父ナル大彦命ヲ合祀ス
西海吉備津彦命 岡山縣備中國賀陽郡真金村ニ國幣中社ニ祭ル
墳墓ハ備前國津高郡一宮村尾上ニアリ
四道將軍ノ任命ハ今大正七年ヲ遡ル一二千〇〇
七年崇神天皇ノ十年ナリ 秋九月

縣守村

洞光寺 北方山麓ニアリ寶鏡山ト云フ 曹洞宗
正眼寺ノ末寺ニシテ中本山ノ資格ヲ有スル巨刹
ナリ 本尊十一面觀世音 五十ノ末寺アリ 應
安四年天鷹和尚ノ開基 足利氏ヲ以テ大檀那ト
ス將軍義滿ガ尊氏ノ爲ニ法華一万部ヲ山城内野
ニ修スルヤ和尚ヲ導師トス 時ニ尾張ノ大守法真
來リテ陪席シ後年正眼寺ヲ尾州ニ建テ和尚ヲ聘
ス此ニ由リ同寺ノ末寺トハナレルナリ 天正ノ兵
火ト萬治ノ失火ニ罹カリ又明治九年ニ焼失シ大
正元年直々建ス境地千二百餘坪門前ノ池ニ菖蒲
アリ觀ルベシ

大字 縣守村 高三百二十九石

京都府立総合資料館所蔵

奥縣守村

孝女しな　熙田農小平ノ女年四十一歳　天明七年褒美

農業出精者　藤右衛門　天明八年褒美

大字　奥縣守村　高三百二十九石　産物砥石

八上村

八上村　大字　糯ヶ坪村　池上村　小多田村

西八上村　八上内村　八上下村　奥ノ谷村　善左衛門嶋村　松ノ木嶋村

村ノ地位ヲ日ヘバ東方ハ日置村ニ隣リ西方ハ城南村ニ接シ北方ハ篠山町ニ界シ南方ノ平尖援津ノ有馬郡ニ界ヲ分ツ

道路　篠山ヨリ來ルモノ北部ヲ通過シテ日置村ニ入リ城南村ヨリ來ルモノ中央小シ北方ヲ横切リ亦日置村ニ入ル

南方山嶽ノ脉延キテ中央ニ突出シ東西亦コレニ和シテ南方欝々タリ

川流ハ北方畑村ヨリ來ルモノ北方ヲ通過シテ城

京都府立総合資料館所蔵

南村ニ下ル

戸　三百九十四　明治三十八年　四百二十九　同四十三年

四百十五　大正四年

人　二千一百七十九　右同年　二千二百〇八　右同

二千二百七十一　右同

田二百八十三町四段　畑十三町九段　宅地五千

三百六十三坪　山林原野五百三十八町三段　其

他六町九段

直接國税　七千四百二十七圓　縣税　三千四百

〇九圓

與謝谷村　元録高　西八上村ヲ合ハセ三百石　文久改

八上下村　七百九十一石　文久度　高九百九十七石

新村ヲ合ハス

小多田村　七百五十六石

池上村　五百七十四石

孝子　東小多田村　大工平矢衛妻たね四十一歳

天明八年褒美

同　新村　無田百姓三右衛門妻とめ三十一歳同

年褒

農業出精者　小多田村百姓太郎矢衛同年　同事

同　池上村百姓傳矢衛　同　同

産物　栗　亀岡ノ栗　羊羹　東京栗ノ蜂蜜漬

等ハ多ク此ノ邊ヨリ大山邊ノモノヲ用ユ

穭ヶ坪村　稲荷社ヲ　産物ニ麻紙　地ヨリ篠川

京都府立総合資料館所蔵

畑村　大字　畑宮村　今谷村　火打岩村　奥畑
村　九山村　瀬利村　和田村　菅村　大渕
村　大上村　般若寺村
北ニ草山村アリ南ニ日置八上ノ二村アリ西ニ城
北村アリ東北村アリ東北僅ニ村雲村ニ接シ而シ
テ東ノ方雲部村ニ連ナル所一出一入シテ不規則
ナル疆界線ヲ引ク
村地處トシテ山嶽無キハ莫ク北方草山村ノ間ニ
二千三百九十六尺ノ小金ケ嶽ノ聳ツアリ南ニ續
キ二千六百六十七尺ノ御嶽ヲ仰キ其ノ餘勢六派
七流シテ南下シ平地極メテ寥々タリ
川流　二源一川トナリ火打岩村ヨリ南下シ日置

ノ水ヲ引キテ古市ニ達セン深河ヨリ田松川トシテ
ハ　糯ケ坪ハ多紀郡地方ノ言トシテ八上ノ村野近邊ノ四ツ唱ヘ
篠山ヲ西佐ニ西ニ猪迫ヨリアリ篠山ノ當地ヨリ目下
越廣郡設置区域ナリ
ロ　此ノ疏水事ハ明治初年亀山藩主松平侯藩ノ篠山藩
臣黒田鵬名ノ累ト協力ニ出リ成ル名称ニテ川名ハ
氏ノ苗字ヲ取リタナリ

畑宮村

村ニ落ツ　又一源アリ丸山々中ヨリ城北村ニ入ル

戸　四百十二　明治三十八年　三百九十五　四十三年

四百十一　大正四年

人　二千四百十一　右同年　二千百九十四　右同

二千百八十五　右同

舊稱宗我部郷　中古波多野莊ト呼ブ　田二百六十五町五段

畑十九町三段　宅地五万五千五百十四坪　山林原野九百七十六町四段

其他六町四段　直接國税七千。五十一圓　縣税三千一百。六圓

大字　畑宮村

佐々婆神社　式内　孝靈天皇敕願創建　天忍穗耳尊　天兒屋根命　表筒男神　中筒男神　底筒男神　應神天皇ヲ祭ル　佐々婆ヲ笹葉ニ作リタル文アリ誤レルナリ

昔時コノ筒男神ガ天窟戸ノ前ノ奏樂ノ際真辟葛ヲ手纏トシテ竹葉ヲ手草トシテ俳優仕奉リキ其ノ竹葉ヲ手草ニシタルニ因ミテ佐々婆神ト稱ヘシトカヤ樂々庭トモ書タリ一説天鈿女ノ命ヲ主神トスト元ハ瀬川ニアリシヲ延喜年中今ノ所ニ移スト云フ天正年中トモ云フ相傳フ祠中ニ春日住吉二神束帶ノ立像アリ延應元年後鳥羽上皇ノ神靈ヲ隱岐ヨリ迎ヘ奉リ此所ニ勸請ス當時神託アリ樂々庭明神ノ舊稱ヲ正八幡宮ニ改メ神體ハ仁和寺法助法親王ノ御作文ナリ之ニ因リ祭日ハ

京都府立総合資料館所蔵

八月十五日ニ京都八幡祭日ニ同ジ

應仁以後廢墜セシヲ將軍尊氏ニ由リ再建セラレ曾我莊ノ寄進モアリ明德三年細川右京大夫頼元ニ由リ再造セラレ嘉吉元年細川下野守滿國ニ由リ改造セラレ弘治中畑三河守經時同牛之丞經房同惡太夫經秀ニ由リ更造セラル

本社兩部別當ハ眞言宗ノ僧ニテ仁和寺ノ籍ニ入リ京都洛西御室御所ノ管下トス其ノ居處ヲ鷄谷山願成就院ト呼フ此ノ院ハ文安年中畑三河守ニ由リ建立セラル

境内除地百四十間四方此ノ祠ノ兩部トナリ唯神道ノ鳥有ニ歸セシハ天和年中ノコトカヤ正一位贈進宣下ハ天和二年吉田兼連卿ノ文ナリ長刀一振尊氏寄附馬鞍一具細川頼元寄附金剛界曼陀羅土御門天皇御寄附胎藏界曼陀羅承明門院御寄附現存金剛界ハ舊物ニテ其ノ他ハ天正ノ乱ニ燒失ス後ニ出來セルモノ画像類多シト云フ

仁王門モ寛永十二年ニ燒ケヌ

祭式 本社ヨリ北六町ニアル旅所ニ至ルノ行裝

八月十五日 維新後改九月十五日

清道（菅村ノモノ三人番外） 一番 大鼓員 二番 獅子猿

田彦ノ假面 三番○○ 四番槍 五番薙刀

六番 二張立ノ弓 七番

九番 榊 神輿二臺（八幡一臺 春日住一臺） 十番 社僧 歩行

京都府立総合資料館所蔵

十一番　巫頭　十二番　神酒瓶　童女コレヲ持ツ
十三番　大庄屋　庄屋　十四番　騎童一人　以上
騎射五回　内三回ハ天下泰平國家安全ヲ祈祝シ
二回ハ村民延命ヲ祈祝ス　流鏑馬式
馬場二百二十三間　有地村ノ地ヨリ瀬利村ノ地
ニ渉ル
靈岩　名ヅケテ示現石トスフ　細川滿國武運長久
ノ爲ニ百日詣ヲ爲セシ滿頼ノ日本社ノ神影コノ
石上ニ示顯セリト
鍛工　畑國俊ハ來國俊ノ弟子ニシテ師名ヲ襲ゲ
リ永仁五年此ノ地ニ生マレ貞和四年ニ沒ス齡五
十二同名一人アリ紛ラハシ孰レモ良工ナラズ

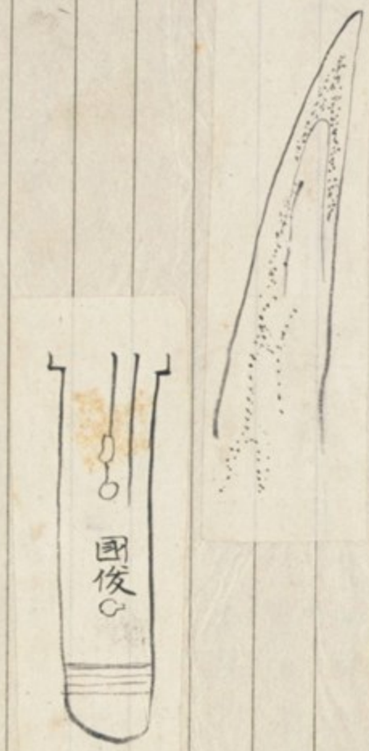
國光ハ國俊ノ弟子ニシテ師弟同住ス文和四年ニ
生マレ五十六ニシテ沒ス
國俊ノ刀姿ハ鎬高クシテ蒼茂リ鍛正目ナリ直刃
ノモノ多ク間ニ亂レ刃アリ鋩子ハ杉形三ツ棟又
蓑棟アリ樋ハ棟ノ方ニ流レ連樋多シ銘ハ國俊ト
モ丹波住富國トモ丹州住畠國トモ切リタルアリ
中心ハ反リテ角棟ナリ先ハ栗尻ニシテ横鑢ナリ
又來ノ一字ヲ切リタルモノ多シ故ニ紛ラハシ
此ノ外丹波ノ刀工トシテ長末幸貞國光國定正國
正次國真國實幸次幸真光助光包有正重利清光幸
成元真金重爲友ナドアリ総論ニ概見ス

京都府立総合資料館所蔵

奥畑村

大字　奥畑村

奥畑トハ云ヘ中部ニアリ前古ノ畑ニ對シテノ名トス山嶽三方ヲ擁シ南面僅ニ開ク火石岩村ヨリ來ル一水田野ヲ潤シテ又南下ス此ノ兩間ニ耕



地ナリ

茶臼山　正中ノ頃ニ山名氏清カ自ラ築キ自ラ居リシ城アリ明德ノ後ニ其ノ子ニシテ宮田ト名乗レルモノ此所ニ據リ應永ノ頃ニ山名時氏來リ守リ山名禦時ニ伐タレテ退居シタリ

八百里山ハ即チ茶臼山ニシテ一山二名ナリ高サ四百四十四米突アリテ四面鬱蒼タリ天正ノ頃ヨリ茶臼山ノ名著レハ百里ノ名顯ハル天正年間畑牛之丞守能據リ以テ武威ヲ一方ニ張ル守能守廣初名牛太郎後ニ彈正忠ト呼ブ人ト爲リ驍勇善ク戰フ伯父守廣ノ養子トナリ大渕ニ住シ城ヲ此所ニ築ク東軍ノ明智勢ニ攻メラレ此ノ城ニ防戰シ城

京都府立総合資料館所蔵

陷リ守廣死ス守能剃髪シテ出テヽ降リ老牛法師
ト稱シテ佛道ニ入リ永澤寺ノ徒弟ドナリ又高野
山ニ入リ終焉セリト傳フ夏ノ先祖ヲ武藏ノ人ト
ス故アリテカ此ノ地名ヲ以テ氏トシ子孫亦此ノ
地ニ出入ス時能義ニシテ勇新田義貞ニ從フテ戰
功アリ延元二年義貞越前ニ戰死ス時能殘矢ヲ擁
シテ戰ヒ暦應元年十月廿三日同國鷹巣城下ニ戰
死ス子六郎能速父ト志ヲ共ニスル江田行義ヲ便
リ此ノ地ニ潛匿ス孫守道ニ至リ室町將軍ニ懷柔
セラレ管領細川氏ニ屬ス細川氏ハ丹波ノ國主タ
レバナリ守綱ハ時能七世ノ孫ナリ左ノ盛狀ヲ波
多野ヨリ受ケタリ其ノ文ニ曰ハク

今度被對輝秀抽忠節諸士被
[illegible]仍為我部[illegible]
一族中後[illegible]令不一[illegible]
如件

大永元年、辛巳九月日　輝秀　畑牛左ヨリ

尚ホ一通アリ曰ハク　舟井九郎左ヨリ國岩戒谷ニ奥谷ヲ
為令力迫[illegible]一[illegible]孫[illegible]旅[illegible]
[illegible]地ヲ迫[illegible]移[illegible]地[illegible]
[illegible]迫[illegible]

弘治二年十月廿二日　孫四郎　元秀　○

畑七郎左衛門殿

京都府立総合資料館所蔵

或ル家（畑ノ末流）ノ寫本ニ曰ハク牛之丞守能ハ守廣ノ次男ナルガ父ト相性惡シトテ伯父ノ子トナリ波多野ノ家臣トナル　牛之丞牛兵衛牛之助ハ一人三名又六郎左衛門ト云フ守廣波多野亡ビ攝津ノ永澤寺ニテ得度シ次男三男（皆牛ノ字ヲ名トス）共ニ高野山ニ登ル篠山築城ノ時藤堂高虎其ノ奉行トシテ當地ニ來ルヤ召シ出レテ客臣トス守廣ノ僧名病牛ナルヲ宜シカラザル名トシ改メテ老牛法師ト呼バレム年經テ死ス其ノ子ノ二牛ハ淺野彈正少弼方ニ客居シ遂ニ其ノ藩臣トナレリ

矢織城郭郎ヲ　八百里　又茶臼山城　奥畑ヨリ瀨利ニ涉ル

本城東西二十二間南北十二間　家老屋敷東西十八間南北七間　東第二ノ廓東西八間南北六間　東第三ノ廓東西八間南北六間　東第四ノ廓東西四間南北同　東第五ノ廓東西六間南北四間　西第一ノ廓　西第二ノ廓四方各八間　西第三ノ廓東西八間南北六間　西第四ノ廓東西十間南北六間　西馬場切上廣サ六間深サ二間　西第五ノ廓東西八間南北六間

南第一ノ廓　南第二ノ廓東西五間南北十四間

大手道東南ニ開ク　搦手道北方ニアリ

京都府立総合資料館所蔵

藏屋敷本九下四十間ノ所ニアリ

城門　右廓　南ヨリ西北二十二間ノ下ニアリテ

方三間

畑氏ノ系譜略

○時能（六郎左衛門　贈正位）

守綱（牛太郎　内膳）

忠綱

能綱

守廣（彈正忠　石見守ニ戦死）

守能（牛之丞　老牛法師）

能國（牛右衛門）

能忠（牛之丞）

能速

能道

能永

守重

能重

經重

守道

守永

此ノ山ノ東南禁ニ能速以下守廣守能ニ至ル五輪塔アリ守國ノ碑ハ高サ四尺餘表面ニ

健勇畑君墓ノ五字アリ三方面ニ文ト銘アリ曰ハク

君諱守國俗稱牛矢衛姓畑氏其先武州人當後醍醐帝之時有六郎左衛門時能者屬新田氏以四條稱詳于世史其子諱時遠自武徙丹憑江田行義城多紀郡濱利村八百里山而居焉其子諱能道屬管領細川氏其子諱守永其子諱守重於君爲高祖曾祖内膳諱守綱屬波多野輝秀祖考彈正忠諱守廣天正七年七月廿五日明智光秀率大衆來攻急矢寡無援城陷爲敵致首年八十五考牛之允諱守能以驍勇聞要敗光秀於草山再後不得志祝髮於永澤寺更號老牛君天資英傑技勇絶倫數赴軍數有功天正五年豐公陣於播州畫寫山波多野氏遣君通懇懃公欽其健勇賜所珍重黑鎧尊金且自

京都府立総合資料館所蔵

點茶而供焉七年五月五日氷上郡八幡山之役預
察其不利且期其戰死自擐厚金奮激赴軍大呼衝
敵獲首數級身亦破疵流血淋漓鎧色慶朱卓死不
仆年三十五當時稱其勇悍比辨慶云有男三人曰
瑀左衛門曰彦兵衛曰六右衛門割據之間州郡數
易其主世々歷事爲士干戈始戰仍邑爲廣長居瀬
利次居犬折巖至守明守勝凡七世瓜瓞綿々奉其
祭祀六右衛門騰氣不羈最好劒術窃悲先人之下
墜官遊江戸仕越前侯始祖參議秀康卿賜采六百
石卿四子少將直政朝臣始分封雲州因隨而徙至
寛濟凡六世寛濟悲其墳墓蕪穢相謀守明守勝等
更立碑於八百里山麓墳墓地追辨健勇錄其事於
碑陰以貽後昆報本重先之意深哉請辭於余因銘
曰

赫々功烈當日希倫實勇有餘威怖人神偉戈老
健謀謨惟寅夙夕鈇鉞抃忠忘身鴻名四隆何啻
千春嗚呼遐福子孫振々

文化改元甲子夏五月　篠山後學　源　文伯撰

雲藩來孫　寛　濟　建

寛濟ハ右文中ニ見エル六世ノ來孫ニテ出雲藩士
タリ其ノ子孫ナリ松江ニ住スト聞ク

神護山大寧寺　北方ノ山下ニアリ曹洞宗護國寺
末　開山惟忠守勤和尚　和尚ハ京都ノ南鳩ノ峰
八幡宮ヲ尊崇シテ鎮守トシ八幡大菩薩ノ宮ヲ建

京都府立総合資料館所蔵

大布岩

テ山麓ヲ立テヽ神護トス開基ハ細川下野守持春ガ先考滿國ノ菩提ノ爲ニシタル所　寛文中燒失延寶年中篠山藩主松平若狭守再建　本尊正觀音賽者常ニアリ末寺十餘アリ

大字大布岩村　此ノ地ハ中央奥畑ノ小シク北ニアリテ東ニ偏シ村雲村ニ接スル山中巷ク大布岩又ハソレニ類似スル所ノ岩石ヲ以テ充滿スル地トス村名ノ起原モ由ル所アリ　四面皆山南方僅ニ開ク

道路ハ草山村ヨリ南下シ來ル篠山街道アリ以テ奥畑ト相往還スルノ一條ノミ

川流ハ北方小金ケ嶽ノ溪水ニ線下リ此ノ所ニテ合ヒ南ニ注ギ日置村ニ入ル

永明門院御陵墓　東方ノ山下ニアル古刹平石楞嚴寺境内ニ六尺許ノ圓塚ハ從三位准三宮承明門院在子ヲ葬リ奉レルモノ門院ハ淡勝寺執行能圓ノ女正治元年從三位准三宮トナリ建仁二年門院號ヲ加ヘラレ建暦元年落飾シテ真如妙ト名乘リ玉ヒ正嘉元年八十七ノ齡ヲ以テ崩ジサセラレヌ

承久三年五月後鳥羽上皇北條氏ノ暴逆不臣ヲ懲ラシ玉ハントテ近畿十四ヶ國ノ兵ヲ募ル丹波亦與カル集ルモノ僅ニ一千餘人事成ラズシテ土佐ノ國ニ配流セラレ玉フ此ノ時門院ハ已ニ落飾アリ夫皇ト別レテ此ノ地ニ匿ル此ノ地ハ新田氏

京都府立総合資料館所蔵

ノ殘黨アリヲ勤王忠義ノ士アルニ由レルナリ御子土御門天皇モ流サレ土佐ニテ崩御アリト聞キ門院ノ御悲深ク遺骨ヲ乞ヒ受ケ之ヲ金陵ニ葬リ御追福ノ爲アリ御年七十三ニシテ御孫後嵯峨天皇ノ御即位アリタルモ終始此ノ寺ニテ後世安樂ノ結願ニ時ニ終焉シ玉フトゾ　畑氏ガ紋ハ菊一文字コレハ是ノ門院ヨリ賜ハリタルモノトシテ畑氏ノ後昆ニ至リ之ヲ襲用スルヲ見レバ主トシテ畑氏ニ倚ヒ玉ヒタルナラン　前示佐々婆神社ノ條文ヲ參看セヨ

大字九山村　四方皆山　些サノ較平地ヲ以テ一聚落ヲ成ス山ヲ間テ、西ニ城北村アリ

北方ニ聳ツ峯ハ四時多ク雲ニ掩ハレ冬期早ク雪ニ掩ハル郡中ノ最高峯ニシテ海面ヲ拔クヿ七百九十三米突名ヅケテ三嶽ト云フ小金ケ嶽ノ東ニアル西ケ嶽ノ西ニアルヲ以テ中央ヲ表シテ左ハ名ヅクタリ古時籃波ケ峰ノ稱アリテ修驗者ノ靈地ト崇メ行者山ノ名モアリ三嶽寺ノ遺址アリテ存ス三山ヲ惣稱シテ畑山ト呼ブ然レドモ其ノ一ナル西ケ嶽ハ隣村城北村ノ地域ニアリ晴天ニ登攀スレバ愛宕山ヲ東望シ六甲山ヲ西望シテ二州ノ高頂ニ接シ天田郡ヲ北方ニ俯看ス尚ホ日本海ヲ些シク眺ノ得　山北一面石楠花叢生シ春夏ノ交ニハ團々簇々人目ヲ慰藉ス釋迦如來降誕ノ日ノ

京都府立総合資料館所蔵

供花ニセントテ来リ切ルモノ多シ之ヲ四方ニ賣ル爲トゾ　可惜事ニハ明治三十七年樵夫ノ一炬ニ焦土トナリテンヌ　小金ヶ嶽ニ水晶水銀ヲ出ダス

篠澤池　安永年中篠山藩主青山下野守忠高ガ造レルモノ七十日間ニ人夫七千四百八十五ノ延數モテ成功シ知足谷ニ流レ遠ク澤田里岡マデ灌漑シ百餘町歩ノ田園ヲ潤澤ニスルモノ此ノ池ノ成リテヨリ復旱數ヲ許ヘズ篠ノ字ニ實ノ義アリ又草木繁茂ノ意アルヨリ命名セリ碑アリ

表面　篠澤池碑　側面　篠山城主下野守從五位下藤原朝臣忠高建　碑文ニ曰ク

知足谷泉發源于籃婆諸山合流逶迤南下溉田沮洳所及數百頃皆蹟膏腴也先是甲寅年歲大旱佃者怨咨其流不潤藩主有隱於此日嘗疎瀆而不渴者猶如彼則其時受瀆而無涼耳謂之何徵諸古昔天災流行遑遑仍臻若湯旱復運于今未知之何也已然古有言曰雲雨由人則天工庶乎哉可代哉於是明季辛卯春隨山擁谷瀦爲池於數處以備旱魃而此爲甲寅二月二十六日甫興役而五月四日工竣役夫凡七千四百八十有五人矣而是歲亦果大旱佃者賴其利以免杭稉由名曰篠澤池周廻凡二百六十步設閘洩蓄若開而撤之凡十一晝夜則輟然猶五尺許剩水々底疊石磊砢不能輒掠水物是乃

京都府立総合資料館所蔵

畑村

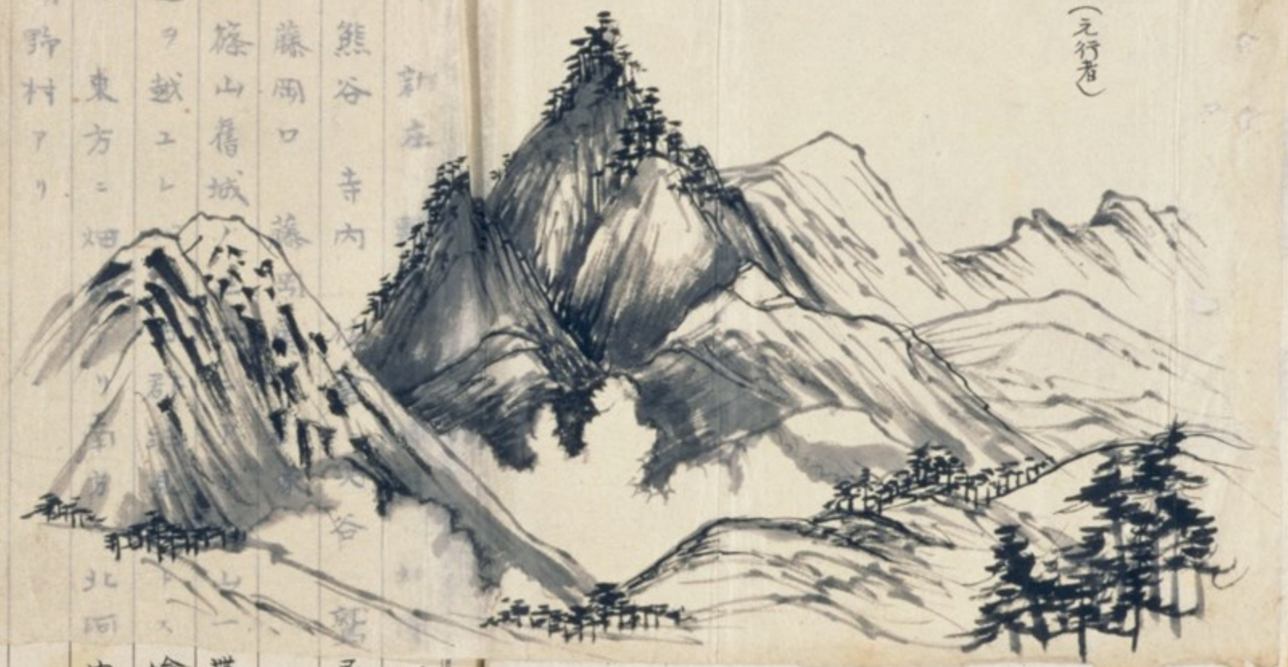
渓間僅ニ田園ヲリ然トモ
其ノ收穫ハ以テ其人ヲ飽
スルニ足ラズ

藩主造意也愛人及物可謂博矣而北郊春日廟旁
舊有市杵嶋姫祠今年癸巳春奉遷其祠于地上葺
而新之是以其左右太張之政民所翼戴僕旱澇降
災則薦彼溪毛斯禱斯賽俾其有倚矣於是諸佃戸
靡不仰戴藩主德意而歡感之餘乃偕謀鳩材董土
又柱楣而架重屋於祠上以防雨朽青蠹且以花木
來環栽殆千成林藩主亦欣然於此乃命臣世美曰
記焉以垂後昆因據有司所狀謹撰次其要以鐫石
池上平爾

安永二年癸巳秋九月朔日　篠山文學　関世美謹并書

京都府立総合資料館所蔵

城北村



三嶽山（元行者）

城北村　大字新庄

黒岡　熊谷　寺内　田

知足　藤岡口　尾

本村ノ地位ハ篠山舊城帶北

鐘ニアリテ之ヲ越ユレ嶮峻

谷島ニ通ゼズ東方ニ畑

アリ西方ニ岡野村アリ　内村

ニ線ノ水路本村ノ東西ヲ畫斷ス其ノ西

ケ嶽ノ西谷底ヨリ流レ下ルモノト東隣畑村ノ丸

山ヨリ下ルモノト共ニ南流シテ篠山川ニ入ル

道路ハ篠山町ヨリ畑村ニ通ズルニ線アリテ新庄

ニテ合シ更ニ東行スベク南方篠山ヨリスルモノ

京都府立総合資料館所蔵

城北村　大字　新庄　野間　澤田嶋　北澤田
黒岡　熊谷　寺内　佐倉　大谷　鷲尾
知足　藤岡口　藤岡奥　郡家

本村ノ地位ハ篠山舊城ノ正北ニアリ深山一帶北疆ニアリテ之ヲ越ユレバ天田郡細見村トス嶮峻容易ニ通ゼズ　東方ニ畑村アリ南方ニ北河内村アリ西方ニ岡野村アリ

二線ノ水路本村ノ東西ヲ劃斷ス其ノ西ヶ嶽ノ西ヶ嶽ノ西谷底ヨリ洩レ下ルモノト東隣畑村ノ九山ヨリ下ルモノト共ニ南流シテ篠山川ニ入ル

道路ハ篠山町ヨリ畑村ニ通ズルニ線アリテ新庄ニテ合ヒ更ニ東行スベク南方篠山ヨリスルモノ

京都府立総合資料館所蔵

一線アリ就レモ大字某々ニ分岐ス

北疆ノ山又山ナルニ反シ南方ニ平衍ノ耕地ヲ有ス

戸數　四百八十四軒　明治三十八年　五百四十七軒
同四十三年　五百四十三軒　大正四年

人數　二千七百七十口　右同年　二千九百四十八口
右同年　二千九百〇五口　右同年

田　四百二十一町一段　畑　二十九町八段　宅地　七萬四千〇四十坪　山林原野　一萬〇五十八町四段　其他　十二町

直接國税　壹萬壹千六百五十九圓　縣税　四千九百七十六圓

日置莊ノ古地ナリ此ノ邊ヨリ城南村篠山町ヲモ包含セルモノ歟目今村名トセル日置ハ古ノ日置ナラデ名ト地ト變更シタルナラント云フ（本郡ノ日置村船井郡ノ日置寺参看）

主基ノ歌　くもりなき君の御代はあかねさすむかきの里も

紙ひこばえる　夫木集　匡房

昭宣公藤原基經ハ勲功ニ由リ日置ノ莊ヲ賜ハリ其ノ子時平ニ至リ郡家以東宗部ニ至ルノ地ヲ日置莊西郷トシ宗部以東巷坂ニ至ルノ地ヲ中郷トシ巷坂以東ヲ東郷トセリ

長柄驛ハ此ノ邊ニアリテ傳馬ハ疋ヲ出ダスト延喜式ニアリ

京都府立総合資料館所蔵

寺内

主基ノ歌　もろ〳〵年をもろかみ又ゆる弓
　　ち柄の村乃ゐひこの稻　正家

大字　寺内　古刹知足寺ノ地ト云フ村高二百十石　篠山ノ北ニアリ平地耕耨ニ好シ

式内　大賣神社　中古兩部ニテ畫目山圓光寺ト稱シ京都ノ東寺ニ屬シ眞言宗ナリキ本堂ニ弘法大師ヲモ安置シ護摩堂不動堂ナドモ在リ正德年中社僧ノ請願ニ由リト部蒹敬卿ノ奏請トナリ純神道ニ復歸シ主神ニ正一位ヲ授ケラル主神ハ皇太神ニテ大宮比賣ナリ畧シテ大賣トス山號ノ畫目ハ即チ大靈女ニテ太神ノ御名ナリ土人ハ之ヲ畫目ノ觀音ト呼ビタリ　傳ヘ云フ人皇十一代垂

仁天皇ニ醜女出來サセ給ヒシモノカラ宮中ニ置ク可ラズトテ神世ノ例ニ任セ磐樟船ニ乘セテ流サレタリ其ノ船此ノ邊ニ着クヤ上陸シテ住居シ給ヒ此ノ邊リニハ吾ガ形ノ如キモノ無カラシメン ト誓ヒ給ヒタルニ由リ此ノ邊リニハ絶エテ醜女ハ生マレザリシトナリ其ノ船ノ着キタル岩ヲ呼ビテ臺石ト言ヒ之ヲ祠前ニ置ケリ今ハ法藏寺ノ前ニ在リ　船中神像アリ社藏ス　石船ノ地上ニ出ヅル尺餘ニシテ方三尺六寸許上面四隅欠闕シ中ニ一尺六寸許ノ圓穴アリ深サ六寸其ノ何ニ用ヒタルヤ知ルニ由無シ　或ル人ノ云フニハ三嶽寺大伽藍ノ柱礎ナルヲ住僧等ガ此所ヘ持來リ据エ

京都府立総合資料館所蔵

大正十年九月拝殿新築七千三百圓ヲ投シテ改築シ盛大ナル祝賀會ヲ數日開キタリ

附ケタルモノニテ由緒ヲ附ケ加ヘタルハ後人ナリト

此ノ神社ハ往古北ノ庄十一村ノ産土神ナリシガ應永十七年寺内村ノ名主ト濱谷今福ノ名主ト座席爭論ノ事起コリ遂ニ公事トナリ裁判ヲ仰ギタルニ其ノ判決ノ結果ニ由リ自後神殿内六座ノ中ナルニ座ヲ濱谷ヘ分割シテ二ノ宮トシ其ノ四座ヲ寺内大熊佐倉大谷鷲尾知足藤岡口藤岡奥ノ九村氏神トナレリ

古例國幣社トシテ丹波守コレヲ祭祀シタルニ世ノ亂レトナリテ其ノ式モ廢タレタルヲ天正年中波多野氏ニ依リテ秀治ノ祈願所トマデニ

ナリ又廢絶シテ年ヲ經タルニ慶安年間篠山城主松平若狭守信康神田ヲ寄附シ寛文八年社殿ヲ修造シタリ其ノ後領主ノ交替アリテ青山氏トナリテモ祈願所トシテ崇敬セリ

祭日ハ九月九日ナリシヲ維新後新暦トナリ十月十七日ニ擧行ス古例トシテ當社ノ祭式アリテ篠山モ黒岡モ神事ヲ始ム然ラザレバ兩所トモ爾ガセズト云フ

農業出精者　百姓常七　天明八年褒賞セラル時ニ年二十八

大字　黒岡　舊高五百八十九石　篠山町ノ北方ニ在リ平郊ノ地トス

京都府立総合資料館所蔵

郷社春日明神社　主神　天兒屋根命　建甕槌神
伊波比主神　經津主神　負觀音閻神靈ヲ奈良
春日本社ヨリ迎ヘテ齋祭ス日置村ガ藤原氏ノ賜
地莊園ナルヨリ人民ヨリ基經ニ乞ヒ篠山ノ地ニ
鎮メ祭トルナリ篠山築城ノ際ニ此ノ地ヲ相シテ
移轉シタルナリ故ニ篠山侯モ代々コレヲ尊崇シ
町民モコレヲ地神トシテ尊崇セリ境域千四百八
十三坪　八社分列ス　大神宮天滿宮八幡宮日吉
社八阪社稲荷社水分社其ノ上ニ愛宕社アリ　氏
子ハ篠山ト黒岡ニテ九月九日ヲ例祭トス進新後
八十月十七日トス神輿　山車　大鼓等ヲ出ダス
舊稱鹿王山榮松寺俗稱神宮寺社家萩阪住田藤本
若杉　僧法印コレヲ主管シタリ
傳ヘ云フ篠山築城ノ際ニハ山ノ内東山ニ奉遷セ
シナリ偶〻城主松平周防守康重急病ヲ発シ町民ニ
モ病ムモノ多ク災禍頻至スルヲ以テ誰レ曰フト
無ク社地ガ神慮ニ適セザルノ致ス所ナリト人心
恟々タリ斯ヲ以テ協議シテ急遽今ノ所ニ移轉シ
タルナリト
社領高二十石拜殿舞臺等ハ松平山城守ノ寄附山城
守ハ忠國篠山ノ部ニ出ヅ　高七十石ニ增地シ鐘樓ヲ建築シタ
ルハ松平若狭守トス康信ナリ上ニ同ジ承應元年コレト共
ニ魂屋ヲ造リ德川三代將軍大猷院嚴有院常憲院
等ヲ祭レリ額面ハ京都粟田宮法親王ニ乞ヒ裏面

京都府立総合資料館所蔵

ニハ入木道末流天名座主淡親王良尚書之トアリ
此ノ如キハ田舍ニ希有ノ了ナルガ粟田宮ノ院家
ノ家臣妙解院ヲ此ノ別當住職トスルヲ以テノ緣由
モテ願ヒ叶フタルナリ萬治二年增高八石貞享二
年改築常夜燈二臺神馬廐及ビ附屬物入等ノ地高
一斗九升六合松平豐前守信岑高進青山家領主ト
ナリ高七十石寄進アリ
時平社時平松アリキ蘇原基經ガ此ノ莊園ヲ領シ
タルニ由リ其ノ左大臣時平此ノ村ニ來リ一民
家ニ入リ休ハントス家貧フシテ床無シ主翁コレ
ヲ迎ヘ臼上ニ板戸ヲ置キ坐セシム時平主翁ノ眞
率ヲ愛シ逗留スルヿ數日村治ヲ了リテ歸ルニ臨

ミ主翁ニ姓名ヲ與ヘ二階左門ト呼バシム翁ソノ
恩ニ感ジ古松ノ下ニ生祠ヲ建テタリ後人コレヲ
時平社時平松ト呼ブ
玉水ハ篠山町ノ北面ニ在リテ古ノ日置庄ノ地ニ
當タル古松數株蒼鬱トシテ四時眞ノ色ヲ失ハザ
ル下ニ青苔蒸シ蛙聲聒々タル所清泉常ニ沸出シ
夏日ニ夏ヲ知ラザル小池ナリ旱魃ニモ枯渴セザル
深源ナリトテ土人ノ誇リタルモノ今猶ソノ伏ヲ
存ス當時ノ藩主松平紀伊守信庸ガ信慈ト名乘レ
ル少年時ニ建テタル小石碑アリ文字漸蝕シテ讀
ミ易カラズ今其ノ摺本ノ在ル家ニ就キ之ヲ寫ス
左ノ如シ信庸ハ大名中ニテ當時ノ學者ナルヿ亀

京都府立総合資料館所蔵

山藩紀文中ニ出ダス此ノ文ハ其ノ自作ナリト云フ其ノ村益トナリヲ田ニ灌ギ酒トナルヿ文中ニアルガ如シ

日置玉水碑

篠山城北日置黒岡田間有清泉世傳曰玉水中古埋沒而爲鳥有　先考駿河太守源典信聞之欲其復古乃命浚之湧泉甘洌可愛環以石甃種松擁欄村民汲水或解渴或釀酒餘灌田畝皆以爲便方今勒其事於片石乃作銘々曰

苗間芟棘　戈浚得泉　徹底清冷　逢旱湛然
濯入溝洫　流遠村鄙　頹齡可制　痼疾可痊
玉沫溢地　碧波涵天　活泉不盡　幾億萬年

城北村

元祿五年壬申秋八月　城主豊前守信慈述

下屋敷迹　寛永元年領主松平山城守忠國ガ造營シタル別邸ノ遺迹ナリ忠國ハ松平伊豆守信吉ノ子ニシテ筑伊賀守忠晴ハ亀山城主タリ亀山藩紀事中ヲ參照セヨ次ニ示ス松平トハ同姓異族ナリ忠國土木ノ事ヲ好ミ此ノ所ニ宏壯ナル經營ヲ爲シタルヲ後ノ領主ナル松平若狭守信康ガ又增築ナレ樓閣ニ花苑ニ池塘ニ亭榭ニ思ヲ凝ラシ工ヲ弄シ趣考餘リテ樓屋ノ上ニ黄金ノ圓球ヲ立テ瓔瓏トシテ人目ヲ驚カセ北方二町ヲ隔テタル玉水ヲ庭内ニ容包シテ濠濠間ノ景致ヲ作製スル等土人ノ利益ヲ奪ヒ以テ已甚ヲ遂ケル一事ガ萬事武

京都府立総合資料館所蔵

備ゝ弛ミ臣下ハ墮リ府庫虚ノ祝歛加ハリ誹謗ノ聲然嗟ノ言國衆ヲ戮エテ京都ニ入リ所司代ノ間ク所トナリ隱密ノ知ル所トナリ遂ニ幕府ノ譴責トナリ所替ノ端緒トハナリヌ所替卽チ亀山トノ交換ハ三世ノ後ナリ責罰トシテハ優長ナリト謂ハザル可ケンヤ

著者ハ幕臣ナリシ故ニ家庭ニ於テ幕府ノ事ヲ聞キ長ジテ経驗ヲモ爲シタリキ去リナガラ京都勤務ナルノ故ヲ以テ江戸ノ事ニ疎シ只聞ノ隱密ハ世襲ノ職ニテ御坊主ニ同ジ將軍ニ直隷シテ奥庭ニ詰所アリ探偵ノ命アレバ変裝シテ直ニ任所ニ奔馳ス家族モ其ノ行動ヲ詳ニセズ

三四年ニ渉リ復命スルヿサヘアリト云フ事歴程々アレド暑ス

黒岡ノ日置太郎兵衛ハ世々同名相續ノ家ニテ舊家ナリ左ノ書本ヲ藏ス

良久敢ヘ絶ヘ抑遠ニ外孫佐藤勇健次郎
後ヲ以テ遠ク抑童ニ事存ル拙者只今
少方演述ニ引続キ之ヲ消息考証セル外ヲモ
半家ヲ京寶本院ヲ中宮寺ト領ヲ宮有思偖仕
設又ハ卯老ル日 ノ委ノ御演述ル只
右ミ佐藤ヲ以テ仕ル上ト存ル後叶ル事ヲ
以ヲ意ル上聖

十月九日

山内猪右衛門

京都府立総合資料館所蔵

後土御門天皇殿

文中ノ本院ト云フハ藤原時平ノ子時平家ヲ子ニ
讓リ本院大臣ト云ヘリ傳說ニ云フ時平其ノ領地
巡見ノ際ニ此ノ里ヲ過ギ一小民家ニ入ル翁媼驚
愕シ倉皇トシテ迎ヘ坐セシムルニ床無キヲ以テ
アヲダシ之ヲ茶巻臼ノ上ニ載セ席ヲ鋪ク時平翁
ノ率直誠實ヲ愛シ留マルコト數時ニシテ去リ南後
數回之ヲ訪問慰藉シ後ニハ其ノ家ニ宿スルコトサ
ヘ有リ遂ニ改稱セシメニ階左門ト呼バシム翁終
ニ大臣ノ生祠ヲ後園ニ建テ、之ヲ祭リ紀念トシ
タルガ此ノ地ガ後年城主ノ庭園トナリタリ或
ル人ヨリ傳說ヲ得タリ曰ハク後醍醐天皇風ニ皇
運ノ式微ヲ嘆カセラレ之ヲ興復セントテ密使ヲ
發シ諸國ノ神祠ニ御祈禱ノコトアリ宜旨當祠ニ至
リ御寄進モアリ遂ニ例式トナリタルヲ世ノ亂レ
ト共ニ廢絶ス只一株ノ松樹アリテ千載ノ緣ヲ殘
シ矚ルヽモノニ崇ヲ爲スト云テ近寄ルモノモ無カ
リシヲ慶安年間ニ新領主松平若狭守康信郡村巡
視ノ際ニ之ヲ望見シ近侍ノ者ヲシテ社祠ノ緣由
ヲ問ハシム村人對フルニ前事ヲ以テス康信聞キ
了リ進ンデ祠傍ニ至リ靜ニ其ノ松幹ヲ撫シ曰ハ
ク掌中微痛ヲ感ズト乃崇敬ノ心ヲ起コシ一祠ヲ

京都府立総合資料館所蔵

建テ村人ヲシテ奉祭セシメタリトヅ

大路山（或ハ大地山トモ書ク）公園ハ天正年間ノ城地ナリ當時此ノ地ハ國主波多野家ノ有スル所ニテ同苗伊豆守秀香コレヲ守ル管領秀治ガ東軍ニ攻メ立テラレ和議ヲ唱フルモノ屬出シ秀治ノ心モ動キ始メタリトノ風聞四方ニ傳播シタリシカバ智謀豪雄ヲ併有セル秀香ハ幷ハ全ク織田信長ノ軍略明智光秀ノ詐謀ナルヲ看破シ（日置村ノ部以下處々天正戰爭ノ所參看）軍議ノ席ニ於テ意見ヲ開陳シ和議ヲ沮止シタルモ容レラレズ果セル或秀治ハ負傷シ（南桑田郡宮前村ノ部參照）東送セラレタレバ秀香モ今ハ是レ迄ナリト城門ヲ押シ開カセ出戰奮鬪多勢ノ中ヘ割ツテ入リ切ツテ出デ甲ノ遂間ニ四創ヲ受レシカバ手勢ヲ纏メテ繰リ引キニ引キテ天晴レナル武者振シテコソハ上高城ニ入リニケル城乃（ト）陷リ敵ノ一炬ニ哀レムベシ燒土トナリヌ實ニ天正七年六月ナリトカヤ

しをらくハ花の
上ふる月ぞうなはせ

篠山王地山公園ヨリ丹波富士ヲ望ム（中西寫真館製作）

京都府立総合資料館所蔵

右芭蕉ノ碑ハ數十百級ノ石壇上ニアリ

孤松臺ハ古時一老松ノ迹今ハ三松アリ

右ノ碑　陶菴西園寺公望ノ書　明治二十九年而申正月ノ建立

文雅叢　眺望頗佳シ明治四十四年ノ新築

梅溪楓谷　春秋ノ好風光ヲ占メ猶櫻花ニ好シ

七尾七谷アリテ佛法ノ好適所トシ大師堂妙見堂アリ大悲閣アリ

秋葉　金刀比羅　稲荷等ノ神祠アリ

大悲閣ニハ觀世音ヲ安置ス丈三尺四寸五分アリ

惠心僧都ノ作ニテ比叡山ノ小川ニアリシヲ京都ノ相國寺ニ移シ終ニ此所ニ來ル松雲禪師ノ乞ニ

由リ獨園禪師ノ許諾ヲ得テ十六羅漢ト共ニ安置セラル羅漢ハ松雲ノ描ク所ナリ松雲能ク描ク常ニ其ノ物セル骸骨數塊酒宴遊興ノ圖ヲ携ヘ諸國ヲ巡教シタルヿアリ著者兩禪師ニ祝セリ

青山侯御庭燒ノ迹アリシガ今ハ牧場トナリ窯影ナシ

丹波杜氏ノ名アル青木禎助ノ頌德碑　切齋大石夏質ノ碑　渡邊弗措ノ碑アリ弗措ノ碑文ハ篠山鳳鳴義塾ノ條下ニ出ダス　松崎蘭谷ト南川ノ墓ハ公園ノ北立町三昧ニアリ（亀岡ノ部参看）

萬治年間ノ丁トカヤ時ノ君松平若狭守（後ニ亀山侯トナル）角力ノ技ヲ見ルヲ好ミ堪能ノ力人ヲ扶持シテ時

々其ノ技ヲ邸内ニ試ム諸藩ノ抱力士及ビ在郷ノ
モノ来リテ其ノ技能ヲ賣ル藩ニアルノ力士ニシ
テ勝ツ時ハ猶ホ已レコレニ勝ツガ如ク喜ビ以テ誇ル
一日大ニ其ノ技ヲ試ミ同好ノ諸侯ヲシテ来會セ
シム如何ナル不幸ゾ敗ヲ取ル數回君公ノ顏色太ク
惡シク口氣次第ニ荒シ傍侯不快ノ面色アリ侍臣
爲ス所ヲ知ラズ一座白ケテ見ヱケル時ニ何處ヨ
リトモ無ク一力人来リ地上ニ平伏シテ君侯ニ向
ヒ曰フ私ハ御領分ノ百姓ニテ田舍角力ヲ取ル者
何卒今日ノ御庭相撲ニ預リ度願ヒ奉ルト君侯興
憂ノ情抑ヱ難キ折柄兎モ角ソノ技見ントテ許シ
テ場ニ入ラシム相手ニ出ル者無シ番組外ノモノ

ト云ヒ且ハ粗野ナル田舍者ナルヲ以テナリ君侯
急劇其ノ對ヲ呼ビ場ニ登ラシム一勝又一勝對者
相續キテ敗ル君侯ノ憂色忽散ジテ欣々焉タリ黄
昏客散ジ場閉フ相撲奉行谷田廣右衛門ヲシテ其
ノ氏名住所ヲ問ハシム曰ハク私ハ王子山ノ加賀
山平左衛門ノ二音ヲ略ス御座ルト答フ青銅五百
文ヲ賞賜セラル平左コレヲ拜受スルヤ其ノ影ヲ
失フ次年君侯國ニ歸ル一日侍臣ノ語ルヲ聞ク其
ノ内ニ王地山縁荷社前ニ青銅五貫文（雇用銭九十六箇ヲ新藁製ノ繩モテ貫ク其ノ繩ヲ一貫トスルナリ）有リタリト君侯思
フ所アリ有司ヲ召シ之ヲ査撿セシムルニ前年江
戸邸ニテ賞賜シタルモノニ匹似ス是ヲ以テ自後

京都府立総合資料館所蔵

深ク稲荷ヲ崇敬シ江戸邸ニ命シ庭中ニ新祠ヲ造リ吏ニ命ジテ祭祀セシム是ニ於テカ平左稲荷加賀山明神ノ名四方ニ喧傳セラレ賽者遠近ヨリ來ル相撲道日ノ下開山トテカ人仲間ノ信者特多シ左ノ番組書付ハ神社修繕ノ際ニ後人ノ發見シテ寫シ取リタルモノニ係ル

後ノ取組

前田加賀守様御抱
尾ヶ嶽　岩右衛門
王子山　平左衛門
紀伊中納言様御抱
平岩　松之助

大関

関脇

小結

波賀山　源之丞
豆州
日入ヶ嶽　佐太郎
飛鄙山　三吉
攝州

前頭

濡髪　長吉
黒田山　兵吉
尾州
繁松　三代吉
月折山　道貫
出羽

同

左石　大吉

京都府立総合資料館所蔵

前頭　小田中清五郎
同　勢州　鏡崎藤吉
同　曾地山左近
同　備中　友綱伊太郎
行司　金山源吉
同　來尊又四郎
同　金山源吾
同　高城市松
以上

其ノ王子山ト云ヒ黒田山ト云ヒ曾地山ト云ヒ其ノ他皆地方ノ名モテ呼ブモノ孰レモ平左隨從ノ狐ト云フ

東北ノ大名ハ多ク江戸力士ヲ抱ヘ西南大名ハ多ク大阪力士ヲ抱ヘ力士トセリ元祿五年ニ大坂南堀江三丁目ニ晴天十日間興行シタルガ勸進大角力ノ濫觴トスレバ右ノ萬治年間ニハ力士間ニ何ンタル規則モ無ク今ノ田舍相撲ノ如ク乱入リ勝手ナリシモノ歟大阪ハ力士ノ集合地ナルヲ以テ西南大名參覲ノ際ニ朝ニ一人ヲ拔キタニ一人ヲ取リ之ヲ江戸ニ搦ヘ之ヲシテ江戸ニ興行セシム故ニ云フ江戸相撲ハ大阪相撲ノ一部移轉シタルモノト之ニ由リ諸大名ニ撰リ拔カレタル後

京都府立総合資料館所蔵

ノ大阪相撲ノ幕内ハ全滅ニ近キ非運ニ陷ツタトモ云フ是レガ萬治元禄時分ノ相撲歴史トカヤ大阪ノ好角家ノ言フ所ヲ聞クニ残念ナルハカ量技量ガ互角ナルモ大阪抱ヘノ力士トナレバ自然威モ高ク壓カモ強ク他ノ平力士ト相對シテ敗ヲ取ラシ平抱ヘ大名ノ體面ニモ關スルヲ以テ行司ヲ始メ偏頗極マル行爲アリ若狭守ガ其ノ抱ヘ角士ノ敗レタル爲ニ怒氣ヲ発シタルモ無理ナラヌコトヽ天明八年村俗善良方正ヲ以テ一村ニ褒賞ノ下賜アリ舉村ノ賞賜ハ異數ナリ

孝子　竹見彌太夫　天明八年領主ヨリ戸租全免ノ賞アリ

孝子　百姓十右衛門　同年褒美ノ下賜アリ齡三十三

大字澤田村澤田嶋村ハ篠山町ノ東ニ方リ本村ノ南方ニテ平地多シ

瀧山城址ハ小林寺背後ノ竹林ナリ本丸東西三十五間南北十八間西方五間ヲ隔テヽ出羽丸アリ此ノ廓東西二十間南北五間馬場東西三十間南北六間戰國ノ時ニ管領ヨリ小林修理亮重範ヲ選任居守セシム重範ハ波多野家ノ一方籏頭ニシテ智勇ヲ兼備ス天正三年九月東將羽柴秀長西丹波ヨリ襲ヒ入リ將家危殆ナリトノ注進ニ由リ守ヲ捨テヽ氷上城ニ赴援セントシ波多野宗貞ノ出陣ニ逢

京都府立総合資料館所蔵

ヒ之ヲ援ケテ東軍ヲ八幡山ニ迎ヘ奮戰陣没ス此ノ城モ亦自滅ス一説ニハ此ノ城ニ據リ戰フ數回城陷リテ死スト

壺八幡ハ城主小林近江守ノ壺ノ内ニアリタルニ由リ斯クハ名附ケタルナリト或ハ壺井八幡トモ云フ　小林寺ハ城主小林ノ菩提所ニシテ毘沙門天アリ

関世美ノ墓　澤田山小林寺ニ在リ　碑文左ノ如シ

正面ニハ文靖関先生墓ト鐫ル

先生姓関諱世美字士濟一字孝之號南瀕父休軒母赤井氏享保三年五月十日生先生於浪華道頓堀移居河口時先生弱冠也請休軒君游學於京師從蘭嶋伊藤先生受業然歸省服養無懈父卒遂家于京娶茨木氏居數年出仕　篠山侯掌文學事自是藩文學大行焉五男迭蘭迭苣菊兒迭蕙迭芝迭苣出繼大河内氏迭蘭先生死菊兒早夭故迭蕙嗣襲其祿女三長嫁平安福井軌餘皆夭天明三年四月廿八日病卒于家年六十有五葬澤田村小林寺

私謚文靖先生云銘曰

學之博吾不知其所至迹之澤吾不知其所紀名稱平四方而文施于一鄉嗟乎餘澤不忘

門人　石井琥謹撰

迭蕙建

坂東寫之輔ノ墓モアリ坂東信篤墓ト刻ス

京都府立総合資料館所蔵

文學アリ武術アリ小少ヨリ諸職ニ經歷シ安政六年京都留守居トナル時ニ國家多事尊王攘夷ノ說中外ニ喧傳シ諸藩ノ方向定マラズ信篤周施奉公頗勉メ其ノ名ヲ知ラル維新ノ後公議人ニ擧ゲラレ罷メラ歸國シ篠山藩權大參事トナリ解職後八上新村ニ隱退シテ子弟ニ教授ス明治二十四年七月沒ス年七十一歿後二十五年卽大正四年十一月十日　今上陛下御卽位ノ當日正五位ヲ贈ラル京都勤務中ノ功勞ヲ追賞セラレタルナリ

八幡神社　鰐祭　舊曆九月八日　今ハ十月十六日

傳說　往昔此ノ地ハ水澤ナルヲ開墾スルニ一神人アリテ之ヲ助クリテ之ヲ八幡神トシテ祭リ一兒ヲ人身御供トシ年々一兒ツヽ殺サルヽコトナリ土人コレヲ悲ミ恨ミタルヲ知リ右ノ神人出現シテ是レハ化物ノ所爲ナルヲ以テ其ノ大蛇ヲ殺セト命ジタルニ由リ一勇士アリ之ヲ殺シ自後其ノ禍難ヲ免レ遂ニ鰐ヲ以テ蛇ニ擬ヘ之ヲ斬ルノ式ヲ毎年行フコトナレリ其ノ式鱧切一名ハ人身御供ニナルモノ人スクテンデントモ云フ一名　踊子十二名　御酒持一名　接伴二人　猿田彦二名外二名　滑誓ナル式モテ鱧ヲ切リ蒸シテ者トシ神酒ヲ飲ム神官祝詞ヲ讀ミ了リ祭神ス

知足村ハ西ケ嶽ノ麓ニアリ

京都府立総合資料館所蔵

栗栖瀑飛流一丈八尺皷田ノ水栗栖ヲ過ギ北流シテ此ノ瀑トナル皷田ハ北河内ニアリ北河内村ノ部ニ出ダス

郡家村ノ北方橋爪田間ニ古井アリ水色ケシク赭シ往時ハ温泉湧キ病來集リシガ今ハ冷泉トナル猶ホ瘴毒ヲ治スト云フ

孝子　百姓孝左衛門四十四歳天明八年寝美

農業出精者　彌兵衛七十三歳同年同様

居籠社ハ西方ノ田間ニ在リ傳ヘ曰フ往昔栗馬ノ神靈遠ク筑紫ヨリ飛ヒ來リ雲間ヨリ岡谷村ニ下リ櫻樹ノ影ニ休フ村人見テ此所ニ勸請ス　一説所ハ岡野村飛ノ山ノ下ナリト然レ氏馬繋キ櫻ハ

此ノ地ニアリタリ云々岡野村ノ部見合ハスベシ

大字　鷲尾村ハ本村ノ中部ニアレドモ三面山嶽ニ包擁セラレ南方廛ニ一路篠山ニ通フ路アルノミ十郎經春ノ在ル在リテ歴史ニ其ノ名ヲ印ス

元暦元年二月四日源九郎判官義經ハ兄頼朝ノ命令ニヨリ攝津一ノ谷ヘカケ立テ籠モレル平家ノ一族ヲ追討スベク軍兵一萬餘人ヲ帥ヰテ卯ノ刻ニ都ヲ發シ丹波路ニ出デ戌ノ刻ニ三草ノ東山口ナル小野原（今田村）ニ着ス　平氏七千騎ヲ以テ三草山ノ西山口ニ陣スルヲ知リ即夜コレヲ襲ヒ之ヲ走ラセ六日三草山ノ奥ニ入リ綱下柴ヲ過キ青山ニ掛カリ折部山蜂伏峯蟻戸ナドヲ所ヲ過グ

京都府立総合資料館所蔵

路暗ク草木枯レ果テタル荒野ニテ東西モ辨ヘ難シ義經モ京都ヨリ已ニ十數里ノ山路ヲ越エ來リ進退維レ谷マリ如何ントモス可ラズ乃チ武藏房ヤ在ルト召ブ辨慶馬前ニ出ブ日ハク辨慶承ハレ木蔭暗フシテ途見エズ山路ノ案内者尋ネテンヤ辨慶即チ馬ニ乘リ乾ノ方ニ向フテ十餘町モ歩マセ山ノ麓谷ノ底マデ窺ヒ求メ池ノ水影ヲ認メ打寄リ見レバ怪シカル一ツノ萱屋アリ内ニ年七十ニモ餘レル翁ト六十許ナル嫗トガ腹カキ出シテ火ニ當タリ居タリ辨慶強請シテ事々數ク申シケルハ鎌倉矢衛殿朝敵追討ノ院宣ヲ給ハリ軍兵ヲ差シ上サルヽノ間平家都ヲ落チ此ノ山ニ籠モル即チ御笠ノ蒲ノ御曹司ハ大手ニ向ヒ玉ヒヌ九郎御曹司ハ搦手ノ御大將トシテ此ノ下ノ所ニ御坐スナリ我コソハ武藏房辨慶トテ御内ノ者ヨ案内者ニ參レトノ御使ニ古山法師ノ怖ロシキ者ガ來タルナリ疾々參ルベキナリト言フ老人急ギ立チアガリ烏帽子打着テ甲シケルハ奴若キ時ハ攝津丹波ノ山々晴キ所トテハ無シ春夏ハ狙ヒ打チ秋冬ハ笛待落シクバリ押シ上ガリ大山ナド申シテ畫夜山中ニ待リシカバ木ノ根岩角知ラヌハ無シ年闌ケ身衰ヘテ此ノ二十餘年ハ弓引カズ行歩叶ハズ子息ノ小冠者ハ木數ノ奴ト案内ハ能ク知リテ候ハン召シ具セラルベシトテ片屋ニ在ルヲ呼ビ

京都府立総合資料館所蔵

起コレテ進ラセケル　續松トおしテ之レトおチテ
連レ御前ヘ参ル火影ニテ見給ヘバ煙骨荒レテ輔高ク大ナリ義經尋ネテ汝ノ居所ハ何處ゾ年
ハ如何ニトアレバ答ヘテ曰フ生年十七居所ハ山
ノ鼻ガ覆フテ鷲ノ形ニ似テ候フ　又問ヒ玉フ扨
汝ハ嫡子カ末子カ名乗リハ如何ニトアレバ對ヘ
テ曰ハク名ハ未附ケズ三郎ニ相當タリ候フト
義經曰ハク吾ガ叔父ニハ郎殿アリ我ハ九郎ナリ
吾ガ名ノ經ヲ汝ニ與ヘ今ヨリ鷲尾十郎經春トナ
レ扨コヽヨリ一ノ谷ヘ通フ路ヤアルト尋ネ玉ヘ
バ答ヘテ曰フ鹿ハ通ヒテ候フ今ハ春ニテ候ヘバ
草ノ深キニ臥サントテ頃テ播磨ノ鹿ハ丹波ニ越

エ世間ダニ寒クナリ候ヘバ雪アマリトテ丹波ノ
鹿ハ播磨印南美野ヘ越シ候フ　義經喜ンデ曰ハ
ク四足ノ鹿ガ越エルナレバ四ツ足ノ馬モ落トサ
デヤハトテ茲ニ野陣シ經春ニ馬物ノ具ナド給ヒ
御内ノ侍トハナサレケル

去來

あやぶまるる丹波の麻もこのごろ

後年經春ガ義經ニ衣川ニ殉セシ音信ヲ聞クヤ村
民コレヲ愍ミ一小祠ヲ建テヽ祭祀シタルガ年經
テ其ノヿ熄ム寛文中篠山藩有志ノ士又一小祠ヲ
同所ニ建ツ明治四十一年ニ至リ寺内村大責神社
ヘ合併ス

大字　大熊村

京都府立総合資料館所蔵

篠山ヨリ畑村ニ至ル ノ途中ニアリテ北山南郊ノ部落トス

笛吹山瑠璃寺ノ故迹ハ小丘竹林裡ニアリ腥德太子自作ノ藥師堂モ今ハ村ノ中央ニ移サル

足引の笛吹山のつつ[illegible]代り秋〳〵へこゝすれ

右ハ永保元年大嘗會主基方二十八首ノ内ニテ大江匡房ガ奉レルモノニ係カル

元暦年中ニ源義經ガ一ノ谷ヘ赴クヤ此ノ歌ヲ追懷シテ此ノ山ニ登リ藥師ヲ拜禮シテ武運ノ長久ヲ禱リ山名ニ因ミ横笛一曲ヲ奉セシト云フ

大字 熊谷村 篠山ノ北方ニアリ東西北ノ三面ハ山ナリ

石室 大石モテ造レルモノ諸方ニ在ルモノト同一ニシテ傳說モ亦同一ナリ武烈天皇ノ時天火降リ人民コヽニ避ケタルモノ云々一說大古豪族ノ葬穴

京都府立総合資料館所蔵

後川村

後川村　大字　後川村　後川上村　後川中村

後川下村

四村合シテ後川村トナル新田村モアリタリ各小部分獨立シタルヲ後川村トシ更ニ日置村ニ併セ又四村ヲ合セテ一村トシ町村制施行ニ便セリ地勢ハ西方八上村攝津國有馬郡等ニ接シ北方モ亦八上村日置村等ニ接シ福住村ニ及ブ而シテ南方攝津ノ川邊郡有馬郡ニ接ス

地勢四山ノ底ニアリ殊ニ彌十郎嶽ノ東北ニ聳ツアリ從テ其ノ支脈延キテ起伏シ平地ヲサカラシム其ノ平地スラ海面ヲ拔ク千百五十五尺故ヲ以テ冬時寒氣烈シク白雪往來ヲ沮絶シ氷柱人家

京都府立総合資料館所蔵

ノ擔ニ左ツ近年稍衰フ篠山ヨリ五里過半ハ山路
羊腸ナリモ車行スベシ之ヲ大阪街道トス篠山ヨ
リ大道ヲ八上ニ取リ其ノ東端ヲ南折シ古坂越ヲ
昇ルモノ是レナリ篠山ヨリ八上新田ニ出デ坂路
幾曲ヲ經テ中村ニ入リ溪流ニ沿ヒ行クベシ福住
ヨリ山路一里半ニシテ險シ攝津池田ヨリ七里
後川上村高二百八石　同中村百十九石　同下村
百十三石　自家食料ノ米スラ無シ
冷泉　籠防ノ湯ハ後川新田ニ出ヅ籠防ハ地名ナ
リ舊地名塩ケ崎故ニ塩ケ崎ノ湯トモ云フ傳ニ
云ヘリ壽永年間ニ平家ハ京都ヲ逐ハレ西國ニ流
竄ス平氏ノ遺臣鷲尾重助故アリテ隨フ能ハズ半

途ヨリ此ノ地ノ由緣ヲ求メテ來リ匿レ源氏ノ搜
索ヲ免レ熊野權現ハ平氏ノ信仰スル所ナルヲ以
テ日夜ニ祈念シ主從ノ前途ニ幸アレト懇請シタ
ル甲斐モ無ク主家ハ西海ニ滅ビタリ然ルニ一夜
靈夢ニ感ジ其ノ指示セル所ヲ發掘シタレバ一ノ
温泉水脈ニ遭遇ス是レ其ノ濫觴ニテ久フシテ冷
泉トナリ又久フシテ壅塞シ出デズナリヌトカヤ
其ノ後七百餘年ヲ經テ誰レ言フト無ク此ノ谷水
ニ靈アリ諸病ヲ醫スベシトテ來リ汲ム果シテ效
驗アリ漸次世ノ耳目ヲ引キ明治初年ニハ此ノ水
ニ浴スルモノサヘ出來テ三十年ニハ九戸ノ家
ヲ見ル其ノ三戸ハ浴客ヲ宿セシム一年平均七百

京都府立総合資料館所蔵

人ノ来浴ヤリ再現ハ嘉永年間ニシテ人名ヲ逸ス所要ノ物品ハ之ヲ福住ニ仰ガザル可ラズ而シテ始終物品ノ欠乏ヲ訴フルハ五十町ノ坂路ヲ負搬シ来ルノ不便ニ因ス　住民敦樸ニシテ射利ノ念薄ク浴スルニ銭ヲ徴セズ府スルモ料ニ定メ無シ著者ハ一晝夜十銭ノ割ヲ以テ金銭ヲ與ヘタル ニ家婦ノ待遇殷勤ヲ極メタリ　浴湯ヲ家裏ニ設ケ不潔堪ヒ難シ板トナク石トナク泉色ノ澄渟ス ル所往々不快ノ感ヲ惹ク　家童ヲ先導トシテ溪上ヲ逍遥シ泉脈ノ處々ニ湧出スルヲ看ル無底ノ木桶ヲ埋ノ湧泉ノ側漏ヲ防グ籠防ニハアラデ桶防カト呵々大笑ス此ノ邊モ亦木石土泝ノ別ナク

茶褐色ナリ　泉類五種　單沁泉　酸類泉　炭酸泉

京都府立総合資料館所蔵

ル所往々不快ノ感ヲ惹ク　家童ヲ先導トシテ溪上ヲ逍遥シ泉脈ノ處々ニ湧出スルヲ看ル無底ノ木桶ヲ埋ノ湧泉ノ側漏ヲ防グ籠防ニハアラデ桶防カト呵々大笑ス此ノ邊モ亦木石土沙ノ別ナク

茶褐色ナリ　泉類五種　單純泉　酸類泉　炭酸泉

後川村

京都府立総合資料館所蔵

試驗成績表

本泉ハ炭酸塩類泉ニシテ無色透明無臭味ノ刺戟性ニシテ稍甘酸ナリ反應ハ殆ト中性ニシテ煮沸スレバ盛ンニ氣泡ヲ發生シ蒸發シテ濃厚トナス時ハ漸々溷濁シテアルカリ性ヲ呈ス比重ハ攝氏七度ニ於テ一、〇〇二五九六ヲ有ス溫度ハ泉ニ於テ攝氏九度五分ヲ示ス

千分中成分量

硅酸	〇、〇九六二〇〇	コロールナトリウム	〇、〇八二〇三六
コロールカリウム	〇、〇〇七四一〇	硫酸ナトリウム	〇、〇〇一六八二
重炭酸亜酸化マンガン	〇、〇〇一八一五	重炭酸カリレウム	一、五六八〇三八
重炭酸ナトリウム	〇、七二〇九〇六	重炭酸マグネレウム	〇、一二六七一一
重炭酸亜酸化鐵	〇、五〇五四〇	遊離炭酸	〇、八四一七七〇
礬土	〇、〇〇四八五〇	固形分	二、四八七〇〇〇

治療適應症　飲用ニ於テ胃膈症　肝臟病　腎臟病ニ効アリ

之ヲ細ニ言ヘバ腎臟病ニハ毎日二合乃至五合服用スレバ效アリ

水治療法トシテハ神經系呼吸器血行器ノ諸疾患ニ效アリ

之ヲ細ニ言ヘバシンケイ衰弱　脳ヤ脊髓ノ病　喉頭カタル　氣管支カタル　肺病　心臟病ニ　鑛泉ニテ身体ヲ摩擦シ或ハ冷浴スルトキハ効アリ

溫浴療法トシテハ上記ノ他諸種ノ慢性皮膚病婦人諸病ニ著効アリ

之ヲ細ニ言ヘバ右ノ外メムシ　ヒゼン　カユガリ　バイドク　リンキン　キレジ　子宮病　シラゲ　ナカゲ　ショウカチ等ニ効アリ

塩類泉　硫磺泉　此ノ處ニ湧クモノハ右記載中ノ第四ニ在ル塩泉ニテ味甘酸而シテ微苦ヲ帶ビ塩氣土氣炭氣酸氣アリ　土人曰フ此處モ大昔ハ

京都府立総合資料館所蔵

海デシタノジヤ溪水ハ今デモ塩氣ガアリマスガナ塩ケ嗜トスフタノガ其ノ證據デス　入浴ノ效驗ハ氣血ヲ快運スルニアリ故ニ健康者ニシテ一週間入浴セバ食氣ノ增進スルヲ覺エ之ヲ服用セバ血虛神系痙攣疼痛等ノ諸患ヲ治ス

友七　妻よそ　壬申ノ年八月十六日ノ夜盗賊押シ入リタルガ折リシモ夫友七他行シテ家ニアラズヨソ賊ノ迫リ迫ツクヲモ恐レズ進ンデ賊ニ近ヅク賊モ女ナリトテ油断スルヲ得タリ賢シ其ノカヲハキ脇ヲ延バシ腰ノ佩刀ヲ奪フ賊モ左ハサセジト挑ミ合フ内ニ恥ハ疵ヲ負ヒタレドツシモヒルマズ打合ヒ賊ノ身ニモ多少ノ痛手ヲ負ハセ遂ニ其ノ刄ヲモテ切リ附ケタレバ賊ハ一物ヲモ取リ得ズシテ逃ゲ去リヌ其ノ時捕エ得ザリシハ残念ナガラヨソガ切リ附ケタル刀疵ノ痕ヨリ村ノ源三郎召シ捕ラヘラレ白状ノ上刑罰ヲ受ケヌ源三郎日ハク今マデ所々ニテ竊盗強盗ヲ働キタルガヨソノ様ナル女ニ出デ逢フタヿ無シアノ女ニアノ様ナル働キトカアリトハ思ハザリシト宮内省御出版ノ孝節錄ニモ拔萃セラル

戸數　二百一　明治三十八年　同　同四十三年　一百九十一　大正四年

人數　九百六十六　同三十八年　一千〇十五　同四十三年　一千〇十八　大正四年

京都府立総合資料館所蔵

田　九十町一段　畑　三十二町九段　宅地　二
萬八千一百六十七坪　山林原野　一千二百二
十八町一段　其他　一町一段
直接國税　二千三百八十二圓　縣税　一千。
五十六圓

稲荷神社　後川中村　文政年中　一峯和尚ノ創
齋ニテ和尚住居ノ清隍寺境内ニ祭レリ靈驗アリ
トテ參者群集シ難地方酒造家ニ多クノ信徒ヲ有
ス京都ヘモ聞コエテ攝家ナル二條氏ノ祈願所ト
ナリ常燈ノ燈明四方ニ照リ遂ニ其ノ廢油固結シテ
石狀ヲ爲セリ昔ハ一間四方モアリシガ肥料ニ用
ルモノ又ハ好事者ノ削リ采リ去ルアリテ追々小
サクナレリ鈴ノ多キヿ郡内神社ニ魁タリ木狐ノ
形ト山櫻八重櫻多ク近郡傍國ノ遊客ヲ引ク

銅脉　中村ノ南ニ試掘迹アリ

京都府立総合資料館所蔵

城南村

城南村　大字　真南條上村　真南條中村　真南條下村　小枕村　栗栖野村　北村　野中村　字土村　谷山村　岩崎村

村位篠山町ノ南ニアリ南方山嶽多ク中土亦數峰連亘シ道路一線古市村ヨリ八上村ニ貫通ス中途ヨリ岐分シテ篠山ニ至ルベシ其ノ路側ニ耕地アリ

三國ヶ嶽二千一百三十八尺ノ海拔ニシテ攝津ノ有馬郡界ニ聳ツ如意ヶ嶽モ亦二千一百四十二尺ノ高度ヲ以テ其ノ西ニ連ル　頂上ハ以テ丹攝播ノ三州ヲ俯瞰スベシ　峯坂ノ險アリ長坂ノ坂アリ

戸　五百六十四　明治三十八年　五百四十八　同四十三年

京都府立総合資料館所蔵

五百四十二　大正四年
人　三千〇十四　明治三十八年　二千九百九十九
明治四十三年　二千六百九十五　大正四年
大字　真南條　元一村年貢水帳モ一筆ナリシカ
中古分村セリ　高九百七石
二村神社　主神伊弉諾尊　酒井庄見内鎮座　古
ハ見内ヲ神内ト書キ轉シテ御内トナリ再轉シテ
見内トナレリトヅ祭日ハ重陽節　相傳フ古時酒
井庄味間庄宮田庄ト共ニ此ノ神社ヲ以テ産神ト
ナセシニ文明十四年ノ祭日ニ真南條ノ者ト他ニ
村ノ者ト爭論ノ了アリ遂ニ神體ヲ真南條ニ取リ
神輿ヲ味間ニ取リ古書器物ハ遺棄分散セタリ鳥
井ノ額面ハ小野道風ノ書ナルガ其ノ寫ハ殘レリ
本書ハ神庫ニ納メラレタルガ今ハ如何ニヤ
極樂寺千軒坊ノ大伽藍ハ山上山下坊院堂塔ヲ以
テ羅絡シタルモ天正ノ兵燹コレヲ一炬ニ附シ了
ンヌ　一說此所ヲ槙ケ峰ト云フ字土村岩塙村等
コヽニアリ
龍藏寺　天台宗法道仙人ノ開基　本郡三山ノ一
ニ居ルヲ以テ且又戰史ヲ以テ著名ナリ　愛宕神
社山上ニアリ後山ハ紅葉ニテ名アリ
弘治二年十月三好長慶ノ軍來リ攻ム室町方細川
方寺内ニ在リテ拒戰シ敗退シ寺坊爲メニ破毀セ
ラル天正年中酒井佐渡守重貞ハ波多野家ノ旗頭

京都府立総合資料館所蔵

トシテ此所ニ籠居シ數度ノ戰鬪ヲ爲セリ　河村嘉尚ナルモノモ亦波多野ノ一族トシテ高山城ヲ築キ居レリ城ハ山下ニアリ

監物川監物橋　往時此ノ地ニ澁谷監物ト呼ベル一士人アリ其ノ父岡屋城主ナル氏秀ヲ定者シテ懈ラズ村民コレニ感ジ其ノ往來ニ當ル溪流ニ一橋ヲ架シ以テ其ノ往來ニ便シ其ノ川其ノ橋ニ其ノ名ヲ命ケタリト云フ

大字小枕　一ニ駒鞍ニ作ル　南方ニ山脈アリ東方ニハ上村山脈アリ北面僅ニ耕地ヲ有ス

源九郎義經ノ鵯越ニ向フヤ此處ニ來リ日暮ル何ニト云フ所ヲト問フ土人答ヘテ勝村ニテ候フヲ

ト曰フ義經恍ビ急ニ駒ノ脊ヨリ鞍卸サセ一宿ス鎮守ヤ有ルト問フ春日明神ノ候フト答フ乃チ卸セシ所ノ鞍ヲ納メテ戰捷ヲ祈ル地名ノ起コル所以ナリトヅ

塚穴アリ三ツ川ニモアリ

遊里山ニ石棺アリ

元歷年間義經ガ夜中ノ行軍ニ暗サハ暗シ如何ニシテ路ヲ取ルベキトテ云ヘルニ辨慶ガ例ノ大松明ヲサンナレトテ山野人家ヲ燒キ拂ヒツヽ明リヲ取リ行軍シタリトハ此ノ邊ニテ神社佛閣ハ言フ迄モ無ク一物トシテ存スルハ無カリシト云フ

鍋塚池　小枕ノ西方ニアリ北河内村坂本ノ倉本

池ト伯仲ノ間ニアリテ本郡ノ巨浸タリ往昔鑿掘ノ際ニ巨大ノ鐵鍋ヲ土中ヲ見テ之ヲ掘リ出ス千斬坊ノ遺物ナラントテ其ノ崇ヲ懼レ之ヲ葬リ僧侶ヲ請ヒテ讀經供養シ一塚ヲ其ノ上ニ築キ名ヲケテ鍋塚トス

高帳ニ　小枕村四百七十四石　栗栖野村百五十五石　谷山村三百三十八石

野中村ハ古驛址ナリ

天明七年褒賞セラレタルモノ

孝子　百姓卯之助年八ヲ　八郎兵衛ノ子　谷村ノ産　谷村ノ産　岩崎ノ産

孝子　百姓庄助年二十

孝子　大工半左衛門年三十八　卑土ノ産

孝婦　くめ　同人ノ妻年二十八

農業出精者　與太夫年三十八　野中ノ産

農業出精者　彌助年三十八　岩崎ノ産

京都府立総合資料館所蔵

岡野村　大字　東濱谷村　西濱谷村　野尻村
今稲村　大野村　矢代村　東岡野村　西
岡野村　風深村　吹上村　有居鳩村

此ノ村ハ郡内細小面積ノ地ニ居リ東面城北村ト篠山町トニ接シ北面北河内村ニ接シ西面南河内村ニ接シ南面味間村ト僅ニ城南村ニ接ス

北方ニ盃ガ嶽アリ一千六百三十七尺ノ高率ヲ有ツ而モ村ノ南方多クハ平地ヲ有ツ

篠山ヨリ來ル一線路村南ヲ経由シテ西シ南河内村ニ入ルヲ之ヲ氷上街道トス　又一路其ノ南方ニアルモノ亦篠山ヨリ南河内ニ入ルモノ大山村ニ於テ合シ氷上ニ赴ク

京都府立総合資料館所蔵

水路一線城北村ヨリ来ルモノ村ノ南部ヲ過ギ篠山川ニ合シ南河内ニ入ル篠山ノ南部ヨリスルモノト二線ナリ

戸　三百十明治三十八年　三百五十六同四十三年

三百六十八大正四年

人　一千七百六十八明治三十八年　一千九百四十五同四十三年　二千〇五十三大正四年

飛ノ山　或ハ富ノ山　富ノ小山　又諏訪山トモ云フ一小丘ニシテ名稱多キ高サ二百六十一メートル一孱顔アリ村ノ南方ニ位置ス

城迹　岡谷城トテ波多野秀治ノ重臣澁谷氏秀ノ守レル所コノ飛ノ山ニアリ

氏秀ハ波多野家ノ家老ナリ嘗テ秀治ノ命ヲ以テ羽柴秀吉ニ使シ其ノ知遇ヲ受ケ名刀ノ賜贈ヲ受ケ歸リ秀治ニ秀吉ノ大器ナルヲ告グ秀治ガ明智光秀ニ誘殺セラルヽヤ氏秀之レニ殉ス　野尻玄蕃康長モ亦武勇ノ士ニシテ七組長ノ一ナリ是レ亦此ノ城ニ居レリ此ノ城ノ地位ハ東岡屋ノ東南ニ在リテ大雲川ニ臨ム此ノ川流ヲ以テ要害トス

城廓　東西四十二間　南北三十一間　壘高サ一間東西三十三間南北十一間

鉛坑ノ迹　矢代ニアリ

歩兵第七十聯隊設置記事　本部條論陸軍ノ部參看

城北村トノ交叉点ニアリ

京都府立総合資料館所蔵

明治四十年四月聯隊設置ノ風説起ヨリ日露戰後ニ於ケル軍備擴張ノ結果新ニ五個師團ノ增設トナリ丹波ニ於ケル適當ノ地ヲ撰定セラルベシトノ記事大阪諸新聞ニ於テ傳ヘラレ各郡ノ人氣興奮シ其ノ撰定地ニ入ラントヲ切望シ郡ニ町ニ村ニ運動ヲ起コシ吾レ一ニト委員ヲ派出シテ内閣ニ陸軍省ニ京都府大阪府ニ懇請シ寄附金寄附地等ノ項目ヲモ提供シタルニ遂ニ此ノ地所ヲ以テ設置セラルヽニ決スヽ之ヲ聞キタル町村民ノ歡喜譬フルニ物無ク篠山町ト當村ノ間ニ敷地獻納ノ議ヲ瞬間ニ決シ二階町ニ陸軍御用獻地事務所ト云フ標札ヲ立テ委員長以下ノ有志日々出張詰切リ敷地ノ測量ニハ豫備中尉同一等軍吏等之ヲ擔當シ舊藩主青山忠允子ヨリ金壹萬圓ノ寄附アリ敷地總坪ハ兵營ニ四萬坪練兵場ニ五萬坪衛戍病院ニ三千五百坪射的場ニ二萬五千坪作業場ニ三千坪墓地ニ千五百坪憲兵分所ニ四百坪以上合計十二萬三千五百坪此ノ外ニ職隊區司令部ニ四百坪等ノ議事ヲ郡會議事堂ニテ町村長名譽職有志者等ノ決議トナル

篠山町界隈ノ軍略上必要地タルヿハ本卷ノ初ニ於ケル篠山領主沿革史上ニ略示スルガ如クニシテ古今ソノ規ヲ一ニス是ニ於テ明治初年陸軍參謀本部ニ於テ村地六町五段九畝十二歩（内田六町五段一畝）

京都府立総合資料館所蔵

九歩宅地八畝ト六町三段六畝二十二歩合計十二
十三歩
町八段八畝一歩ヲ買ヒ上ゲタリ此ノ價金三萬七
千三百〇九圓八十三錢三厘　單價トシテハ田一
段二百五十圓以上二百九十圓以下宅地一段四百
五十圓　郡ノ獻地八萬坪アリ　練兵場十四町
四畝二十二歩　作業場八段五畝二十三歩
射撃場六町八段二畝二十九歩　墓地四段一畝
二十一歩　交通路四畝二十八歩　憲兵分隊
一段五畝十七歩　合計二十二町三段五畝二十
一歩
政府買上ノ分
兵營聯隊司令部衛戍病院　十二町八段八畝一歩

管區　有馬郡川邊郡　兵庫縣
豐能郡三嶋郡北河内郡中河内郡　大阪府
花柳病事件　明治四十二年四月身體檢査ニ由リ
當隊第五中隊ノ兵卒二名花柳病ニ罹カレルヲ發
見シ所屬中隊長太田大尉ノ命令ニテ二年兵ニ外
出禁止ヲ言ヒテヨリ其ノ發病者ヲ見ザリシニ由
リ五月二日ト十一日ノ兩日曜日ニ射撃劣等ノ者
ノ外他出ヲ許シタリ而ルニ又モヤ一名ノ罹病者
ヲ發見シタレバ同大尉ハ十二日ニ兵卒ヲ一室ニ
集メテ訓誡シ談病ニ罹カレル者ハ一朝有事ニ際
シ國家ニ貢獻スル能ハザルノ不幸アルヿヲ諭シ
二年兵全部ノ一箇月外出禁止ヲ命ジタリ一等卒

京都府立総合資料館所蔵

某々コレニ不滿ヲ抱キ兵舍階上ノ空室ニ密議シ野外演習ニ赴クノ風ヲ裝ヒ十六日週番士官ガ將校集會所ニ行キタルヲ機トシ躊躇スルモノヲ督責シ總員二十名武裝シテ步哨ヲ缺キ東門ヨリ脫營シ畑村ノ一寺ニ一宿ヲ求メタルニ村役場ノ照會ナキヲ以テ拒絶セラレ已ムヲ得ズ同夜八時後歸營シ十八日軍法會議ニ附セラレ審問ノ結果重キハ禁錮十ケ月輕キハ一ケ月ノ罰ニ處セラレタリ

名譽射擊ノ名譽　明治四十二年九月十八日午前第四師團下ノ步兵第八第七十第三十七第六十一ノ各隊各營成地ノ射的場ハ開カレタリ距離三百米突一名ノ射擊時間ハ二分發射彈數ハ四發姿勢ハ伏姿射手一個中隊將校下士卒百名標的十圈的滿點四十點トシ淺田師團長出臨親檢シ四十五個中隊各聯隊ノ最高點中隊成績ハ步兵第七十聯隊第五中隊ノ有ニ歸シタリ　此ノ中隊ハ二年間引キ續キ最上ノ成績ヲ顯ハシ全國九百十二個中隊中ニ於テ二ケ年間名譽旗ヲ連獲シタルハ大田中隊ヲ以テ嚆矢トス師團長ハ名譽旗授與式ヲ行フ爲ニ高山參謀長石橋少將ヲ隨ヘ十九日午前八時大阪ヨリ來リ其ノ式ヲ擧ゲタリ當中隊ノ名譽陸軍全體ニ轟ケリ

西富山蟠龍菴ハ飛ノ山ノ東麓ニアリ臨濟宗京

京都府立総合資料館所蔵

都大德寺末　青山和泉守忠雄ガ遠江國濱松城主タルノ時七父宗俊ノ爲ニ建テタル所ニシテ移封ノ際コヽニ遷シタルモノ宗俊ノ法名ヲ蟠龍院殿義邊司忠大居士トスヲ菴名ヲ之レニ取ル　明治二十三年九月ノ授戒會著者ノ師ナル萩野獨園老僧ノ詩文アリ之ヲ掲示ス

丹州蟠龍菴塔婆銘并序

維時明治二十三年九月丹波多紀郡元東岡野村西冨山蟠龍菴業務住持宏峰與其檀信往相謀欲集善男善女設授戒會招山野居戒師山野老耄邑力共衰微且殘炎尚有力如奈得爲戒師宏峰日雖然村民業已爲其計盡如何止之師雖既老邑力尚堅固勤而爲他導師宜使人爲善也今也人已欲爲善豈得沮之々理乎不克堅辭忍殘炎而來自九月二十日至同二十六日一七日間授菩薩一心相承戒於信男信女且妄評臨濟錄既蓋散筵造建塔婆一基而乞之銘々曰

丹之南矣丹之北中有黃金端四疆請看秋旻時雨下稻梁肥處處清涼露

晉山蟠龍未見現真身林下閑房絕點塵勿怪登臨無禮度老來不是世情人

會中摩訶般若波羅蜜好雨時來滿地涼且喜善男善女信心奉戒致祯祥

臨濟錄開讀　大愚肋下似狂愚黃檗山頭捋虎鬚誰知分明白拈賊更添九尾百年狐

京都府立総合資料館所蔵

同謚了　三玄三要圓何事四料四賓立惡風莫錯
城中諸大德元來佛語心爲宗
総供養　成佛還他肌膚好不塗紅粉自風流爲供
三界諸靈位一瓣香烟滿地幽
早起　千般秋艸百蟲鳴涼而難晴惱野情早起霧
深山不見雞聲幾處報天明
卽事　晝閑舒與溪雲睡宵永暗兼涼蟋吟萬事人
間住疎懶獨甘淡泊古禪心
文久年度高割　野尻村三百三十四石　今福村百
三十三石　濱谷村三百六石　大野村五百八十六
石　東岡野村三百六十五石
古名北ノ庄ハ今ノ濱谷　幽谷　熊谷　藤岡

佐倉　大谷　鷲尾　知足　寺内
農業出精者　西岡谷村　六右衛門四十三歳　天
明八年度美
農業出精者　同　清兵衛四十七歳　同
諏訪神社　祭神健御名方命　孝謙天皇ノ天平勝
寶ノ頃ニ信濃ノ諏訪明神ノ分靈ヲ此ノ飛山ノ西
麓ニ齋キ祭リタルナリ　東西岡屋ノ民コレガ氏
子タリ祭日ハ七月二十七日新暦トナリ九月五日
ニ改ム　此ノ供物　幣　三玉　酒　餅　飯　鯖
鮓　茄子
三玉トハ雜魚三頭ノ串差　泥鰌鮓　泥鰌一斗塩二
升蓼少許ニ白米飯二升ヲ混ジ二個ノ桶ニ容レ一

京都府立総合資料館所蔵

ハニ十貫ノ石ヲ一ハ三十二貫ノ石ヲ上ニ載セ押サヘテ作ル　右両村ヨリ納メ供獻ノ式アリ神官祝祓ノ詞ヲ奏シ了リテ一同納禮ス

味間村　大字　味間北　味間南　味間奥　味間新　東古佐　西古佐　西吹　吹新　東吹　綱抵　大澤　大澤新田　中野　杉

此ノ村ハ南方城南古市ノ二村ト西南ノ一方僅ニ今田村ニ接續シ北方ハ大山南河内岡野ノ三村ニ接續ス村形新狀恰モ兵士ガ洋兜ヲ戴キ口ヲ開キ後肩ヲ怒ラセテ坐スルガ如シ兜頂ハ城南村ニ口ハ南河内村ニ向ヒ後肩背部ハ城南村ト古市村ニ而シテ坐底ハ氷上郡ニアリ四方皆山ナレドモ平地中央ニ長延シ鐵軌ノ篠山ヨリ來ルモノ岡野村ヲ經テ村内ニ入リサシク城南村ニ突出シテ亦村内ニ歸リ岐分シテ北スルモノハ大山村ニ走リ南

京都府立総合資料館所蔵

スルモノハ古市村ニ赴ク　道路ノ四通スル點アリ篠山ニ通ズルモノ大山ヘ行クモノ攝津ヘ赴クモノ古市ニ趨ルモノ是レナリ　更ニ篠山街道ノ古市ニ通ズル一線アリ南方村界ニ於テ分岐シ大山ニ向フテ前ノ四通點ニ至リ左スベク右スベシ尚ホ南河内ニ向フ一線ノ北路アリ

河川ハ只篠山川ノ村北ヲ過ギ直ニ大山村ニ急走スルモノト城南村ヨリ來リ東南隅ヲ掠メテ古市村ニ急走スルモノトアルノミナリ

戸　六百七十一　明治二十八年　六百八十　同三十四年　六百九十二　大正四年

人　三千四百八十四　明治二十八年　三千六百六十九　同三十四年　三千五百五十八　大正四年

元祿年間高　西吹村二百三十八石　東吹村九百二十九石　綱掛村二百〇五石　味間村千〇二十六石　東古佐村二百二十三石　西古佐村二百二十六石　大澤村（黒岡村ノ風深ヲ合ハセ）千〇二十石　野中村七百八十六石　文久

二村神社　伊弉諾尊伊弉冊尊ヲ祭ル　鄉社　祭日　重陽節句　今ハ十月九日　式内　天平勝寶二年贈正一位　見内村鎮座（往時ノ御内村）　文明十四年味間ニノ谷ニ移ス　慶長十九年式内ニ定メ改メテ正一位ヲ授ケラル　味間村真南條村下坂井村ノ産土神ナリシガ文明中爭鬪確執ノ氏子

京都府立総合資料館所蔵

ノ間ニ起コリ分社トナリテ神像ハ真南條ニ歸シ
神輿ハ味間ニ歸ス
兩部ノ當時ハ杉原山神宮寺社僧ノ管掌ニテ高仙
寺ノ末院タリキ別ニ社家ナル宮本氏アリ純神道
ノ祭式ヲ執リ行ヘリ　祭日ニハ喧嘩爭鬪必コレ
アリ文明中ノ紛擾ヲ永久ニ保持スルモノニヤ
鳥居ノ扁額ハ小野道風ノ書　社庫ニ秘藏ス　境
内千二百坪　三社神社アリ
御靈神社　波多野秀治一族ヲ祭ル次ニ示ス秀治
ノ墓ノ記事ヲ參照スベシ
松尾山文保寺　天名宗　延曆寺末　味間南村高
仙寺ノ北麓ニアリ　景行天皇ノ御宇ニ法道仙人

ガ金剛摩尼通力自在法ヲ以テ大化年間當山ノ大
磐石上ニ安坐シテ修法シ一體ノ聖觀音ヲ雕刻シ
之ヲ一宇ニ安置ス時ノ帝孝德天皇深ク仙人ノ高
德智能ヲ崇敬シ給ヒ堂宇ノ御寄進アリテ二十一
院ヲ建立シテ附屬セシメ之ヲ添稱シテ年號ヲ寺
號トシ文保寺トス　本尊ハ仙人自作ノ聖觀音
天曆火災悉皆燒燬　花園天皇靈夢ニ由リ敕使ヲ
下シ再建アリ　一說ニ此ノ年ハ正和中ニテ此ノ
時ニ文保ノ號ヲ賜ハリシトス　仁王門　敕額
後小松天皇ノ賜品ナリ　後年明智ノ兵燹ニ燬
却セラレ豊臣氏ニ再造セラレ國役免除山林寄附
等ノアリ領主青山氏亦寺領ヲ附セリ今ハ文保

京都府立総合資料館所蔵

寺ヲ訪フテ大勝院覩明院真如院ヲ看ソノ奥ノ本堂大悲閣ニ詣ヅ九重ノ多寶塔ヲ見ル又城主松平紀伊守興信ノ鑄納セシメタル一鐘ヲ見ル境致尚遠山水佳趣

怪力僧淨教房ノ話

今ヨリ明治四十二年約三百五十年許リノ昔此ノ文保寺ニ淨教坊房トモトテカ量無雙ノ沙門アリ毬栗頭聲顔面睡目巨口毛手毛脚一見シテ其ノ奇相ニ驚愕ス僧形ニシテ士行マヽ亂行為ヲ以テ一山ヲ困マシム經文ヲ裂キ以テ鼻汁ヲ拭ヒ木佛ノ脛ヲ折リ以テ摩姑チトスル等狼藉數フルニ遑アラズ一山ノ僧徒敢テ近ヅクモノ無シ一年山門ニ据ウベキ巨大ナル仁王像一對京都ヨリ至ル山下奥村ノ坂路ニ於テ重量ノ為ニ車止マリ牛動カズ寺ヨリモ人夫ヲ出ダシ或ハ牛ヲ打チ或ハ轍ニ棒ヲ入レ或ハ推輓スルニ車軸折レ車牛仆ルヒヲ淨教坊ニ告ゲルモノアリ淨教坊來リ看テ愍笑シツヽ衣ノ袖マクリ上ゲ進ミ寄ルヤ諸手ヲ差シ延ベ車上ノ二像ヲ頭上ニ擡ゲ悠々トシテ持チ去リ之ヲ豫定ノ地ニ並ヘ置キ獨笑シテ坊ニ歸ル

又一年國主波多野秀治旗下ノ士數百騎卒數千人ヲ督シ一ハ以テ豪興ヲ遣リ一ハ以テ武威ヲ輝サントテ冬季ノ狩獵ヲ此ノ寺山ヨリ黒坂峠ヘカケテ催フセリ其ノ第一初日ニ猪鹿狐兎ノ多クヲ擒

京都府立総合資料館所蔵

殺シ午時一休シテ又山深ク進ム所ヘ一頭ノ豪猪(ヤマアラシ)
手負ニテモ居リタランヤ六尺有餘ノ稀代ノ逸物
針金ノ如キ毛ヲ逆立テ鼻嵐吹キ木ノ根岩角ヲ蹴
リ散ラセ真一文字ニ驅ケ来ル其ノ勢ノ猛獰ナル
當タルベキ様無シ騎士中ノ豪雄荒間惣平太興友
斯クト見ルヨリ逸物ヲサシナレト山ノ岨ヨリ斜
ニ馬驅ケ寄セ五人張ニナ五束丹精込メテ射タル
一箭アハレ鏃碎ケテ跳ネ返ヘル是ハ残念ト二ノ
矢ヲ番フ其ノ間ニ勢子頭ナル大川某強弩モテ彈
丸一ツ射込ミタルニ疾走烈シキヲ以テ急所ノ狙
ヒタトレ豪猪ハ愈荒レニ荒レ猛勢百倍シ本陣目掛
ケ真驀(マフレクテ)ニ驅ケ来ル是ハ一大事ト赤松太左衛門宗

京都府立総合資料館所蔵

歩ノ衆ハ爲ン術無ク道ヲ左右ニ開キタリ豪豬ハ尚モ勢ニ乘ジ眞一文字ニ本陣ヘ衝キ入リ大將ノ麾下ニ向ハントス斯カル所ヘ忽然叢林中ヨリ獸ノ吼ユル如キ聲ヲ發シ跳リ出デタル一個ノ荒法師アリ衣ノ袖ヲ項ヘ捲キ上ゲ脛露出シ裾ヲマクリ毛脛露ニ足飛バセ豪豬ノ前ヘ向フタリト見ル間ニ武者振リ附キラヅ組ミタリケル　アナ命知ラズノ法師カナト一同汗ヲ握リ見ル内ニ　人ト豬ト一團トナリテ四五間ガ程轉廻シ木ニ當タリ岩ヲ衝キ草藪中ニ陷落スト見ル所ヘ法師ハスツ

京都府立総合資料館所蔵

繁ガ大手ヲ擴ゲテ組マントスルヲ只一突キニ三
間許跳リ飛バセ數多ノ負傷ヲ生ゼルモノカラ徒
歩ノ衆ハ爲ン術無ク道ヲ左右ニ開キタリ豪豬ハ
尚モ勢ニ乘ジ眞一文字ニ本陣ヘ衝キ入リ大將ノ
麾下ニ向ハントス斯カル所ヘ忽然叢林中ヨリ獸
ノ吼ユル如キ聲ヲ發シ跳リ出デタル一個ノ荒法
師アリ衣ノ袖ヲ項ヘ捲キ上ゲ脛露出シ裾ヲマク
リ毛脛露ニ足飛バセ豪豬ノ前ヘ向フタリト見ル
間ニ武者振リ附キラヅ組ミタリケル　アナ命知
ラズノ法師カナト一同汗ヲ握リ見ル内ニ　人ト
豬ト一團トナリテ四五間ガ程轉回シ木ニ當タリ
岩ヲ衝キ草藪中ニ陷落スト見ル所ヘ法師ハスツ

京都府立総合資料館所蔵

クト身ヲ起コシ片足モテ豬肚ヲ跳ル猪軀一轉又一輾一聲高ク吼エ山彦ニ應ヘテ悲絶エヌ之ヲ望見シテ將卒感嘆ノ聲モ亦山嶽ヲ動カサンバカリナル其ノ始終ヲ見居タル秀治ハ之ヲ馬前ニ召シ住所名字ヲ問ヒ是レナン文保寺ノ豪僧トハ知リ得テ歸城ノ後更メテ呼ビ出ダシ賞祿ヒテ士伍ニ列セシメタリ自後イザ戰爭トシ言ヘバ直ニ出デ、隨行シ昔ノ姿ソノマヽニ首ニ鉢金ヲ當テ、頭巾ヲ蒙リ法衣ノ下ニ小具足ヲ着ケ赤銅作リノ大太刀ヲ腰ニ帯シ柄ノ長サ五尺ノ大薙刀ヲ縱横無盡ニ振リ舞ハシ人馬ヲ截ルコト草薙クガ如ク大敵中ヲ翔ケ廻ハルヤ無人境ヲ行クニ異ナラズ波多野氏コレヲ得タルヤ一敵國ノ如カリシトハ今モ奥村界隈ノ一話柄

梅さくやいにしへ人の面影の忘れぬ枝ぶり　古心

西成山ハ甑算丸ト呼ブ大砦ニテ吹ノ里ニアリ天正年間幷關三之丞居住シ波多野ノ幕下タリ

高仙寺　天台宗延暦寺末　本尊十一面觀世音

開基　法道仙人　傳教大師　大伽藍トス大同年中ノ草創　二十五坊相並ブ　後山ヲ高仙寺山ト呼ブ　寺域四百二十七坪　仙ノ岩ハ開基法道仙人ノ遺址坐禪修法ノ床

上山城（カウヤマ）跡　西吹村ノ中央ナル片山ニ一城跡アリ文亀享祿ノ際ニ難波佐渡守正存其子甚存ノ居守スル所

京都府立総合資料館所蔵

首塚　難波甚存ノ子傳兵衛ハ丹波衆ト共ニ織田
氏ノ幕下タルヲ嫌ヒ西毛利氏ノ軍ニ加ハリ丹波
家（波多野ノ）ノ復讐ヲ為サントテ東軍ヲ備中高松城
ニ御ゲ東軍其ノ城ニ灌ギ城コレガ為ニ落チ城将
清水清高及ビ兄僧月清等出デ、舟中ニ自殺シ以
テ士卒ノ助命ヲ乞ヒ傳兵衛舟中ニ殉ス僕乞フテ
其ノ首ヲ獲腐シ歸リ此ニ葬ル

瓢丸城跡　瓢簞山城跡トモ云フ吹村ニ在リ天正
ノ頃井関三之丞波多野ノ幕下トシテ之レヲ守ル
茶屋ノ跡　一名亀ノ山ハ右同人ノ別邸
杉村ハ味間字土大澤三村ノ入相地ニシテ汚潦渟
滯シ夏期毎ニ十数町歩沼トナリ湖トナリ耕耨ス

ルニ由シ無シ其ノ弊年ト共ニ加ハリ戸減ジ人去
リ荒蕪益〻太甚キヲ以テ領主ノ納租皆亡ス大澤村
ノ農老杉本八右衛門コレヲ嘆キ領主ニ出願シ山
崎川味間川ヲ引キ溝渫ヲ開キテ源水ヲ導ヒキ篠
山川ニ落トス是レニ由リ泥濘一時ニ浚深シ水去
リ土出デ田成リ去民歸リ新民至リ地況前年ヨリ
昇リ租米倉廩ニ納ル領主松平氏コレヲ嘉賞シ其
ノ功ヲ録シ村名ヲ杉本ト命ゼシム八右衛門其ノ
同志同功ノ者アルヲ以テ一人ノ有ニ歸スルヲ嫌
ヒ更名セン丁ヲ乞フ領主愈〻其ノ志ニ感ジタレ此
答ミテ許サズ再三ニ及ビ本ノ一字ヲ去ルノミヲ
許シ杉村トス　八右衛門ノ此挙ニ従事スルヤ其

京都府立総合資料館所蔵

ノ手鋤ヲ操リ其ノ肩畚ヲ荷ヒ工夫ニ伍シテ勞ヲ
共ニシ且圖リ且命ジ終始一日ノ如ク遂ニ克ク一
聚落ヲ爲シタリ

乳母嫗一名女縄手ハ中野小多田ノ間ニアリ天正
ノ亂ニハ上階リ波多野氏亡ブルヤ秀治ノ次子甚
藏年甫メテ三歳乳母コレヲ抱持シ主家傳來ノ名
刀ヲ携ヘ重圍ヲ脫シテ黑田ノ庄ヘ走リ民家ニ投
ジ敵ノ毒手ヲ免ル甚藏一人民ノ庇護ニ由リ生命
ヲ保持シ八歳ノ時ニ乳母其ノ後患無キニ安ンジ
味間北村ノ谷後和泉ノ妻トナル甚藏十一歳ニテ
薙髮シ文保寺ノ沙彌トナル暫クシテ乳母沒スル後人
其ノ操ヲ嘉シ北村ノ西方六山林中ニ墓碑ヲ建ツ

惜ム可シ今無シ是藏談寺ニ於テ七父ノ菩提供養
ニ盡クセシニ中年俗緣ニ齋カレ歸俗シテ波多野
源左衛門定吉ト名乘リテ定政ヨリ子孫連續シ
安泰山大國寺ニ代々ノ墓アリ（安泰山鶴顯寺今ハ大國寺ニ入ル）風村
ノ遺跡ハ高仙寺山北ニアリ　延喜帝后妃ノ陵墓
ト言ヒ傳フルモノアリ

味間村古來茶ヲ產ス　大炉小炉アタリニ銅脈ア
リタリトテ坑迹アリ

奇特者　古佐村ノ大庄屋　森五右衛門　明和八
年三十八齡ノ時褒美アリ

孝行者　吹下村ノ無田百姓　勝右衛門及ヒ妻粂
安永八年褒美　夫四十九　妻三十四

京都府立総合資料館所蔵

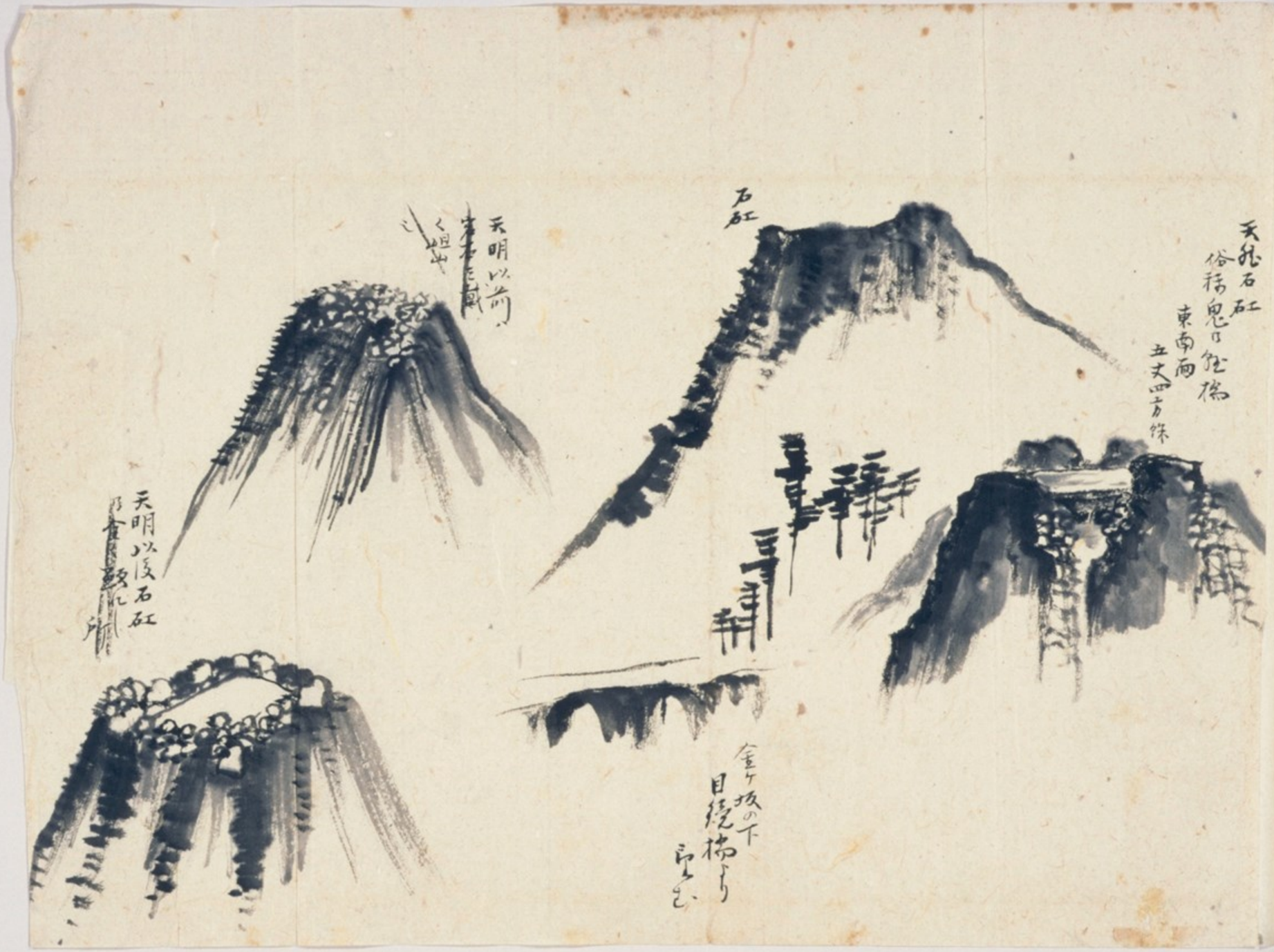
農業出精者　味間新村　五郎兵衛　四十九歳　安永八年度美
同　同　十助　六十歳　天明八年同上
同　西古佐村　六右衛門　五十九歳　同年　同上
同　杉村　五郎兵衛　六十八歳　同年　同上
同　吹中村　浅平　七十二歳　同年　同上
同　吹下村　源四郎　五十八歳　同年　同上
孝子　綱掛村　亀七　二十一歳　同年　同上
同　大澤村　源左衛門　二十八歳　同年　同上
同　同　同人父仁左衛門二十六歳　同年　同上
同　吹下村　茂七　三十六歳　同年　同上
吹村ハ古書ニ冨貴村トシタルアリ
鉄道線　篠山驛　篠山驛ハ篠山ニ在ラズシテ實

ニ此ノ村ノ大澤部落ニアリ篠山ヲ距ルヿ西南一里弱ノ所トス今ハ福知山線中ノ主要驛タリ旅客貨物ノ集散多ク　明治三十三年三月ニ阪鶴鉄道會社ノ經營セル所ニテ其ノ官有ニ歸セシハ同四十年八月トス角後線ニ整理スル所トナリ行政機關　山林保護官舍　米穀檢査所　旅館　料亭　商店等ノ增加ヲ見ル

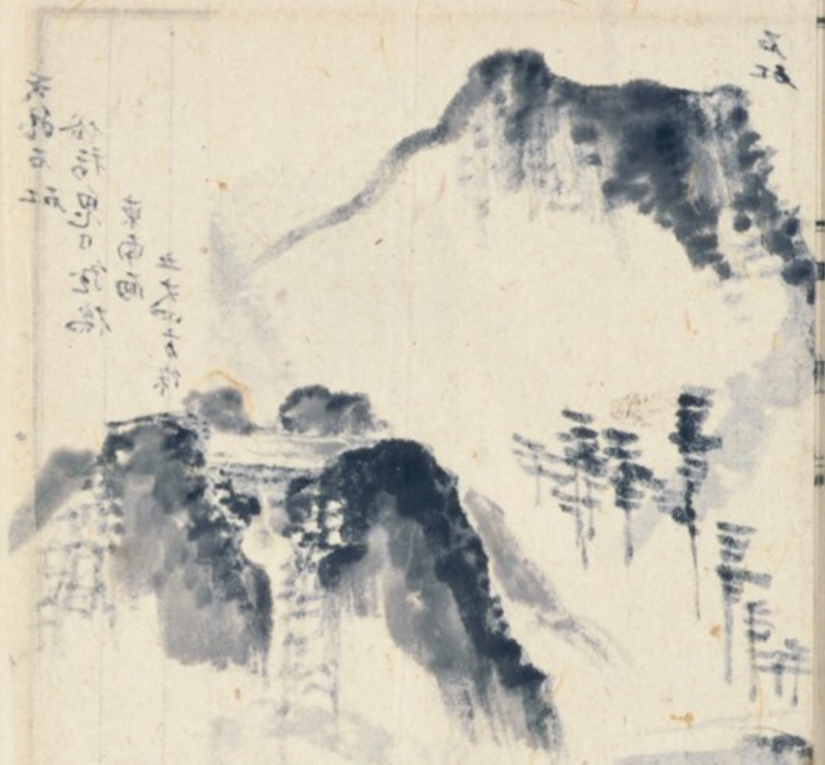
輕便鉄道　篠山人民ハ折角停車場ハ成レルモ相距ルノ不便ヲ感ジ大正四年九月十二日ヲ以テ輕便鉄道ヲ布設セリ輕便鉄道側ニテハ辨天驛ト呼ビ一驛ニシテ二名トナル

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵



大山村

大山村　大字　大山宮　大山上　大山下　大山
新　長安寺　町ノ田　高倉　石住　一印谷
追入　徳永　北野　北野新田　東河内
明野　荒子新田

村ノ位置ハ郡ノ西北端ニアリテ西北ハ氷上郡ニ
界シ南方ハ味間村ニ東方ハ北河内南河内ノ二村
ニ疆ス　山嶽三方ヲ擁シ東方僅ニ通出スルノ便
ヲ開ク　村名ヲ呼ブニハヲホヤマト言ハズヲヤ
マト言フ諸部落皆然リ

戸　明治三十八年五百四十三　同四十三年五百
四十　大正四年五百二十五
人　同三十八年二千九百〇四　同四十三年二千

京都府立総合資料館所蔵

八百五十九　同大正四年二千八百九十八

高帳寫　七百五十八石　大山上村　七百六十一石　大山下村　八百九十八石　大山中村　百十二石　追入村

此ノ邊一帯古史詳ナラズ中古中澤家ノ手ニ入リタルモノヽ如シ　大平記ニ曰ハク建武二年十二月丹波國ヨリ碓井丹波守盛景早馬ヲ立テ申シケルハ去ル十二月十九日ノ夜當國ノ住人久下彌三郎時重（秋上郡久下村波々伯部次郎左衛門尉本郡日置郡ノ部ニ出ダス）村ノ部（参看）中澤三郎入道（下文参看）ヲ相語ラヒ守護館ヘ推寄ル間防キ戦フト雖モ劫破不慮ニ起ル因テ味方破レ摂州ヘ引返ル云々　當地ニ存スル古文書ノ内

讓渡所領之事

一　上野國多胡庄内今泉田在家事

一　丹波國遊樂庄西村地頭職并安延名事

一　同國大山庄清得名事

一　同國大山庄内一分地頭名迹并重久名金光半名等中澤七郎左衛門入道跡買德相傳田畠事

一　武藏國本○郷内和田村藤三六入道○在家○○○○

一　讃岐國多○郷内うなさかのやしろ之事

右所領者信明相傳當知行無子細地也

明德元年庚午歳八月三日　壹岐守信明（印）

京都府立総合資料館所蔵

丹波ゟ見ると高き山ゟ登りて次ぐとゝ
ゝふと云へバ山と云ふ　長明

それと都の見えす登りてハたゝやくらん次らきの山

此ノイフラキハ前文ノ遊樂ナルベシシガラキヲ
信樂ト書クニ同シキ數
高倉　名寄ニ出ダセル名所高倉山ハ此所乎

金山　高倉山のふもとの里なれハつゝ〻ら稿ゞ野もしられす　正家

此ノ山ハ天正六年明智光秀ガ設計築城シ朽木矢
嶋等ヲ籠メ置キ黒井ノ赤井直政ガ八上ノ波多野
ヲ援ケンガ爲ニ往來セル通路ヲ絶チタル所　時
ニ東西ノ固メハ業已ニ破レ東ヨリハ織田七兵衛尉
信澄ヲ大將代トシテ維任光秀龍川一益以下長岡

兵部大輔父子西ヨリハ織田上野介信包同三七信
孝羽柴小一郎平井將監坂井越中佐々内藏助不破
河内守金森五郎八蜂屋兵庫頭蒲生忠三郎以下大
凡ノ十萬餘ノ軍兵山ニ充チ野ヲ埋ミテ陣ヲ取ル
毛利家ヨリハ吉川元春小早川隆景五萬騎ヲ帥ヒ
來リテ高倉山ニ陣シ丹波家ノ援軍トシテ相向フ
秀吉三十四所ニ要害ヲ攝ヘ援軍ノ通路ヲ中斷シ
タルヲ以テ西南ハ丹波家ノ滅亡ヲ見殺シニシタ
ルゾ哀レナル

古城　大山下村ノ北方鐘ケ坂隧道南方ニ岐立シ
タル山アリ高サ五百三十七メートルアリ追入ア
リ十八町トス麓ニ大門迹馬場迹下馬所迹番所迹

京都府立総合資料館所蔵

ナドアリ天正ノ頃長澤兵部大輔義遠ガ波多野氏ノ為ニ東將明智氏ヲ悩マシタル所ナリ東軍ノ攻擊日ヲ逐フテ激烈ヲ加ヘ織田十兵衛ノ兵ニ攻メラレ義遠戰没シ城寨落ツ　此ノ長澤ハ丹波衆ノ中ニテモ名家ナリ元ハ武州秩父ノ末葉ニシテ祖先ノ兵部大輔某來リ大山ノ澤地ヲ相シ山ニ據リテ小寨ヲ築造シテ居守シタルガ足利尊氏旗揚ノ際久下氏ト共ニ今ノ築山ノ地ニ會ス義遠ニ至ル迄連綿タリ義遠歿後家老ノ齊藤伊豫モ亦没ス伊豫ノ第六大夫ハ主人ノ孤兒ノ六歳ナルト四歳ナルトヲ携ヘ孤兒ノ母ト共ニ追入村ニ潛匿シ居タリシガ東軍ノ手ニ捕ハレ野々口西藏坊ニ由リ本目城ニ置カル信長落命ノ後出デヽ逃レ兄ハ美作ニ赴キ稲葉家ノ臣籍ニ入リ第ハ老母ヲ介抱シテ黒井ニ住ス亀山城主岡部内膳正之ヲ啓ミ合力米ヲ與ヘタリ兄ノ名ハ忠右衛門第ハ惣右衛門　此ノ家系ハ藤原武智麻呂ニ出デ其ノ裔孫ナル忠門ナルモノ攝津ノ永澤ニ居リ以テ姓トシ後ニ丹波ニ移リ永ヲ長ニ改メタリト云フ　源義經ニ妾出ノ子アリ妾ハ長澤六郎遠種ノ女ナルヲ以テ長澤ノ嗣トシ姓ヲ源氏ニ換フコレヲ義遠ノ祖先トストモ云フ其ノ時已ニ長ノ字ヲ用ヒタリシニヤ

中澤家紋

一ニ長澤ノモノトモ云フ

京都府立総合資料館所蔵

式内　神田神社　往古ノ地名神田郷ヲ以テ名ト
ス　大山上村ノ北山下ニ鎮座アリテ一ノ宮ト呼
ブ　篠山ヨリ二里半餘西方ニアリ　祭日重陽節
古時両部ニテ社僧管理ス　社名神宮寺　中村高
藏寺末　大寶二年勅請　神主ハ圓形ノ銅　別ニ
阿彌陀ノ木像アリ共ニ龕中ニ秘藏セリ木像ハ明
智軍焼攻ノ時ニ亡失ス　舊社地ハ今ノ社地ヨリ
北五町計ノ所ニアリテ奥大山谷ト呼ベリ垢離場
御手洗川田ヶ鼻鉾立ノ地ナドノ故址アリ　祭神
大己貴命　合殿ニ須瀬姫命　大山津見命ヲ祭ル
大山十五ヶ村（畜村）ノ氏神ナリ　古制ノ神田地ニ
シテ神田是卽不税田也　総有崩壞侵食不可更復加

授也ト言フ文書アリキ　古稱神田ヲ大山ニ改メ
タルハ足利氏ノ頃カ
白河天皇ノ承保元年大山御ニ於テ抜穂ノ式ヲ行
ハセラルトアルハ此ノ地ニテ萬延二年有志者石
碑ヲ建テ其ノ事ヲ記セリ　明治十二年五月十五
日郷社定格　境内九百九坪　末社ハ八幡　嚴嶋
愛宕ノ三社トス　社僧ノ坊アリ佛壇アリ梵鐘ア
リキ

大嘗會主基方稲臼歌　大江匡房

み早振神田の里乃いねなれハつきひとゝるゝ久しかりへし

寶物十數件アル中ニ足利將軍ノ御敎書アリ曰ハ
ク

京都府立総合資料館所蔵

君義持公被任征夷大將軍ヶ長久ミ祈願
無懈怠樣先將軍ミ御吉例を以て八社中
ヘ被申觸者也

應永六年十月　　執事細川右京大夫　滿元（判）

丹多記八社ミ年番

大山一宮社坊中

村ノ西北端永上郡ニ接スル一大山脈中ノ最高峰
ニ金山アリ一千七百七十二尺ノ高位ヲ保ツ銅脈
舊坑其ノ南ニアリ荒子新田ニ屬ス金山ノ稱コレ
ヨリ出ヅ

金山城迹ハ追入村ニアリ天正年間明智氏ノ臣朽
木矢嶋等居守シ黒井城主赤井直政ガ八上ヲ援ク
ルノ途ヲ塞ギタル所ニテ接戰幾度ヲ經タルモノ
ト云フ

鐘ケ山ノ石橋一名鬼ノ懸橋ハ追入山中ニアリ天
然ノ一大長石ガ溪澗ニ區架セラレタルモノニシ
テ奇觀タリ天明以前マデハ岩石ヲ戴ケル峘山ナ
リシガ大雨ノ爲ニ又ハ雪解ノ爲ニ今日ノ如キ形
體ヲ爲セルモノ謂ハ所ル石門石柱ノ類ナリ東南
面四五間モアルベシ追入ヨリ登臨スルニ半腹ノ
寺マデハ路アリ以上ハ樸藪ヲ判ケ岩石ヲ踏ミ勇
往セザル可ラズ漸登リ矼上ニ坐シ眸ヲ放ツテ四
顧スレバ衆山肩ヲ駢ベテ波濤ノ如シ山城ノ諸山
ヲ望ムベク福知山ヲ瞰ルベシ山中ノ寺ハ妙見大

京都府立総合資料館所蔵

士ヲ祭リ常ニ賽者ヲ呼ブヲ以テ半途マデハ北道
主人ヲ煩ハサス
瓶破峠ハ追入ヨリ氷上郡栢原ニ達スル路中ノ嶮
路ナリ此ノ名ノ由リテ起コル所以ハ立杭ニ産出
スル（今田村ノ一部参看）瓶類ヲ荷擔シテ通行スルモノガ
路扶ク岩多キガ爲ニ往々破損スルヨリ出デタル
モノトカヤ今時壺ト呼ブモノ古人ハ之ヲカメト
云フ猶尾濃邊ニテハ今時尚此ノ古言ヲ用フルニ
同ジ　寶暦年間大阪ノ一商人年老イ諸國觀音巡
拜ノ序デ此所ヲ過ギリ其ノ事實ヲ目擊シ牛馬ノ勞
苦ヲ見テ大ニ感ズル所アリ直ニ國領村ノ庄屋許ヘ
赴キ腰壇ヨリ金貳拾兩ヲ割キ之ヲ托シテ開修ノ
資ニ供ス庄屋大ニ其ノ義舉ニ感ジ之ヲ村民ニ謀
ル村民モ亦平素其ノ嶮峻ノ苦ヲ嘗メ盡スヲ以テ
同志者屬出シ以爲ヘラク無關ナル他國人ニシテ
此ノ大金（當時ノ金一兩サヘ容易ナラヌ高ナリ）ヲ惠マルヽニ吾等コ
レヲ傍觀スベキニ非ズトテ擧リテカヲ出ガサン
ト云フ依リテ之ヲ追入村ニ謀ル追入村人ノ言亦
同ジ便ヲ戮合シテ設計シ修行シ數閲月ニシテ竣成
シ瓶割ノ名存シテ其ノ實去ル一商人トハ誰ソ平
野町ノ明石屋武右衛門ト呼ブ佛教信者ナリ
明治十六年更ニ開修シテ車道トス　費金一千八
百八十六圓
追入栢原間舊賃價格　一荷銀一匁五分ヨリ二匁

マデ　牛ハ之ニ倍ス　開鑿後ハ一車ニハ荷分ヲ
積載シ一人之ヲ引ク此ノ賃金四十錢ヨリ五十錢
銀相場一匁ハ錢六七十匁位
京都大阪ノ仕込荷物ヲ但馬ヘ運搬スル舊要路
但馬ヨリハ鰈昆布等ノ海産ヲ送ル所　同年十月
十三日開通式ヲ擧行ス農商務卿西鄕從道兵庫縣
令森岡昌純等之ニ臨ム

事成自同　鑿山化居

明治十二年八月　磯仁書
三條實美

隧道百四十餘間　工夫六萬三千
餘人力　費金四萬圓餘　内四分
ノ一ハ縣廳ヨリ補助ス　日數三
十四閲月　爲領主青山忠誠以下
寄附金二千圓ヲ投資シタルモノ

ハ姓名ヲ刻セル石標アリ　氷上郡ヘ出ル洞口ニ
男爵田健次郎ノ撰文石碑アリ田氏ハ柏原人ナリ
此ノ所ヘ後年花樹ヲ栽植セリ　織田信純以下金
一萬四千九百六十一圓二十一錢ノ記名標モアリ
熾仁親王ハ有栖川宮ナリ三條實美ハ太政大臣ナ
リ

大澥　大川澥又ハ大川澥代トモ云フ十餘町ノ長
滑ハ多紀氷上ノ郡界ヲ爲シ兩岸絶壁ニシテ河底
一高一低潭トナリ瀨トナリ篠山川線中ノ勝區タ
リ其ノ大澥ト言ヘルハ南河内ノ少將山ニアル小
澥ニ對シテ呼ビ出ダセル名ノミ初夏ノ候藤花ニ
宜シ下流ハ氷上ノ久下谷ニ入ル大山下村　長澤蘆雪ハ

京都府立総合資料館所蔵

大山下村ノ産ナルガ家ノ貧キヲ以テ處々ニ流轉シ坂本村ニ居ラモ活路ニ艱ミ去ツテ篠山藩士ノ家ニ僕奴トナリタルモ性太〻畫道ニ適スルヲ自知シ又去ツテ京ニ入リ圓山應擧ノ名ヲ慕ヒ貲ヘ置ケルヲ許ノ金ヲ束脩トシテ其ノ門ニ入ルヿヲ得タリ之ヲ久フシテ其ノ技進マズ遂ニ師ノ瘦竹ニ遇ヒ失望シテ鄉ニ歸ラントシ茫々トシテ淀川提ニ到ル時ニ嚴冬雪四山ニ滿チ河水半〻氷ル偶〻氷下ニ聲アリ之ヲ看レバ氷少シク碎ケテ鯉魚跳リ枯蘆上ノ雪片ヲ呑マントスシテ一跳一沉スルヿ數回最後ノ一跳遂ニ其ノ一小塊白ヲ含ミ一潑刺シテ悠々水底ニ入ル失望落膽ノ畫工ハ技能ト教訓ヲ

茲ニ得テ直ニ之ヲ懷中ノ紙ニ寫シ復〻京ニ入リ之ヲ師ニ示ス應擧一見シテ大ニ驚キ之ヲ遇スル尊キヲ加フ蘆雪ノ号ノ由リテ出ヅル所ナリ世人コレヲ以テ淀産ノ人トスルハ誤レリ自後名ヲ魚字ヲ氷計トセリ

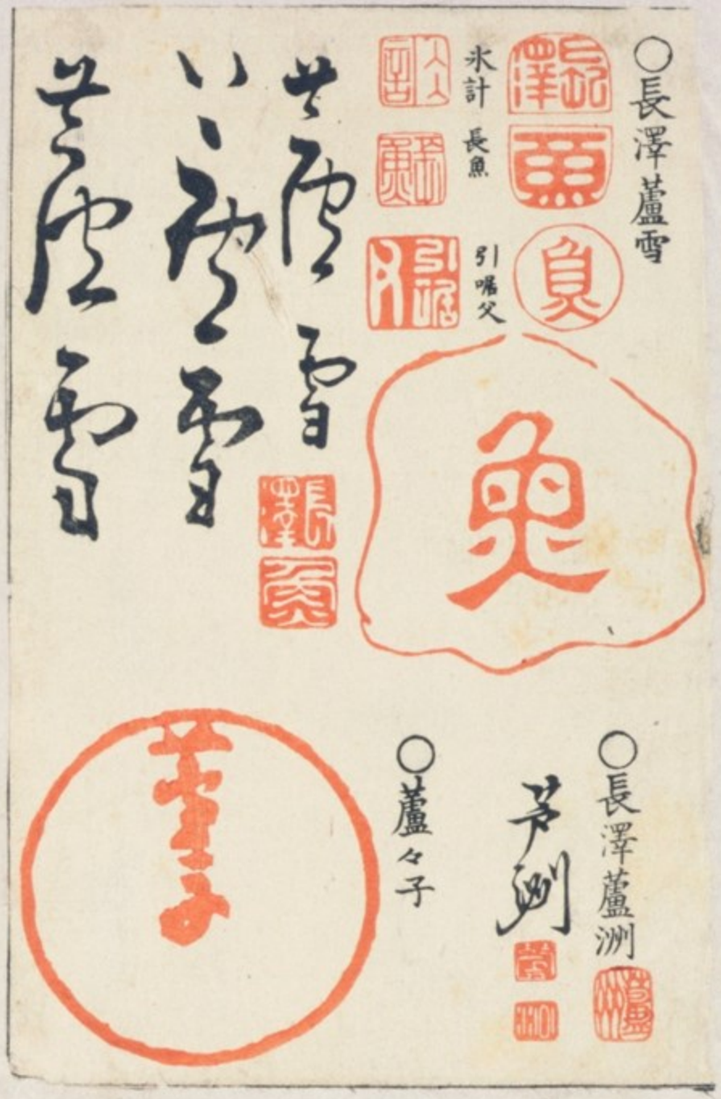
寛政元年禁裏造營ノ擧アリ特選セラレ常御殿ノ畫ヲ拜命シ春山春鳥夏山夏鳥ヲ物シテ大ニ聲譽ヲ博セリ時アリテ世人ノ意表ニ出ヅル所ヲ物シテ意ヲ弄ベリ　一日其友皆川淇園ト謀リ祇園ノ寺ニ於テ畫ヲ作リ賣ヲ爲シ之ヲ賣ル數日ニシテ若干金ヲ得タリ輙相共ニ妓樓ニ散財ス

蘆雪ヲ淀藩ノ士トスルハ同藩ノ繪師トナリ子蘆

洲カ其ノ藩士トナリヲ以テナリ

同十一年六月八日歿ス京都御前通リ一條下ル東堅町東側回向院ニ葬リ寺門ニ石標アリ蘆雪ノ墓此ノ寺ニアリト刻ス　墓石ニハ南舟院澤譽長山蘆雪居士ト刻ス義子蘆洲名ハ鱗字ハ呑江弘化四年十月廿四日歿ス同寺ニ葬ル松林院長譽鶴翁蘆洲居士妻壽松院光譽明室貞照大姉夫妻ノ墓モアリ蘆洲モ亦画名アリ

京都府立総合資料館所蔵



園田庄十左衛門ハ大山宮村ノ人其ノ家世々大庄屋タリ（然論ニ出ダス）農事ニ務メ儉約ヲ守リ上ニ事ヘテ忠ニ下ニ臨ムヤ恵ニ能ク諸村庄屋ノ師率トナレリ　天性至孝父多年癲狂スレドモ效驗ナシ　今ヤ神佛加護ノ外ニ縁ルベキ道無シトテ病人自身四國ノ大師巡拜ヲナサントス親故ソノ危殆ヲ懼レ交諫ムレドモ頑焉聞カズ庄十ソノ代拜巡國ヲ爲サントセヘドモ許サズ乃チ相隨フテ途ニ上ル輿行船行シテ讃岐ニ到ル山ノ法ハ乘輿ヲ許サズ　便チ父ヲ負ヒテ急坂ヲ攀チ腰ヲ推シテ後路ヲ行キ一日ニ一里乃至二里程漸ニシテ伊豫ノ雲平寺ニ詣リ下山ノ途中一大怒牛ノ咆

京都府立総合資料館所蔵

嗜疾走シ來ルニ逢フ　路狹クシテ左右懸崖コレヲ避クルノ方無シ父子ノ命迫ル在ナ背上ノ病父ヲ卸シテ地ニ伏セ身ヲ以テ其ノ上ヲ覆フ車ニシテ怒牛ノ跳過スルヲ以テ父ヲ勞ハリ手ヲ執リ背ニ負ヒナドシテ山路ヲ下リ吉野村ニ至ルヤ父ノ病勢頗ニ革ル村醫ヲ旅舍ニ迎ヘ診セシム曰ハク治ス可ラズ急ニ歸リ自家ニ於テ撫養スベシ或ハ暫ク持續スベキヤト便チ船ニ乘リ父抱進藥スル中ニ瞑目ス在ナ號哭悲慟スルモ船人無情速ニ屍ヲ海ニ投シテ不淨ヲ掃ヘト迫マル在ナ泣キ訴ヘテ曰ハク今吾ガ父ヲ水葬セン乎後日何ノ面目アリテ鄉里ノ父老家族ニ逢フベキヤ船中屍體ヲ置ク可ラズンバ速ニ陸ニ上ゲヨ如何ナル山谷林野ニテモ可ナリ之ヲ脊ニシテ歸ルベシト語氣至誠一船ヲ感動セシメ復タ棄屍ヲ云爲セズ船播磨ノ飾磨灣ニ入ルヤ屍ヲ負フテ上陸シ棺ヲ買ヒ人ヲ雇ヒ之ヲ荷ハセ護送シ日ヲ經テ家ニ歸リ厚ク之ヲ葬レリ此ノ事四方ニ喧傳シ遂ニ藩主ノ聞ク所トナリ米三俵ヲ下賜シテ孝志ヲ賞シ畢生二人扶持ノ恩賜アリ　文政年間ニ村民ニ不穩ノ事アリテ鄉訴ニモ至ラントス竊ニ之ヲ報ズルモノアリ在ナ倉皇往キ諭ス語未タ了ラザルニ黨與ノ散スルモ其ノ半ニ過ギ事成ラズシテ休ム其ノ篠山ニ至ルヤ公事終レバ二里ノ路ヲ必歸ル而夜雪タ亦然リ在

京都府立総合資料館所蔵

屋皆宿屋ニ入ル之ヲ抑留スル者アレバ辭スルニ
老母ノ我ガ歸ルヲ待ツアリト善行年一年ヨリ進
ム藩主終ニ七人扶持ヲ給シ士伍ノ列ニ序ス
孝子　長七　町田村百姓藤右衛門ノ子　天明八
年褒賞　年二十九
農業出精者　大宮村　李右衛門　三十八歳　一印
谷村　五兵衛　三十二歳　東河内村　德兵衛　六十
三歳　同年同事

南河内村　大字　黒田　川北　川北新田　口坂本
西坂本　西谷　高屋　東木部　西木部
川西
北ニ北河内アリ南ニ味間アリ東ニ岡野アリ西ニ
大山アリ四村モテ圍遶ス北河内ニ當タル中央ハ
凹レ味間ト大山トニ當タル所ハ西ス凹角兩端ノ
外ハ率ネ平坦本郡諸村ニ於テ得易カラザル好地域
ヲ占ム
和名抄ニ出デアル河内鄉及ビ中古宮田莊北河内村
ト稱セラレタル地ハ今ノ南北河内村ナリ
戸　三百六十八　明治三十八年　三百五十　同四十三年
三百四十二　大正四年

京都府立総合資料館所蔵

人一千九百十七 明治三十八年一千九百四十九
同四十三年一千九百二十六 大正四年

水帳寫 三百七十石黒田村 六百八十三石川北村 三百五十石木部村 文久年度二百七十五石西谷村 二百二十四石高谷村 三百十石坂本村

琵琶渕ハ大阪街道ノ傍ニ在ル小池ナリ古時ニ於ケル琵琶渕ハ其ノ名ノ艶艷ナル丈ノ趣アリテ池水曲流シテ林樹其ノ中外ニ蓊鬱シ禽鳥和鳴シ游魚浮沉シ世煩洗フ可ク雅懷養フ可キ所ニテ小断崖細絶壁サヘアリ其ノ少將山ハ宮田川ガ篠山川ニ入ル傍ニ在リ川底ノ大岩水流ヲ堰留シ溢出セシムル所小瀑トナリ激瀧トナリ彈琴渕ノ名實相協フ所トナル

口碑ニ據レバ承安ノ頃高倉天皇御宇藤原少將成經本州北桑田郡宇津村ノ部ニ出ヅ或ハ云フノ守トシテ此所ニ館スト

南北朝ノ頃ニ千種忠顯ノ第少將顯經賊軍ノ爲ニ逐ハレ此所ニ遯隱セシガ正平七年後村上天皇吉野ニ遁レ玉フヤ足利義詮ノ軍南侵シ官軍ノ勢益微ナリト聞キ顯經志ヲ決シテ再起シ此ノ行ヤ再還ラジト發スル前一夕愛スル所ノ琴ヲ弄シ琵琶ヲ彈ジ遂ニ之ヲ江下ノ水底ニ投ゼリト

坂本ノ五坊ガ谷一名倉本池ハ城南村ノ鍋塚池ト共ニ郡中ノ巨浸ナリ

京都府立総合資料館所蔵

奇特者ノ賜アリ

明八年褒美

農業出精者　善七同年褒美ノ賜アリ同年五十九歳　同所ノ人

農業出精者　甚助右ニ同ジ同年同齢黒田ノ人

名産黒大豆　川北ノモノヲ最トス産地僅ニ三四畝歩ノ所味太美ナリ毎粒白點ノ品字形アルモノ最良ナリ俗ニ言フ川北大豆ニハ目鼻ガアルト粒小ニシテ熟煮シテ皮切レズ馬路小豆ノ腹ヲ切ラヌト言フニ似タリ南桑田郡馬路村ノ部ニ出ス京阪ノ雑穀商店ニテ篠山大豆ノ名ヲ以テ賣ルモノアリ粒大ナリ人視テ以テ大ナルヲ良品トスルハ誤ナリ

京都府立総合資料館所蔵

奇特者　太郎右衛門ハ大庄屋ニテ天明八年褒美ノ賜アリ時ニ六十一歳木ノ部ノ人

農業出精者　善七同年褒美ノ賜アリ同年五十九歳　同所ノ人

農業出精者　甚助右ニ同ジ同年同齢黒田ノ人

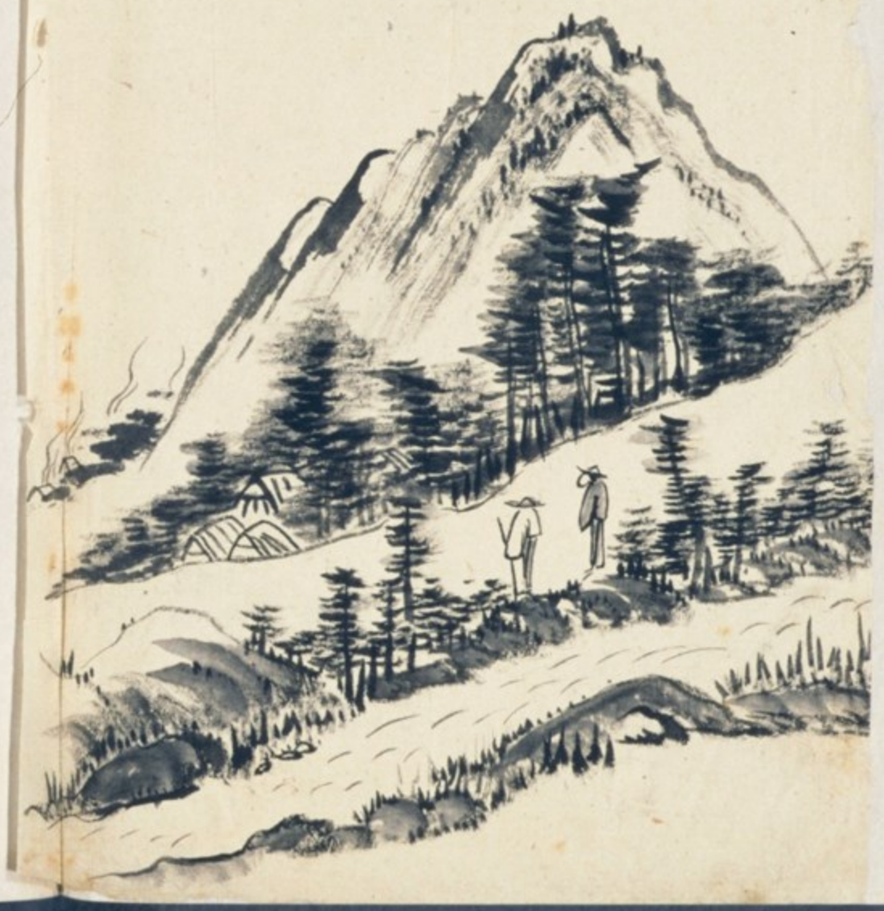
名産黒大豆　川北ノモノヲ最トス産地僅ニ三四畝歩ノ所味太ク美ナリ毎粒白點ノ品字形アルモノ最良ナリ俗ニ言フ川北大豆ニハ目鼻ガアルト粒小ニシテ熟煮シテ皮切レズ馬路小豆ノ腹ヲ切ラマト言フニ似タリ南桑田郡馬路村ノ部ニ出ダス京阪ノ雑穀商店ニテ篠山大豆ノ名ヲ以テ賣ルモノアリ粒大ナリ人視テ以テ大ナルヲ良品トスルハ誤ナリ

京都府立総合資料館所蔵

草山村人工温泉

湧出窟　浴室　旅亭

京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵

十一様行人ノ歩ヲ移スニ従フテ形変ジ態稍ハリ立ツモノハ臥スモノヲ掩ヒ一頭砕ケテ数角出デ看過スルニ應接ノ遑アル無シ是レ須知街道ノ概観ナリ　此ノ間ニ溪流アリテ香魚上下ス

京都府立総合資料館所蔵

草山村　大字　本郷　川坂　遠方　桑原

此ノ村ハ西方氷上天田ニ北方天田船井ニ東方船井ニ接シ三郡ニ包マレ西南ニ北河内南方ニ畑東南ニ村雲東南ニ大芋ノ四村ヲ以テ限ラレタリ

南方三大嶽逼儕シ高峻摩天ノ勢アリ八ケ尾東位ニアリ金ガ嶽中位ニアリ深嶽西位ニアリテ相連ル峯巒大小合シテ十一尖直立スルモノ横臥スルモノ倒レントスルモノ起タントスルモノ十一個十一様行人ノ歩ヲ移スニ従フテ形変ジ態稽ハリ立ツモノハ臥スモノヲ掩ヒ一頭砕ケテ数角出テ看過スルニ應接ノ遑アル無シ是レ須知街道ノ概観ナリ　此ノ間ニ溪流アリテ香魚上下ス

京都府立総合資料館所蔵

高帳　文久度　草山村五百四十六石

産物　木炭　砥石　本郷

農業出精者　本郷百姓　権助五十九歳　天明八年褒賞セラレタリ

戸　三〇五　明治三十八年　三〇四　四十三年　三〇七

大正四年

人　一四六六　明治三十八年　一五〇七　四十三年

一五一七　大正四年

天正年間ニ細見宗信ナルモノアリテ城郭ヲ此ノ地ニ築キ波多野ノ臣籍ニ加ハリ之レガ為ニ守ル波多野秀治　秀治明智光秀ヲ黒井城ニ誘ヒ親ラ其ノ營ヲ撃チ赤井直政ヲシテ急ニ城兵ヲ放ツテ之ヲ衝撃セシム東軍潰ヘ将士折ケ混ジテ東走ス宗信又畑守能ト秀治ノ命ヲ奉ジ追撃ス東軍狼狽シテ又走ル更ニ之ヲ鼓怒ニ要シ其ノ走路ヲ絶チ又撃チ敗ル東軍大半ヲ失ヒ光秀僅ニ身ヲ以テ免ル

人工温泉アリ僻地ナガラモ浴者ヲ引ク此ノ泉水ハ湧出ノ塩泉ナリ土中ヨリ汲取リ火加減ニテ温煖ニシ浴湯トス是レハ大古ヨリノ湧泉ニシテ絶エズ醱沸シタルニ之ヲ顧ミルモノ無カリシヲ明治ニ至リ廢物モ利用セラルヽノ折柄同二十七年有志者相謀リ新ニ浴室ヲ設ケ浴客ヲ引クヿヲ始メタリ

塩壺トシテガ有ル一間半ニ一間ノ屋根ト圍ヒヲ設

京都府立総合資料館所蔵

ケ而水塵埃ノ防ギトス此ノ泉水ニ塩味アリ溪流中ノ岩石ニ結晶斑々タリ之ヲ舌上ニ置ケバ鹹シ一小溪流ヲ隔テヽ旅亭アリ浴客常ニ止宿シテ湯治ス此ノ湯ノ效能ハ胎毒疥癩ヲ治ストヱフ

汲メバ汲ム程塩氣多ク出デ且鉄分ヲ含有　浴客四五人多クテ十人　後川ニ比スレバ一籌ヲ輸ス

後川村所ハ字遠方ノ西端ナリ人家ニ遠ク飲食品ニ乏シ　潮池アリ村西ノ字寛ニアリ干満スルコト潮汐ノ如シ岩塩ヲ製スベシ

大久保一里半　福知山六里　篠山四里半　須知五里

春日明神社　本郷ニ在リ寥者ノ迹ヲ絶タス社頭ノ鈴、清ハ束ヲ爲シ把ヲ爲スモノ三所ニ縋ス蓋シ兒ヲ得シト願フ者ト其ノ得タル者トガ木綿ノ緒ヲ結ヒ付ケタルナリ寥者間ガ参詣ノ途ニテ語ヲ交ハセバ明神ノ授クル嬰兒ガ相手ノ家ニ生レテ乞願者ノ家ニ生マレズト故ニ相遇フ所ノ者ガ如何ニ言フトモ語ルトモ寥者ハ堅クロヲ緘シ只笑フノミ相手モ頭ヲ氣付キ亦笑フテ別ル行路者ノ路ニ迷フアリ遇フ人毎ニ方角路程ヲ問フニ皆笑フテ答ヘズ其ノ人曰ハク此ノ邊何ブ唖者ノ多キ乎ト一樵者ニ逢ヒ漸ク方向ヲ知リ其ノ故ヲ知リ奇習ニ驚キタリトカヤ

四字恕久別　田八十九町二段　畑六十二町五段

京都府立総合資料館所蔵

宅地三萬四千八百五十坪　山林原野一千七百
零七町　其ノ他
直接國税二千一百六十一圓　縣税一千二百二十
五圓

茯苓（ブクリヨウ）ハ漢方醫ノ用藥ナリ山中松樹ノ下ニ於ケル土中ニ在リ之レヲ掘ル者鍬杖ノ尖レルモノヲ以テ土中ヲ刺ス杖尖ニ鋼鐵アリ茯苓ニ當レバ手ニ應ジ吸引スルモノヽ如シ乃チ鍬ノ如キモノニテ掘ル一尺乃至二尺ノ深サニ至リ之ヲ得コレヲ茯苓ツキト呼ビ專門ノ職業ニテ常人ノ能クスベキ所ニアラズ　經驗熟錬セザレバ地上ニ於テ地中ノ有無ヲト知ス可ラズ將又其ノ鋼鐵感應

ノ有無ニ於テ猶更注意敏捷ナラザル可ラズ　之ヲ得レバ洗濯シ乾燥シテ藥舗ニ售ル極メテ廉價ノモノニテ利水劑トシテ用ユト云フ　洋方開ケテヨリ漢藥廢タレ今ハ之ヲ掘ルモノ無シ　茯苓ノ形ハ蕃薯ノ如ク大サ亦畧同ジ大小一ナラズ其ノ色淡赭ナリ

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵